

平成25年度 キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA 団体等の推薦調書 目次

- <北海道>
 - 帯広市立豊成小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 北海道札幌稲穂高等支援学校・・・・・・・・・・・・ 1
- <青森県>
 - 板柳町立板柳中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - 青森県立名久井農業高等学校・・・・・・・・・・・・ 3
- <岩手県>
 - 普代村立普代小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - 普代村立普代中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- <宮城県>
 - 東松島市教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 大崎市立古川中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 宮城県涌谷高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - 特定非営利活動法人ハーベスト・・・・・・・・・・・・ 10
- <秋田県>
 - 大館市立成章小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- <茨城県>
 - 鹿嶋市立平井中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - 日立市立日立特別支援学校・・・・・・・・・・・・ 13
- <栃木県>
 - 宇都宮市立西小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - 白鷗大学足利高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- <埼玉県>
 - 深谷市立深谷小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
 - 三郷市立彦成中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- <千葉県>
 - 栄町教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
 - 佐倉市立佐倉東小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
 - 千葉県立流山北高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
 - 千葉県立特別支援学校流山高等学園・・・・・・・・・・ 19
 - 千葉県立成田北高等学校PTA・・・・・・・・・・・・ 20
- <東京都>
 - 板橋区教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
 - 杉並区立天沼小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
 - 東京都立小山台高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
 - 中村中学校・中村高等学校・・・・・・・・・・・・ 23
 - 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク・ 23
- <神奈川県>
 - 横須賀市立不入斗中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
 - 神奈川県立瀬谷西高等学校・・・・・・・・・・・・ 24
- <新潟県>
 - 胎内市立築地中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- <富山県>
 - 富山県立雄峰高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

<福井県>	
福井県立福井農林高等学校	27
福井県立敦賀工業高等学校	28
<山梨県>	
山梨県立上野原高等学校	29
山梨県立谷村工業高等学校	30
<長野県>	
辰野町塩尻市小学校組合立両小野小学校	31
塩尻市辰野町中学校組合立両小野中学校	32
長野県屋代南高等学校	33
<岐阜県>	
瑞穂市立穂積中学校	34
岐阜県立長良特別支援学校	34
<静岡県>	
御殿場市立御殿場小学校	35
伊東市立宇佐美中学校	36
静岡県立御殿場高等学校	37
<愛知県>	
半田市教育委員会	37
田原市立田原中部小学校	38
江南市立宮田中学校	39
愛知県立豊橋商業高等学校	40
<三重県>	
亀山市教育委員会	40
東員町立稲部小学校	41
鈴鹿市立平田野中学校	43
三重県立津商業高等学校	44
<滋賀県>	
近江八幡市教育委員会	46
彦根市立鳥居本中学校	46
<京都府>	
京都府立海洋高等学校	47
<大阪府>	
高槻市立富田小学校	48
高槻市立赤大路小学校	49
高槻市立第四中学校	49
<兵庫県>	
兵庫県立猪名川高等学校	50
兵庫県立東灘高等学校	50
<奈良県>	
五條市立西吉野中学校	51
河合町立河合第二中学校	52
奈良県立登美ヶ丘高等学校	53
<島根県>	
島根県立宍道高等学校	53

<広島県>	
呉市立呉中央小学校	5 4
東広島市立安芸津中学校	5 5
広島県立松永高等学校	5 6
広島県スーパーマーケット協会	5 7
<山口県>	
萩市立萩東中学校	5 8
山口県立熊毛北高等学校	5 9
<徳島県>	
美馬市立岩倉小学校	6 2
美馬市立岩倉中学校	6 3
徳島県立徳島商業高等学校	6 4
<香川県>	
丸亀市立東中学校	6 6
<愛媛県>	
新居浜市立神郷小学校	6 6
愛媛県立松山工業高等学校	6 6
愛媛大学教育学部附属特別支援学校	6 7
<高知県>	
高知県立須崎工業高等学校	6 8
<福岡県>	
古賀市教育委員会	6 9
水巻町立伊左座小学校	7 0
みやこ町立久保小学校	7 0
福岡県立筑後特別支援学校	7 1
福岡県立伝習館高等学校父母教師会	7 2
<佐賀県>	
佐賀市立神野小学校	7 3
武雄市立武雄中学校	7 3
佐賀県立伊万里農林高等学校	7 5
<長崎県>	
長崎県立島原商業高等学校	7 6
<熊本県>	
熊本県立荒尾高等学校	7 6
熊本国府高等学校	7 7
熊本県立荒尾支援学校	7 8
<大分県>	
大分県立津久見高等学校海洋科学学校	7 9
<鹿児島県>	
与論町教育委員会	8 0
日置市立伊集院北中学校	8 1
鹿児島県立鹿児島水産高等学校	8 1
<沖縄県>	
沖縄県立宜野座高等学校	8 3

<仙台市>	
仙台市立寺岡小学校	8 3
仙台市立吉成中学校	8 4
<千葉市>	
千葉市立花園中学校	8 5
<横浜市>	
横浜市立市ヶ尾中学校	8 5
横浜市立東山田中学校	8 6
<京都市>	
京都市立下京中学校	8 7
京都市立白河総合支援学校 P T A	8 8
<大阪市>	
大阪市立生野工業高等学校	8 8
<神戸市>	
神戸市立宮川小学校	9 0
神戸市立上野中学校	9 1
<広島市>	
広島市立牛田中学校	9 1
<福岡市>	
福岡市立片江小学校	9 2
福岡市立早良中学校	9 3
<熊本市>	
熊本市立三和中学校	9 3

	種別	被表彰団体名	推薦理由
北海道	学校	帯広市立豊成小学校	<p>1 キャリア教育を中核とした教育課程の編成 平成23年度から学校経営の重点をキャリア教育として、組織的・継続的な教育活動を展開している。また、平成25年度には、キャリア教育の基礎的・汎用的能力を構成する4つの能力の育成を目指し、学習内容の系統性・発展性を踏まえた教育課程を編成した。</p> <p>2 全校で共通実践できるキャリア教育「手引き」の作成 キャリア教育の年間指導計画において、各教科や道徳、総合的な学習の時間等と基礎的・汎用的能力との関連を明確化し、学習内容を位置付けるとともに、学習内容ごとに全校で共通実践できる指導計画・展開例を示した「手引き」を作成した。</p> <p>3 地域の教育資源を活用し自己理解を深める体験活動の工夫 地域にある保育所・高校・専門学校・大学・病院等と連携し、学ぶことの意義や将来設計を考える体験活動を展開している。特に、高校等との交流では、子供が「将来なりたい自分」をイメージし、将来設計を描くよい契機となっている。</p>
	学校	北海道札幌稲穂高等支援学校	<p>当該学校の校長は、以前勤務していた独立行政法人国立特別支援教育総合研究所において、知的障害教育担当の総括研究員として障害のある児童生徒のキャリア発達を促す教育の在り方について研究を行ってきており、その成果を当該校のキャリア教育の充実に生かしている。</p> <p>当該校は平成23年4月の開校当初から、学校経営の中核にキャリア教育の推進を掲げ、知的障害のある生徒のキャリア発達を促す教育の在り方を探ってきた。当該校のキャリア教育は、これまで行われてきた狭義の職業教育とは異なり、生徒が生涯、キャリア発達をしていくための基盤となる意欲や態度、能力を育てる教育の改善・充実を目指すものであり、「人権意識を前提とした言語環境（教育環境）の整備」「『学ぶこと』を学ぶ教育の充実」「地域や企業等との相互恵的関係（Win-Win）の形成」「生徒の自己効力感や自己管理能力（セルフマネジメント）の育成」等を教育方針の重点として取り組んでいる。</p> <p>キャリア教育の実践は、特定の教科や学科、一部の分掌業務などに位置付けて行うものではなく、全ての教育活動において生徒一人一人の学びを体験的・実地的な活動と関連付けながら進めることが重要であるため、具体的な取組（例）として生徒参加型の学校説明会（「ようこそ後輩プロジェクト」）や、生徒へのキャリアカウンセリングを意図した「生徒面談週間（年3回）」の実施などを柱とし、3年間で5期に渡る「現場実習」（延べ7～9週）とその事前・事後学習の充実に努めている。</p> <p>また、各学科の実践として、新学習指導要領に即した学科である「福祉サービス科」においては、保護者や地域住民を対象とした「ina カフェ」での接客学習や地域の企業とのコラボレーションによる新製品開発（「いなほクッキー」「いなコレパウンド」「Wベリーチーズケーキバー」）などを行い、これらの取組は地域での現場実習の受入れにつながっている。さらに、同じく新学科である「生活技術</p>

		<p>科」では、札幌市手稲区土木センターの協力を得て、凍結路面にまくペットボトル入りの砂砂利（「コロバース」）を大量に製作し、市の行政サービスの一躍を担う活動を軌道にのせ、札幌市手稲区長からの激励を頂くなど、生徒の自己有用感の育成を図っている</p> <p>当該校のもう一つの特徴として、教職員の専門性向上に結びつく研修を実施している。毎年、「公開研究協議会」を開催し、ファシリテーションの手法やポスターセッション、参加型（対教員）の授業公開などの内容を実施することにより、効果的な研修の場となっている。本研究協議会は、道外特別支援学校からの参加者を含め過去2年間で合計100名以上の参加がある。</p> <p>これらの実践の一部は、特別支援教育関連図書・機関誌等でも発表しており、鳥取、富山、茨城の県議会議員団を始め、道内外から校長をはじめとした多くの学校職員の視察がある。</p> <p>【ホームページ】 http://www.inahokoushi.hokkaido-c.ed.jp/koukaiken/H25kouiaiken2.pdf</p>
青森県	学校 板柳町立板柳中学校	<p>1 小・中・高連携によるキャリア教育推進の中核校として、町全体のキャリア教育推進、啓発への貢献が顕著である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長が、板柳町内のすべての小学校、中学校、高等学校で組織する西北地区キャリア教育推進連絡協議会の会長を務めるとともに、各校の代表者からなる4つの分掌（推進部、連絡調整部、学習研究部、体験活動部）の各部長を板柳中学校の教職員が務めている。 ・キャリア教育推進のためのスローガン「見つめよう自分を、つながろう仲間と、探そう夢や希望を！」を策定し、各校の玄関や廊下に掲示することにより、児童生徒、教職員、保護者及び地域への意識啓発を図っている。 ・平成24年度と平成25年度には、キャリア教育の視点を生かした授業づくりの研究成果を地域に広げるため、公開研究集会（150名程度参加）を開催し、研究授業を公開した。 <p>2 学校教育における各教科等の授業において、キャリア教育充実の視点を生かした学習内容及び指導方法の改善に継続的に取り組み、着実に成果を上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の年間指導計画の中に「基礎的・汎用的能力」との関連を明記し、学校での授業を通して系統的・計画的にキャリア教育が推進されるよう配慮している。 ・各教科等の学習の意義（社会生活や自己の将来との関連）を生徒に気づかせる指導の工夫（課題提示、教師の説話、ゲストティーチャーの活用など）と、学習活動を通して「基礎的・汎用的能力」を高める指導の意識化に努めている。 <p>例）町内商店街の包装紙をデザインする美術科の授業</p> <p>3 キャリア教育充実の視点から、各種学校行事、体験活動の狙いの明確化と内容の工夫・改善に取り組み、優れた実践を蓄積している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年での地域フィールドワーク、第2学年での地域の職場見学及び職場体

		<p>験，修学旅行での東京都夜間中学との交流授業，東京都内にある板柳町出身者の企業・事業所の訪問学習を実施している。</p> <p>・運動会や文化祭などの学校行事においてもキャリア教育の視点を踏まえたねらいを設定し，行事の事前指導・事後指導の充実に生かしている。</p> <p>以上のように，学校経営の柱にキャリア教育の推進を掲げ，全教職員による協同指導体制の確立の下，小・中・高等学校の連携も踏まえた系統的・体系的なキャリア教育推進の在り方について実践的な研究を進め，その成果を広く地域に波及させた功績をもって推薦理由といたします。</p>
学校	青森県立名久井農業高等学校	<p>1 研究指定校として</p> <p>青森県立名久井農業高等学校（以下「推薦校」）は，平成23年度～25年度の3年間青森県教育委員会の重点事業「明日へはばたけあおもりっ子キャリア教育推進事業」の研究指定を受け，同町内にある南部町立剣吉小学校，南部町立名川中学校と連携しながら研究を行っている。</p> <p>2 学校の方針として</p> <p>推薦校は昭和19年，地域の農村青少年の農業教育の必要性和食糧増産を目的に，地域9か村が設立した組合立名久井農業学校がその始まりである。「土に親しみ，広く生物を愛し，社会の向上・発展に寄与しようとする資質と能力を養い，人間性豊かな心身ともにたくましい人間を育成する。」という教育目標の下，地域リーダー育成と「地域のため」をモットーとして長きにわたり地域緑化活動を始めた農業高校ならではの活動を展開してきた（昭和56年全日本学校環境緑化コンクール特選受賞・昭和60年緑化推進運動功労者内閣総理大臣賞受賞）。この地域に対する活動をキャリア教育の視点にたって見直しを図り，小・中学校と連携しながら研究を行っている。</p> <p>3 教育目標とキャリア教育の関連について</p> <p>これまでに行ってきた緑化活動や小・中学校農業体験活動支援などをキャリア教育の視点で見直し，次のような方針で取り組んでいる。</p> <p>① 育てたい生徒像を明確化し，教育目標・教育方針に位置付ける。</p> <p>② これまでの地域，小・中学校，幼稚園・保育園などとの連携活動を見直し，有機的連携の在り方を明らかにする。</p> <p>③ 地域の教育資源を生かした指導方法を確立する。</p> <p>④ 生徒の活動を評価し，課題を明らかにするとともに改善を図る。</p> <p>4 連携活動について</p> <p>① 推薦校独自の活動</p> <p>（他校種との連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 近況報告を兼ねた出身中学校への寄せ植えプレゼント活動。 ○ 幼稚園や小学校等の農業体験実習補助。 <p>（地域との連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生育方法を熟知し，情報発信につなげるための野菜苗販売活動。 ○ 日頃の学習成果を生かす地域農家への農作業支援活動。 ○ 生徒が住む地域の諸団体と一緒に緑化活動を行う地域分会活動。

			<p>○ 学校周辺の緑化を目指した剣吉商店街緑化活動。(第3回ふるさと青森景観賞受賞)</p> <p>② キャリア教育研究指定校としての活動</p> <p>○ 小・中・高連携事業「みんなで作ろう達者弁当」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 南部町農村交流推進課が地域活性化の事業として企画した「地域食材を活かした『巨大達者弁当』づくり」に小・中・高等学校が連携して参加した活動。 ・ 剣吉小学校児童が、総合的な学習の時間で学習した地域食材を生かした料理のアイデアを、名川中学校生徒が家庭科で実際に作りレシピを作成する。そのレシピを推薦校生徒有志が「NPO 青森なんぶの達者村」の方々と連携し、縦2m、横3mの巨大弁当をつくる。 ・ 平成24年度に作成された弁当を元に市販化し、平成25年度には教職員の研修会限定で販売された。 ・ 平成25年度以降もこの活動は継続され、商品開発に力を入れようとしている地域の仕出し業者に対して総菜のアイデアとして提供し続ける予定である。 ・ 学校設定科目「加工品開発」と南部町農村交流推進課と連携し、「達者弁当販売」の可能性に関する食材の生産やマーケティングを授業で扱い、その成果を報告する。 <p>○ 小・中・高連携事業「自己の進路を見つめよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 剣吉小学校と連携し、農業体験実習補助を行った際、農業のよさを伝える活動。 ・ 名川中学校に訪問し、自校の学校紹介を行う活動。 <p>○ 小・中・高連携事業「南部町大好き」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域青年団「ファン・ファン」が主催する、地域清掃活動に参加し、小・中学校児童生徒のリーダー的立場で活動に協力する。 <p>③ その他の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 被災地岩手県山田町を緑化し、交流する山田町支援活動。 ○ 中学生体験入学、アグリサイエンス、アグリチャレンジ事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生に対し、推薦校生徒が行った課題研究の成果を発表する活動。 ・ 地域小・中学生を対象として、「郷土の食の豊かさ、調理の楽しさ」「郷土の自然の面白さや豊かさ」についての研究を募集し、表彰する活動。 ○ 全校生徒が地域の祭りに参加して支える「名川秋祭り」。 <p>5 組織的・系統的なキャリア教育の取組について</p> <p>① 学校の推進体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校内にキャリア教育の主担当者、副担当者、運営委員からなる推進委員会を設立し、既存の活動をキャリア教育の視点で見直しながら活動を展開している。また、キャリア教育と関連する既存の活動を「キャリア関連事業」として位置付け、一覧表を作成して職員の共通理解を図っている。 ○ 生徒のキャリア教育についての変容を把握し、教育活動の改善を図って
--	--	--	--

			<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 独自に「キャリアワークシート」を作成し、活動後の生徒の実態を把握する。 ・ 年度初め、年度末にキャリアアンケートを実施し、「育てたい資質や能力、態度」の変容を把握している。 <p>6 最後に</p> <p>推薦校は、自校の役割を「農業後継者を育成する場」「農業を通じた『生き方』『考え方』を提供する場」「豊富な体験によるコミュニケーション能力を身に付ける場」として位置付け、学習や実習のみならず、「課題研究」などをキャリア教育と関連付けて行っている。この活動が生徒の学ぶ意欲を高め、コミュニケーション力の大切さを実感させている。そして、生徒の意識の変容が進学率や就職率の向上につながっている。</p> <p>生徒の生き方、在り方、進路に関わる教育・指導・援助全般を学校全体として取り組む必要性を理解してはいるものの、従来の進路指導に終始している学校がある中で、推薦校はキャリア教育の大切さを実証している貴重な学校であると言える。</p>
岩手県	学校	普代村立普代小学校	<p>○平成 22 年度から始まった「小中一貫教育」に伴い、9年間を見通した「キャリア教育指導系統表」、「重点指導単元一覧表」を作成。それまで小・中学校それぞれで取り組んできた活動や指導内容の関連付けや系統性の確立を図った。</p> <p>「いわてキャリア教育指針」で示した「社会人、職業人としての自立」に必要な能力「総合生活力」「人生設計力」の育成について、具体的に取り組んだ。特に、小学校では「総合生活力」に重点を置き、各教科・領域の指導の際には「キャリア教育の視点」を位置付け取り組んだ。</p> <p><具体的な取組の様子></p> <p>「キャリア教育の視点を位置付けた教科・領域等の指導」</p> <p>小学校では、「キャリア教育は全教科・領域で展開可能」ということを基本的な考え方としつつ、学校教育目標や児童の実態を踏まえ、「重点指導単元」を設定し取り組んできている。</p> <p>重点指導単元では、その教科・領域における目標に加え、単元で育成したいキャリアの能力・態度やキャリア教育にかかわるねらい等、「キャリア教育の視点」を明確に位置付けた授業づくりを進めてきている。</p> <p>例えば、小学校1年生国語科の実践では、「自分の書いたものを発表し合うことができる」という教科の目標が、「自分の考えをみんなの前で話すことができる」という「豊かな人間性」にかかわるキャリアの力に直結するものとしてとらえ直し指導をしてきた。その際、「文のまとめかた」や「話すときの技能」といった国語科にかかわる評価にとどまらず、「他者への分かりやすい伝え方」や「自分なりに反応しながら聞く」など、コミュニケーション能力を視点とした評価も大切にしながら実践を積み重ねてきた。</p>

		<p>以上、「キャリア教育指導系統表」等を作成し、中学校で育成すべき能力・態度を見据えながら、キャリアの視点を踏まえ組織的に授業改善に取り組んでいる点から、当該小学校を推薦するものである。</p>
学校	普代村立普代中学校	<p>○平成 22 年度から始まった「小中一貫教育」に伴い、9 年間を見通した「キャリア教育指導系統表」、「重点指導単元一覧表」を作成。それまで小・中学校それぞれで取り組んできた活動や指導内容の関連付けや系統性の確立を図った。</p> <p>「いわてキャリア教育指針」で示した「社会人、職業人としての自立」に必要な能力「総合生活力」「人生設計力」の育成について、具体的に取り組んだ。特に、中学校では「人生設計力」に重点を置き、職場体験学習プログラムの再構築を図るなど、3 年間の縦断的な取組となるよう進めてきた。</p> <p><具体的な取組の様子></p> <p>「職場体験プログラム」</p> <p>第 1 学年では、村内における職場体験学習を行う。今年度は 17 か所の企業等の協力を得て、その中から 2 か所を選び、2 日間実施した。普代で働く人々の仕事に対する思いや情熱、苦楽を学ぶとともに、働くことや自分の将来について考える契機となっている。</p> <p>第 2 学年では、9 月に行われる盛岡宿泊研修において、盛岡市内の大型店舗の協力を得て、「普代村特産物販売体験」を実施している。1 学年時の村内企業における職場体験からの発展であり、勤労観・職業観を育成するとともに、ふるさと普代に対する理解を深めようとするものである。</p> <p>第 3 学年では、東京方面への修学旅行の際に、普代村を離れ都心で働く先輩たちの会「ふるさと普代会」との交流を設定している。故郷を離れて働くことの苦労や目標に向かって努力することの大切さ、また、離れてみて分かる郷土のよさ等についてお話を頂くことで、郷土を愛する心を育むこともねらうものである。</p> <p>以上、「キャリア教育指導系統表」を作成し、小学校で育んできた能力や態度を基盤としながら、地域・産業界等と連携を図り 3 年間を通して系統的に取り組んでいる点から、当該中学校を推薦するものである。</p>

宮 城 県	教育 委員 会	東松島市教育委 員会	<p>東松島市は「市民協働のまちづくり」を進めている。平成23年度から宮城県教育委員会より「協働教育プラットフォーム事業」の委託及び平成24年度から「志教育支援事業推進地区」の指定を受けて地域の特色を生かした様々な取組を展開している。協働教育では、三つの中学校区ごとに、学校と地域が連携し、それぞれの特色を生かした子供の育成を地域ぐるみで行っている。また、志教育においても、各中学校区の小・中連携を軸に、市内の二つの公立高校との連携も密にしながらキャリア教育の実践に取り組んでいる。</p> <p>【具体的取組】</p> <p>1 職場体験学習</p> <p>津波被災地域であるため、職場体験の受入先確保が困難であったが、商工会やPTA等の連携・協力を図り、三つの中学校の第2学年で、市内の事業所、商店、官公庁等にて3日程度の体験学習を実施している。学習を通して、望ましい勤労観や職業観を育み、生徒の自己実現に結び付けられている。</p> <p>2 学校と地域の連携による事業</p> <p>地域の人々が様々な資源を持ち寄り、多くの人々が関わりながら地域の自然や産業に触れる仕組みを構築している。田んぼの学校（田植、稲刈りなど）畑の学校（野菜作りなど）、カキむき体験といった体験活動をとおして、自然と地域の人々の温かさに触れながら自己存在感、自己有用感を養い、児童生徒の社会的自立の基盤づくりに結び付いている。</p> <p>3 心あったかイートころ運動</p> <p>平成22年度から各学校に取り組み、平成25年度からは中学校区ごとの小中連携による取組に発展させている。あいさつ運動、清掃やごみ拾いなどの奉仕活動を児童生徒自ら企画し、学校内外や学区内の各地で継続的に実践している。活動により、奉仕の心、自己理解、人間関係形成力等の育成につながっている。</p> <p>4 夢のあるまちづくり協議会</p> <p>東日本大震災で甚大な被害を受けたふるさと東松島市を、中学生がどのようなまちにしたいのか「東松島市の未来像」を提案し、話し合うフォーラム。市長や議会議長なども出席し、助言を行う。生徒は地域と自己の将来像を描き、社会参加への関心意欲の向上に結び付けている。</p> <p>東松島市が進める協働教育や志教育では、児童生徒が「人とかかわる」「よりよい生き方を求める」「社会での役割を果たす」取組を計画的かつ継続的に進めており、各中学校区の発表会でその成果が発表されている。</p>
-------------	---------------	---------------	--

学校	大崎市立古川中学校	<p>『「夢」「誇り」「前進」～25年後（40歳）の自分を思い描いて…～』をスローガンに掲げ、教職員と保護者*がベクトルを同じにして、地域と協働した実践に努めている。特に、「東日本大震災の復興を担う志の高い古川の子供を学校と地域の保護者*が、協働で古川で育てる」ことをミッションとした“FYTS”を学校独自で組織し、次のような取組を計画的に実践し、志教育（キャリア教育）の充実に努めていることに特徴がある。（*“FYTS”では、子供の親だけでなく地域の大人や教職員も含んだ、すべての大人と捉えている。）</p> <p>1 キャリア形成のための教育支援</p> <p>（1）職場体験活動</p> <p>○目的 勤労観や職業観を育むとともに自己実現や社会貢献を考える機会とする。</p> <p>○内容 中学2年生が、“FYTS”の支援を受け、大崎市内の約70か所の商店や事業所等で3日間の職場体験学習を行っている。</p> <p>（2）キャリアポスターセッション</p> <p>“FYTS”に登録している20数人の保護者を講師として、中学1年生と2年生で次のような目的で、それぞれ実施している。</p> <p>○1年生では、働くことの喜びや厳しさを知ることが主なねらいとして。</p> <p>○2年生では、職業生活と生き方を関連させ、自己実現や社会貢献について考えようとする態度を育むことをねらいとして。</p> <p>2 社会貢献活動（サービスマーケティング）の受入れと支援</p> <p>中学3年生が“古川のまちづくりを考えよう”をテーマに課題解決学習に取り組み、その中で地域の人たちの話を聞く会を開催している。</p> <p>○目的 古川の現状（長所と課題）を知る。</p> <p>○内容 “FYTS”に登録している12名の保護者を講師として、話を聞く場を設けている。生徒は車座に座り「地域の宝物、まちの課題、期待していること」について話を聞いて、NPO法人がファシリテートしてそれらをまとめ、学年で共有を図っている。</p> <p>3 「思春期のライフスキル教育プログラム」の教員・保護者研修支援</p> <p>悩みや課題を正しく解決したり、選択したりするスキルを指導するための研修会を開催し、生徒や保護者を対象に全学年でプログラムを段階的に進めている。</p>
----	-----------	---

<p>学校</p>	<p>宮城県涌谷高等学校</p>	<p>当該校は、平成 23 年度に文部科学省委託事業進路指導総合推進事業の指定校として、普通科進路多様校におけるキャリア教育の充実に向けての方策を研究し、現在も継続的に取り組んでいる。</p> <p>指定を受ける以前の平成 17 年度から総合的な学習の時間を「桜風タイム」と名付け、1 学年から 3 学年まで計画的、組織的に系統的なキャリア教育に取り組んでいる。「桜風タイム」では、1 年生全員がインターンシップを実施し、その他様々な体験活動や、産業界や関係機関の協力を得て地域の人材を幅広く活用した教育活動を展開し、進路希望が多様な生徒の自己実現に効果をあげた。また、学習習慣の確立や基礎学力の定着のため、朝自習と週間、週末課題を組み合わせた学習習慣定着プログラム「栄冠トレ」を実施し、家庭学習の定着にもつなげてきた。</p> <p>「桜風タイム」の内容として、1 学年では、卒業後の進路や職業について多面的・多角的に情報を集められるよう、上級学校の体験的な講義受講の場を設定したり、地元企業の協力を得て職業講話や職場体験を実施したりして、自己理解や職業理解をねらいとした教育活動を展開している。生徒にとって、社会規範やマナーなども身に付ける機会となり、自己の進路や生き方、在り方について現実的に考える機会となった。</p> <p>2 学年では、1 年時の教育活動を基に、卒業後の進路意識を確立させるため、進学希望者には、ブース形式ガイダンスや学部・学科調べ、模擬講義の実施、就職希望者には、複数の業種、職種の職場見学や、企業人や卒業生を招いた職業講話を実施し、職業人として求められる人材について考えさせることで、職業観・勤労観が育成された。</p> <p>3 学年では、外部講師によるガイダンス等を更に充実させ、全職員が一丸となり生徒の自己実現の支援と、社会の中で望まれる人材となって卒業できるようキャリア教育の充実を図り、就職内定率や進学率の向上に結び付いた。</p> <p>この「桜風タイム」による継続的な取組が、卒業時の生徒の成長に大きくつながった。</p> <p>また、当該校は、平成 24 年度・平成 25 年度は宮城県教育委員会の志教育推進事業（普通科におけるキャリア教育）を活用し、生徒の自己実現に向けた 3 か年の体系的・継続的なキャリア教育を実践していることから、推薦するものである。</p>
-----------	------------------	---

<p>PTA 団体 等</p>	<p>特定非営利活動 法人ハーベスト</p>	<p>当該団体は、「キャリア教育を通じた大人と若者の学びあい」をコンセプトに県内中学・高校・大学と地域・市民・企業・行政が主体的に参画できる教育の場と1,000名をこえる市民講師ネットワークの構築により将来を担う「人づくり」「若者が活きた街」づくりを進めている。</p> <p>様々な経済構造の変化の中で、自分の役割を見つけ出し、そこへ向かって努力していく力や新しい環境に適応していく力を若者に身に付けさせることが重要と考え、6年前より共通の思いを持つ有志が集まり、様々な場づくりを行ってきている。</p> <p>中でも、生徒や学生の「学び」や「進路」に対する主体性を呼び起こすためには、様々な世界で自らの主体性をフルに発揮し、学び・働き・生きている魅力的な社会人との出会いが最も効果があるという考えに基づき、これまで100名以上の市民が講師として参加する公開講座「オータムセミナー」や、生徒と車座の座談会を行う「キャリアセミナー」を実施している。</p> <p>受講した生徒の感想には、新たな視点や、学ぶべきものを発見した喜びや驚きがつづられている。一方で、参加した市民講師の多くが、若者に自分の仕事や生き方について話すことで、改めて振り返り自省するよい機会となり、生徒と講師がお互いに学びあっている場が成立している。</p> <p>このように、様々な人の在り様を見て、感じて、考えて、社会で求められていることや、自分の可能性を現実的に捉え、「自分はどうありたいのか」について考える機会を提供している。</p> <p>また、平成23年度・平成24年度・平成25年度は宮城県教育委員会委託事業「宮城県版キャリア教育セミナーコーディネイト事業」の委託を受け、キャリアセミナーを展開し、延べ130校4万人の中学生・高校生に5,000人もの市民講師の協力を得て場づくりを行いキャリア教育の推進に貢献している。</p> <p>現在では、宮城県内の公立・私立高校の1/3でこのキャリアセミナーが実施され、宮城県の中高生のキャリア教育になくてはならないプログラムになっている。これらの取組を通じて、多くの生徒に人との出会いや、人から学ぶことの面白さ、仕事を通じて人と関わっていくことの大切さを体感させるとともに、そうした人とのつながりを創っていくために、自分たちが様々な学問や教養を学んでいることへの気付きを促していくことで主体性を持って学ぶ若者の育成に寄与している。</p>
-------------------------	----------------------------	--

秋 田 県	学校	大館市立成章小 学校	<p>当該校では、国の施策や大館市の「ふるさとキャリア教育」の趣旨を踏まえ、「ふるさとキャリア教育」を学校経営の根幹に据えている。また、学校経営の基本理念を「一人一人の個性や能力を伸ばし、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくりを目指す」とし、枝豆の栽培活動を通して、子供同士や地域の方々との関わり合いの中で、自立に向けて社会参加できる力を育み、社会的有用感を醸成することをねらいとした活動を行っている。</p> <p>成章かがやきプロジェクトについて</p> <p>1 活動を進めるために</p> <p>(1) 3年生以上の総合的な学習の時間における活動</p> <p>(2) 成章かがやきプロジェクト実行委員会の設置</p> <p>① 3年生以上の代表児童13名で組織</p> <p>② 学年間での役割分担</p> <p>③ 進捗状況の確認</p> <p>④ 全校への連絡や調整</p> <p>※給食、昼休みを利用したの打合せ（校長室にてランチミーティング）</p> <p>(3) 活動を支える地域ボランティア隊の結成</p> <p>2 活動の実際</p> <p>(1) 枝豆の苗植え・・・3年生以上の児童、保護者、地域ボランティア隊（地域の休耕田を借用）</p> <p>(2) 収穫作業・・・全校児童で豆もぎ作業</p> <p>(3) 各学年の役割</p> <p>3・4年生の児童→商品名、ラベルデザイン、キャラクター募集</p> <p>5・6年生の児童→宣伝パンフレット作成、加工調理、販売</p> <p>(4) 児童発案による商品の開発、宣伝ポスター等の作成</p> <p>① 商品の開発と商品名：枝豆プリン→「あいじょうたっプリン」 ：きな粉→「げんきなこ」 ：枝豆クッキー→「えだまめクッキー」</p> <p>② 株式会社秋田食彩プロデュースとの合同企画→青豆のあきたこまちクラッカー</p> <p>③ 成章フェアの宣伝ポスター作成→成章地区おすすめガイド付き</p> <p>(5) 豆ゆで、薄皮むき作業→5・6年生の児童、保護者、地域ボランティア隊</p> <p>(6) 天日干し作業（きな粉加工用）→3年生以上の児童</p> <p>(7) 外部講師の活用</p> <p>① 「陽気な母さんの店」（地域で地産地消を進めている事業所）スタッフ ・・・栽培、収穫、加工指導</p> <p>② 秋田比内や、さこう菓子店（共に地域の商店）、秋田食彩プロデュース ・・・商品作り、販売指導</p> <p>③ 子供服販売経営者（元空港勤務）、商工会関係者・・・接客・接遇研修会</p>
-------------	----	---------------	---

			<p>④ ゼロダテアートセンター（NPO法人が運営する美術工房） …商品ラベルのデザイン講習会</p> <p>⑤ フリーアナウンサー…発声,話し方講習会</p> <p>⑥ 「パティスリー・ポタジエ」（東京都）オーナーパティシエ柿沢安耶氏による講演会 （児童,保護者,地域の方々を対象に） 「みんなの夢講座」演題：みんなの育てた枝豆がすてきな商品に</p> <p>3 学びを生かす→成章フェアの実施</p> <p>(1) 大館きりたんぽまつり</p> <p>(2) 大館圏域産業祭</p> <p>(3) 「陽気な母さんの店」店頭市</p> <p>4 活動の成果として</p> <p>(1) 活動の過程で様々な人と関わり,社会参加意識の基礎を培うことにつながっている。</p> <p>(2) 自分たちの思いが具現化していく様子を実感している。</p> <p>(3) 児童アンケートから,学習や生活面における意欲の高まりが見られる。</p> <p>(4) 地域や保護者との連携により,学校への協力や理解が高まってきている。</p>
茨城県	学校	鹿嶋市立平井中学校	<p>平井中学校は、平成 23 年度・平成 24 年度茨城県教育研究会の指定を受け、学校の課題である「人間関係形成・社会形成能力」の育成を重点においたキャリア教育の研究を進めてきた。当該校では教育目標の実現に向け、人と人との関わり合いや縦横・社会との絆を紡ぐことを重視し、「伝え合い・つながり合う活動」を柱とした取組の工夫・改善に努めてきた。本年度以降も、継続した取組が期待できると受け止め、当該校を推薦した。</p> <p>1 全教育活動におけるキャリア教育の断片をつないだ年間指導計画の作成及び活用</p> <p>各教科・領域等におけるキャリア教育の実践機会となり得る教育活動を、詳細に見いだすことにとどまらず、各教科・領域等を有機的に関連付け、発達の段階に応じた創意工夫ある指導計画を一覧として整理している。</p> <p>2 キャリア教育の視点を教師・生徒が意識できる手立ての工夫</p> <p>教師や生徒がキャリア教育の視点を意識できるよう、基礎的・汎用的能力の内容を日々の学校生活や行事の振り返りカードに関連させて作成し、活用している。</p> <p>3 キャリア教育に関する積極的な情報提供</p> <p>キャリア教育の視点から教育活動をとらえた記録等を、当該校のホームページにおさめ公開している。また、校内の掲示板を活用して情報提供を行うとともに、学校・学年だより等に記事を掲載し、積極的に情報発信を行っている。</p> <p>4 人間関係形成・社会形成能力の育成の場を意図的・計画的に設定</p>

		<p>当該校が重点としている人間関係形成・社会形成能力を育成する場として、学び合いを取り入れた授業展開を柱に据えるとともに、ボランティア活動、小中連携に係る取組等にも拡大し、積極的に人とかかわる場を意図的・計画的に設定している。</p> <p>5 基礎的・汎用的能力に係る実態調査の実施</p> <p>基礎的・汎用的能力に係るアンケート調査を実施し、生徒の実態把握と今後の指導改善に役立てている。</p>
学校	日立市立日立特別支援学校	<p>日立市立日立特別支援学校では、平成23年度より「一人一人のキャリア発達につながる指導支援のあり方」を主題とし、学校として特別支援教育におけるキャリア教育の在り方を継続的に研究している。</p> <p>以下、主だった活動について紹介する。</p> <p>○「キャリア教育観点シート」を作成し、当該校においてキャリア教育で育てるべき能力を具体的に表記した。これを年間指導計画や単元計画、学習指導案に記入し、キャリア教育のどのような視点で学習が進められるのかを明確にした。さらに、実践に当たってはRPDCAサイクルを基に指導や支援の改善を進めた。</p> <p>○児童生徒の実態や生活年齢を考慮しながら、小・中・高の各部で12年間を見ずえたテーマを設定し、体験的な活動を行っている。特に人との関わりを段階的に意識し、小学部では校内の上級生や家族、中学部では学校近隣の商店等、高等部では企業や地域の福祉センター・作業所との関わりの機会を多く設けている。</p> <p>○小学部テーマ「子どもの良さが生き、共に高め合える共同活動を意識した指導・支援の工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年：『学校のお兄さん、お姉さん』小学部高学年との共同学習 中学部・高等部の作業学習見学と体験 ・中学年：『ぼくたちよろこばれ隊』校内の清掃活動、教員の手伝い ・高学年：『わたしたちのくらし』家庭での自分の役割、責任の明確化 <p>○中学部テーマ「社会的資源を生かし、生徒のキャリア発達を育む体験的活動の指導・支援の工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『地域と交流しよう』：社会人講師として近隣の商店主などを招へい（プロの技を身近に感じるとともに、家庭や学校において自分でできることのヒントを得る機会とする）、近隣店舗との交流（自分たちで育てた花のプランターを設置してもらい一緒に育てる） <p>○高等部テーマ「挑戦・夢・希望～協働活動をとおして～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『校内実習・現場実習』：校内実習では近隣の事業所と連携を図り受注作業を実施。現場実習では将来の職業的自立を見据えての実務的な実習を実施。また、学校の近くにある高齢者介護施設との交流を実施。

栃 木 県	学校	宇都宮市立西小 学校	<p>○ 地域と連携して行うキャリア教育の実践</p> <p>当該校は、宇都宮市の中心部に位置しており、学区内には大規模な商店街が存在している。こうした地域の特性を生かし、学校経営方針の一つに「地域の学校づくり」や「開かれた学校づくり」の推進を位置付け、学校・保護者・地域が一体となったイベントの実施など、地域と連携した取組を継続的に実践している。</p> <p>また、今年度当該校が重視する「特色ある学校づくり」の取組においては、キャリア教育を核とした実践を進めている。</p> <p>○ 具体的な取組1（「西小インターンシップ」について）</p> <p>平成20年度より、6年生児童が「働く」ことの意義を学ぶことを目的とし、総合的な学習の時間を活用して、職業体験活動「西小インターンシップ」を実施している。</p> <p>実施に際しては、地域協議会やPTAなどの地域の協力を得て体験場所を確保している。平成25年度は6年生児童36名が、学区内の百貨店や商店、幼稚園など13箇所の各事業所において職業体験を実施した。本活動は総合的な学習の時間の「12歳旅立ちの会I」の単元において計画的に実施し、実施後も事後指導として体験の振り返りを丁寧に行うなどして、児童の社会的・職業的自立を図る基礎的・汎用的能力の育成に努めている。</p> <p>○ 具体的な取組2（地域の方々・先輩・一流の先生に学ぼう）</p> <p>当該校は、オープンスクール等の際に、地域の方々や団体による授業（昔遊びや折り紙等）、一流の先生方による授業（新聞作り、陶芸等）を実施し、地域や専門家からの充実した学びの場を組織的・計画的に設定している。</p> <p>当該校の取組は、学校・保護者・地域が一体となり、インターンシップの導入や地域の方々等の授業参加などを通して、キャリア教育を推進している好事例といえる。</p> <p>また、「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」（平成24年度実施、平成25年3月「第一次報告書」より）の「社会人による講話など、職業や就労にかかわる体験活動を充実させること」の小学校の結果が38.8%（中学校89.3%、高等学校75.8%）だったことを見ても、全国的にも先進的な取組と考えることができる。</p>
-------------	----	---------------	---

	<p>学校 白鷗大学足利高等学校</p>	<p>白鷗大学足利高等学校は普通科6コース「特別選抜コース・進学コース（富田キャンパス）・文理進学コース・総合選択コース・普通コース・商業コース（本キャンパス）」からなる全校生徒1650名の総合高校である。</p> <p>私学の特性を生かし「教育の質の更なる向上」を目指すべく将来構想計画・学校改革を進める中、今年度から文部科学省よりSSHの指定を受け、学校全体でキャリア教育を軸とした科学教育を推進するための研究開発に取り組んでいる。</p> <p>その中で各コースでは「プラス・ウルトラ」の精神の下、教育関係機関や地域社会、産業界との連携を図り、体験学習・課題研究を中心としたキャリア教育を推進している。また、マイスター制度を導入して産業界を支える先端技術者及び中堅技術者や地域社会に貢献できる人材育成に力をそそぐ特色あるカリキュラムや多彩なコースイベントを実施している。</p> <p>1 特色あるカリキュラム</p> <p>各コースで習熟度別授業の実施や高大連携による大学の単位認定や教授による講演会・科学体験講座・数理講座など多くの講座を開講し、自ら課題を発見し探求することで問題解決能力を育成している。また、専門科目の授業では外部講師やマイスター制度による地域の研究者の指導を通し、楽しく夢のある体験学習・実習を進め、創造性豊かな人材育成に力をそそいでいる。</p> <p>2 多彩なコースイベント</p> <p>インターンシップを始め講演会・大学見学・5S運動・ふるさと学習等のコースイベントを実施している。ふるさと学習では東の小京都と呼ばれている足利の歴史と文化を学ぶ。本市は豊かな自然環境の中、織物・染物の町として栄えたことから、ふるさと学習を通し古き良き時代の足利を知り、その後の学習やキャリア教育につなげていく意義は大きい。</p> <p>以上キャリア教育をベースとしたカリキュラムやコースイベントにより、自己の適性や将来設計について考える機会に触れ、将来を視野に入れた進路選択が可能になる取組を積極的に実施している。</p> <p>上記の理由からここに推薦する。</p> <p>【ホームページ】 http://www.hakuoh.ed.jp/hakuoh-h/</p>
<p>埼玉県</p>	<p>学校 深谷市立深谷小学校</p>	<p>キャリア教育の目的は、社会的自立・職業的自立に向けて必要な意欲・態度や能力の育成にある。</p> <p>深谷市立深谷小学校では、通常の職場見学に加え、深谷市が主催する「深谷市産業祭」に参加し、地域の産業界との連携・協力を主体的に図ることにより、キャリアの目的を達成させようとしている。また、この取組は「自己の生き方を見つめる深小っ子の育成」を研究題目として、校長を中心に全教職員で組織的・系統的に取り組んでいるものである。</p> <p>以下、具体的な取組について説明する。</p> <p>(1) 平成24年度の取組の経緯 6年生94名が、「深谷市産業祭」に参加し、</p>

		<p>総合的な学習の時間等で年度当初より学習した内容を発表した。学習に当たって、地域の産業界と主体的に連携・協力を図っている。6年生は、3年次「わたしの町のおんな店、こんな店」、4年次「出会い、ふれ合い、支え合い」、5年次「深谷、中山道」という題材で地域の方々と交流を図ってきた。「深谷市産業祭」での学習発表は、それまでの集大成として行われ、自己の生き方を見つめる系統的な指導がなされている。</p> <p>(2) 取組の内容</p> <p>① 渋沢栄一の劇を発表：郷土の偉人「渋沢栄一」を劇化し、発表した。栄一の生き方を通して、自己の生き方について考えることができた。</p> <p>② 野良着コンテストに出品：農作業で用いる野良着を制作し、出品するとともにステージで発表した。袖を工夫して取り外し可能にするなど利便性を追求した作品となった。</p> <p>③ 学校で育てた野菜や手作りリースなどの販売：地元の農産物である「ねぎ・大根・サツマイモ・かぶ」を栽培し、販売した。(完売)</p> <p>④ N-1 グランプリに出品：郷土料理である「煮ぼうとう」を地元の野菜を使用して300食つくった。(完売)</p> <p>⑤ 深谷小パンフレットの配布・あいさつ運動：深谷小の伝統やよさに関するパンフレットを500枚作成し、地域の方々に配布するとともに、あいさつ運動で元気のよさを発信した。</p> <p>⑥ 鼓笛パレード：深谷小の伝統である鼓笛パレードを地域の方々に披露した。</p> <p>⑦ 英語スピーチ・歌の発表：自らの生き方や家族について、英語で発表した。</p> <p>⑧ 田野畑パンフレットの配布・募金活動：友好都市である岩手県田野畑村についてのパンフレットを作成した。復興支援として、募金活動も行った。</p> <p>⑨ 昔遊び体験：昔の遊びを通して、地域の方々との交流を図った。</p> <p>以上の取組から、一人一人が自己の生き方について考える教育活動が充実している深谷小学校を推薦する。</p> <p>【ホームページ】 http://www.fukaya-e.jp</p>
学校	三郷市立彦成中学校	<p>特色ある学校づくりのテーマとして「夢と生き方を見つける彦成中」を掲げ、以下のような様々な教育活動に取り組んでいる。</p> <p>① まるまる高校体験授業：3年生全員が、近隣の工業技術高校に出向き、授業体験を実施している。県内有数の就職率を誇る高校なので、技術を身に付け社会に出ようとしている高校生から学び、近い将来への意識を高めている。</p> <p>② 高校体験授業：2年生全員が、近隣の公立高校と私立高校の教員を招いての「出前授業」及び「上級学校説明会」(保護者も含む)を体験している。近隣の公立高校と進学する生徒数が多い私立高校を考慮して依頼し、保護者を含めた説明会を実施することが、保護者への啓発にもつながっている。</p> <p>③ 職場体験学習：2年生全員が3日間、市内の事業所等に出向き、社会体験学習を実施している。地元の企業や公共機関を中心に依頼することで、地域とともに</p>

			<p>にある学校という意識を高め、地域に根ざした生徒の育成を行っている。</p> <p>④まるまる受入体験生活：近隣の小学校6年生を中学校に招いての、中学校体験活動（半日）を実施している。また、生徒会役員が近隣の小学校に出向き、6年生に学校紹介を行っている。小学生が中学校生活に慣れることと、教員に慣れること、そして、中学校への希望を抱かせることを目的としている。</p> <p>⑤ボランティア体験：特別支援学級の生徒が中心となり、年2～3回老人福祉施設を中心に慰問活動を実施している。また、学校行事の際には、その施設の方を招いての相互交流を図っている。有志合唱団や特別支援学級の生徒による合同合唱や演奏は、ノーマライゼーションの理念に基づく教育の推進にもつながっている。このような、高齢者等との交流から、生徒にとって、弱い人へのいたわりと自分に何ができるか、そして、一つの行動がどれだけ感動を与えることができるのかを知るよい機会になっている。</p> <p>⑥リトルティーチャー事業：夏季休業中に、生徒の有志が小学校の補習に参加し、児童の学習支援を実施、子供同士の交流によるキャリア教育を実践している。生徒の母校で学習支援を行うことは、中学生としての成長した姿を該当小学校教員に見てもらふことにつながり、中学生としての自覚を更に高めることにもつながっている。</p> <p>⑦地域連携活動：PTA主催のバザーでは、近隣の幼稚園、小学校、高校から園児、児童、生徒を招き、演奏を中心としたステージ交流を実践している。コンセプトは「中学校が地域の中心になる」であり、子供だけではなく、敬老会や団地自治会の方々も招待することで、幼児からお年寄りまで地域住民総ぐるみのイベントとなっている。</p> <p>⑧大学生とのディスカッション事業：現役大学生を複数招き、設定したテーマの下で、中学生とのディスカッションを実施している。高校卒業後に大学へ進んだ青年の考え方や将来の夢に触れることで、近未来に希望を持つことができるようになっている。</p> <p>ボランティア活動を根幹に据えて、地域へ生徒及び教員が飛び込んでいる。その上で、地域の方々を学校の教育活動に巻き込み、地域とともにキャリア教育の活動を行っている。また、学校応援団やコーディネーター、学校評議員、PTA役員の方々がキャリア教育の連携の架け橋となっている。以上のような継続した取組から、生徒にとって身近に感じる大人が多く存在し、生徒が自分の夢や将来の生き方を見つけることができる三郷市立彦成中学校を推薦する。</p>
千葉県	教育委員会	栄町教育委員会	<p>栄町では、「栄学」として、小学校3年生から中学校3年生まで各学年で、「ふるさと さかえ 大発見！」をテーマに、発達段階に応じた題材を設定し、総合的な学習の時間を活用した取組を平成24年度から行っている。</p> <p>栄学の目標は、「栄町の自然や文化の理解を深めるために、地域での体験学習や施設の人々との交流、自ら課題を見つけた探究的な学習を通して、栄町の人々とのふれあいを深め、郷土愛を育て、自己の生き方を考えることができるようにする」と位置付けている。</p>

		<p>小学校では、地域の自然や人々との関わり、さらに、栄町の伝統や歴史を学ぶ構成となっており、中学年のキャリア教育として、福祉施設での年配者や障害者の方々との交流活動、そして地域の手話ボランティアの方々との交流活動を行っている。また、高学年のキャリア教育として、地元の商店（スーパーマーケット・美容院・そば屋等）や公共施設（消防署・幼稚園・町役場等）での職場体験を実施している。</p> <p>中学校では、地域の歴史を探究する学習活動や、企業と連携したキャリア教育を推進している。中学1年生では、地元の「株式会社エリート情報社」との連携により、昔の栄町の姿について取材した内容を地域情報紙「エリート情報」に掲載し、各家庭に発信している。</p> <p>中学校2年生では、「株式会社リクルート」と連携し、職場体験と同時にその職業について取材を行い、その内容を冊子「タウンワーク・トライワーク」にまとめ、地元官公庁や各学校、協力事業所等に発信している。</p> <p>中学3年生では、地元企業「日本食研ホールディングス株式会社」との連携により「コマース部門」「テイスト部門」「コンセプト部門」の3部門に分かれ、仮想商品開発やコマース制作、マーケットのリサーチ等を行い、企業の市場性や戦略性等、将来の職業的進路を念頭に置いて、進学等進路選択に向かう意欲や態度を育成している。</p> <p>これらのように、栄町では教育委員会が中心となり、町全体で取り組むキャリア教育推進に係る説明会を行ったり、各学校の取組状況の把握に努めたりするなど、キャリア教育の進展に大いに寄与している。</p>
学校	佐倉市立佐倉東小学校	<p>1 キャリア教育の推進に当たり、「キャリア発達の課題」を「自己形成」（自分づくり）と「関係形成」（人・社会との関係づくり）とし、低・中・高学年の各発達段階で目標とする目当てを明確に設定している。さらに、キャリア教育の基本的な能力として、三力（思う力・求める力・関わる力）を定め、その能力の向上のために全教育活動を通して計画的に実践をしている。</p> <p>また、三力の変容を調べるために、質問紙法を取り入れて児童個々の変容と学級集団の変容を数値化したり、行動評価のための指標として「あいさつ」「清掃」「歌声」の各活動を当該校の実態から選び出し、それらの充実度と三力の関係を調べたりするなど、特記すべき取組を行っている。</p> <p>これらの取組により、三力を高めていくことで自尊感情が高まり、児童の日常の活動の中に建設的な意見や能動的な行動が見られるようになるなどの成果を上げている。</p> <p>2 教科・領域の内容と「働くこと」（職業）を関連させ、すべての教科・領域にキャリア教育を位置付けて取り組んでいる。</p> <p>例えば、1年生の生活科では、交通安全指導でお世話になっている方々に楽しんでもらう会を企画し、その運営を通して自分の役割を果たさせる授業や、6年生の総合的な学習の時間では「ゆめ、ぴったり体験」と命名している地域の行政機関及び企業の協力を得た就業経験をし、将来の職業への視野を広げることにより、求める力（目標に向かって努力できる能力）を高めている。また、</p>

		<p>5年生の総合的な学習の時間では、「保育園児・高齢者との交流活動」として地域の保育園及び高齢者養護施設を訪問し、話を聞くことを通して、自分の家族や親族と関連させ、振り返りを行うことで、関わる力（自分への関心を持ち、他者に対して積極的に関わる能力）を向上させている。</p> <p>3 平成23年度までの研究を踏まえ、これらの取組を現在も継続するとともにさらなる充実に努めている。また、校長通信や学校便り、保護者会などを通して、キャリア教育の取組を保護者や地域にも発信している。</p>
学校	千葉県立流山北高等学校	<p>1 教務部・進路指導部を中心とした「総合学習推進委員会」の計画による3か年を通じた体系的なキャリア教育の実践</p> <p>1 学年：「生き方と進路」をテーマに、道徳的な内容を中心とした話合いや体験活動を通して、「人との関わり」や「卒業後の進路」について考える。</p> <p>2 学年：全員が3日間行う「職場体験学習」（インターンシップ）及びその事前・事後指導を通して、適切な職業観を養う。</p> <p>3 学年：個々の希望進路に応じた指導（外部講師による実践的トレーニング等）を通して、「社会人としての在り方・生き方」を考える。</p> <p>2 「職場体験学習」（インターンシップ）の実施</p> <p>平成14年度から、2年生の生徒全員による3日間の職場体験を実施している。</p> <p>3 研究指定校</p> <p>「高校生インターンシップ推進事業」（H13・H14 千葉県教育委員会）</p> <p>「高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究推進校」（H19～H21 文部科学省）</p> <p>「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業」（H21・H22 文部科学省）</p> <p>「地域や生徒のニーズに対応した新しい学校づくり」（H23・H24 千葉県教育委員会）</p>
学校	千葉県立特別支援学校流山高等学園	<p>○地域社会や企業等と連携・協働した「キャリア・チャレンジ」（学校設定教科）の実践（平成24年度～）</p> <p>当該校は「流山高等学園コラボレーションシステム」の構築を目指し、生徒が地域や企業へ出向く授業と、地域や企業の方々が学校へ出向く授業との両方を充実させて、社会自立・職業自立を目指すシステムづくりに取り組んでいる。具体的には、昨年度より、地域や企業等と連携・協働した教科「キャリア・チャレンジ」を日課表に週1日位置付けた。この教科は、社会自立・職業自立に必要なコミュニケーション能力やソーシャルスキルを養い、体験的・実践的な活動の中で就労への円滑な移行に向けた知識・技能・態度を高めることをねらいとしている。</p> <p>1 「キャリア・チャレンジ」の学習内容</p> <p>「キャリア・チャレンジ」の学習内容は下記の4つに分類し、各コースのすべての活動に取り組んでいる。</p> <p>(1) クリーニング・チャレンジ：清掃業務の専門家による清掃講座、校内清掃検定、地域の保育園やコミュニティホームなどへの清掃実習を実施</p> <p>(2) サービス・チャレンジ：地域のショッピングモール、駅通路などで延べ年間 48</p>

			<p>回の販売活動を実施</p> <p>(3)スペシャリスト・チャレンジ：これまでに専門教科で身に付けた力を生かし、駅の植栽，地域陶芸教室等，地域や企業と連携した学習活動を実践</p> <p>(4)ソーシャル・チャレンジ：企業等と連携し，販売実習で使用する製品説明のポップ作りや接客講座，卒業後の生活を想定した授業などを実施</p> <p>2 「キャリア・チャレンジ」の学習評価</p> <p>当該校生徒の実態等をふまえ，学習評価を4観点定め，一連の教育活動の終了後，生徒による授業評価と感想文に基づいて成果と課題を検証した。</p> <p>生徒による授業評価は，8割以上は肯定的な評価であり，「キャリア・チャレンジ」の取組は，一定の成果を得たものと判断できる。</p> <p>3 「キャリア・チャレンジ」の成果</p> <p>販売実習，清掃実習，各コースの地域等と連携した実習などにおいて，地域の方から感謝の言葉や，お褒めの言葉を頂くことで，自己肯定感が育ち，働く意欲が向上してきた。</p> <p>また，企業や地域の方々を授業で活用することにより，できなかったことができるようになるという，自分の成長を実感する生徒が多く見られた。</p> <p>さらに，この教育活動が地域に浸透するにつれ，地域が学校の良き理解者となり，「キャリア・チャレンジ」の新しい活動も生まれてきている。</p>
	PTA 団体 等	千葉県立成田北 高等学校PTA	<p>「成北未来講座」の取組</p> <p>1 生徒に豊かな職業観を養わせるための「成北未来講座」の企画と実施</p> <p>当該校PTAの教養研修委員会が主催して，平成25年7月16日に当該校全生徒（925名）を対象に，2名の講師が講演を行った。</p> <p>講師の選出，当日の運営等は教養研修委員会のメンバーが行い，講演後に講師を交えて座談会を実施した。</p> <p>実施後には生徒対象のアンケートを行い，多くの生徒から好評を得た。</p> <p>2 第63回全国高等学校PTA連合会大会山口大会での実践発表</p> <p>8月に山口県で行われた全国大会において，上記の「成北未来講座」を中心に，「学校教育とPTA～キャリア教育と職業観～（第一分科会）」で発表し，好評を得た。</p>
東 京 都	教 育 委 員 会	板橋区教育委員 会	<p>区教育委員会の基本方針にキャリア教育を位置付け，板橋区の特色ある工業や農業を通して，子供たち自身が自分の進路を見だし，将来の夢に向かって自律的に行動できるようにキャリア教育の充実に努めている。光学精密機器，印刷など特色ある板橋区の工業及び農業を，小学校で職場見学したり，全中学校で職場体験を行ったりすることで，勤労観や職業観，自らの将来，板橋区の未来について夢や希望を育てている。小中一貫キャリアガイダンス資料として「わたしたちの進路—自分づくりの旅へ—」（児童・生徒用及び教師用指導書）を作成し，各学校のキャリア教育の推進を図っている。また，区立学校・幼稚園のキャリア教育担当者を対象として，「わたしたちの進路」を用いた授業実践等の研修を行っているほか，キャリア教育推進委員会を設置し，資料内容や年間指導計画の検討等を</p>

		<p>行っている。なお、職場訪問・職場体験の実施に当たっては、産業振興課と協力し受入事業所の充実を図っている。</p> <p>以上のことから、推薦する。</p>
学校	杉並区立天沼小学校	<p>学校の教育目標である「よく考える子 Head (意欲をもって、自ら学ぶ子) 思いやりのある子 Heart (人へのやさしさと自分への強さをもった子ども) たくましい子 Health (心身ともに健康で最後までやりぬく子ども)」を具現する教育活動の一つとして体系的なキャリア教育を行っている。義務教育9年間のキャリア教育で育てたい「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」は職業的発達の段階に応じて形成されていくとの考えの基、全学年のカリキュラムを学校支援本部の多大なるバックアップを受けながら、計画実施している。以下は、各学年の内容である。</p> <p>1年「あまぬままつり」</p> <p>創立を記念して毎年6月に実施される子供たちのお祭りに合わせて、5月から育てているアサガオの苗を牛乳パックに植えて地域の幼稚園・保育園や地域の方々に販売（差し上げて）している。</p> <p>2年「あまぬままつり」</p> <p>創立を記念して毎年6月に実施される子供たちのお祭りに、1年生で参加した経験を生かして初めて自分たちでお店を考えることに挑戦する。お客さんに喜んでもらう、楽しんでもらうと相手意識に立つことの大切さを学ぶ。</p> <p>3年「お店番体験」</p> <p>学区内にある教会通り商店街の協力を得て、2時間ほどお店番を行う。事前にインタビューし、仕事の内容や気を付けること等をリサーチする。天沼中学校2年生からは自分たちが受講した「マナー講習会」の伝達を受け、当日に役立てている。</p> <p>4年「ユニバーサルデザインを考えよう」</p> <p>毎年、企業の参加型学習プログラムに日立を迎え、目の不自由な方の話を聞いた後に、誰もが使いやすいリモコンのデザインをグループで考え、プレゼンテーションをする。</p> <p>5年「とびだせ！がってん」</p> <p>市場調査・分析からグループごとに商品のデザインを考えプレゼンする。商品を製作・販売する模擬株式会社を立ち上げ、出資金を集めて準備を進め、商品販売を目指す。</p> <p>6年「1社まるごとお仕事トーク」</p> <p>一つの会社の様々な分野の方のお話を伺い、会社経営には、いろんな分野の仕事があることを理解する。将来の職業選択に役立てる。</p> <p>「裁判傍聴」</p> <p>東京地方裁判所の本物の裁判を傍聴する。事前に引率の保護者とともに学校支援本部が実地踏査し、当日の予定をあらかじめ検討しておく。臨場感を体験し、裁かれる立場にはなるまいと決意する。</p> <p>以上のことから推薦する。</p>

<p>学校</p>	<p>東京都立小山台 高等学校</p>	<p>『社会で活躍する”ひと”づくり』を教育目標とし、目標達成に向けた4本の柱の一つに『未来設計力を育成する進路指導』を掲げ、ステージ1・2・3と積み上げながら、生徒が自らの可能性に気付き、自分の将来を設計する力が育成される、小山台高校独自の3年間のキャリア教育プログラムを開発した。</p> <p>○キャリア教育の目標</p> <p>①社会と自己とのつながりを意識して将来の進路を考える。</p> <p>②幅広い知識と教養を身に付け、情報取捨選択能力と判断力を養い主体的に進路選択ができる。</p> <p>③授業や学校行事、部活動を通して対人力や課題解決力を身に付ける。</p> <p>④他人を敬い思いやる心と自己をよく理解し目標に努力を惜しまない強い精神力を養う。</p> <p>⑤国際的な広い視野を持ち自己の進路を考える。</p> <p>○「社会を知り考える Project」を平成24年度からスタートし、高い志を持って自分にチャレンジするプログラムが完成した。</p> <p>①ステージ1 自分と社会のつながりから進路を意識する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路講話（1学年 年2回） ・1学年総合的な学習の時間「社会を知り考える Project」 社会の第一線で活躍する人（医療福祉、環境、国際異文化理解、情報通信、科学技術、政治経済6分野）と、世の中の仕組みについて一緒に考え、探求のきっかけを図る。 ・「国際協力を考える（国際協力 NGO）」「留学生が先生」講演会 スリランカ、台湾、キルギス、ハンガリー、インドネシア、中国、ロシア、ブルガリアから留学している大学院生が、学問にかける思い、自国の将来について語る。 <p>②ステージ2 自分の目指す職業・夢につながる学部・学科を研究し、第一志望を定める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人によるキャリアガイダンス（5回 17講座） ソニー「Suica 開発者が語る不思議な物理現象」、公認会計士、NHKディレクター、弁護士 ・進路講話（2学年 年2回） ・卒業生38名による2・3学年対象進路懇談会 ・大学見学会（2学年 東大、東工大、一橋大、東京農工大、筑波大、千葉大、東京学芸大他） ・学問の面白さ体験講座（2学年 大学模擬授業8講座） 早稲田大「『平家物語』に描かれている歌人平忠度の生と死について」、中央大、筑波大、東京大学生産技術研究所、東京外国語大、首都大東京、JAXA等 <p>③ステージ3 考える授業で応用力を鍛え、最後まで全員であきらめずに頑張</p>
-----------	-------------------------	---

		<p>る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の時間（協同学習） ・進路講話③（第一志望をあきらめない） ④全学年共通 進路講演会，理科講義実験，研究所・開発現場見学など ・進路講演会（2学年系統別進路講演会，保護者向け進路講演会年5回）実施 ・化学実験（東京農工大42名），生物実験（「植物のDNA鑑定」現役大学院生28名），第一三共株式会社研究所見学15名
学校	中村中学校・中村高等学校	<p>1. 当該校のキャリア教育のねらい</p> <p>社会貢献・社会創造を視野に入れつつ「30歳の自分」を考えてキャリアをデザインできる，当該校独自の“competency”（総合的変化対応能力）を有した生徒の育成。</p> <p>2. 具体的取組</p> <p>①キャリアセンターと学年との協働</p> <p>独自のテキストを用いた6か年一貫「キャリアデザイン授業」</p> <p>②専任カウンセラー（臨床心理士）と学年との協働</p> <p>人間関係形成能力を高める「グループワーク」</p> <p>③学校と保護者との協力</p> <p>キャリアセンターと学年との協働で「保護者キャリアガイダンス」を実施し，家庭におけるキャリアデザイン授業を推進</p> <p>④啓発的体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人を招いての「生き方講演会」 ・「卒業生を囲んで」，「先輩を囲んで」 ・職場体験，職業研究（資料⑦） ・日本キャリアデザイン学会研究会への参加 <p>啓発的行事はキャリア教育のほんの一部である。日常の学校生活の様々な活動すべてが生徒のキャリアデザインにつながるという意識を全教職員が共有し，キャリア教育を「教育改革」と捉え，指導に当たっている。</p>
PTA 団体 等	特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク	<p>平成14年に特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワークを設立し，教育界と産業界をつなぐ教育コーディネート，教育関連コンサルティング，人材育成，生涯学習の推進，家庭教育の充実支援等を行う。</p> <p>平成14年に杉並区学校教育コーディネーターを受任，平成19年に東京都立高等学校教育支援コーディネーターを受託するとともに，構成員は，杉並区立天沼小学校及び杉並区立天沼中学校の運営協議会委員として，学校と地域・企業等をつなぎ，キャリア教育の推進体制の整備に積極的に活動を行っている。</p> <p>以上のことから推薦する。</p>

神奈川県	学校 横須賀市立不入斗中学校	<p>横須賀市立不入斗中学校は、平成20年にスタートした「よこすかキャリア教育推進事業」(http://www.yokosukacareer.com/)を活用し、平成21年度からキャリア教育に力を入れている。</p> <p>不入斗中学校が推進するキャリア教育は、各教科の学習により育まれる将来の職業や生活のために必要な4つの能力《「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」》を土台に、総合的な学習の時間（1年次：地域学習，2年次：職場体験学習，3年次：進路学習）をキャリア教育の中核として位置付け、地域の教育力（事業所・特別講師等）を活用し、道徳、特別活動等を通して、1年次では人間関係形成能力・情報活用能力を、2年次では情報活用能力・将来設計能力を、3年次では将来設計能力・意思決定能力を中心的な課題に据え、それらを「育てたい力」として位置付け、自分の興味や適性、能力を自覚し、自らの進路を主体的に「切り拓く力」を育成している。</p> <p>2年次の職業体験では、実施計画に基づき、働く意義から考えることから始め、地域の若手社員を中心としたMTT（マイタウンティーチャー）を活用し、地元商店街の外部教育力の活用により、組織的・体系的に取り組んでいる。</p> <p>県教育委員会としても、不入斗中学校の取組を県下に周知するため、「元気な学校づくり通信『はにい』」に2ページの特集を組み、その学習の様子をホームページ等に掲載している。県内には、その記事に影響を受けて、不入斗中学校のように地域の商店街などに働きかけてキャリア教育を進めていこうとする中学校が増えつつある。</p> <p>以上のように、不入斗中学校は他校の範となっており、優良学校としてふさわしい中学校であると判断し推薦する。</p>
神奈川県	学校 神奈川県立瀬谷西高等学校	<p>当校は、昭和53年に開設された全日制普通科高校であり、期待する生徒像を「規範意識を持ち、夢と希望の実現に向けて真摯に努力する生徒の育成」とし、日々教育活動に取り組んでいる。</p> <p>本県では、平成25年3月にかがわのキャリア教育のさらなる充実に向けて、「県立高校におけるキャリア教育の推進について（指針）」を策定し、各学校ではこの指針の趣旨を十分に踏まえ、これまでのキャリア教育に係る実践等を検証した上で、自校のキャリア教育のさらなる充実につながる「キャリア教育実践プログラム」に基づいたキャリア教育を推進している。</p> <p>当校の「キャリア教育実践プログラム」では、すべての教育活動をキャリア教育の視点から展開し、相談体制の一層の充実を図り、外部教育機関等との連携を通して、これからの普通科高校における計画的・系統的なキャリア教育のカリキュラム開発を行い、県立高校にその成果の普及を図ることを重点項目としている。具体的には、総合的な学習の時間における「キャリア講座」、学校行事及び特別活動において、地域や外部の教育力を最大限に活用する取組や、基礎的・汎用的能力の育成を図るための授業研究を行い、キャリア教育の視点からの各教科・科目の年間指導計画を作成する取組などが挙げられる。</p> <p>特に、同窓会と協力した「瀬谷西ボランティアバンク」の活用と登録者増加への工夫や公的機関やNPO法人などの外部教育力の活用により、多くのキャリア</p>

			<p>講座の開催を行うなど、キャリア教育の視点に立ち、家庭・地域の人材や関係機関の教育力を活用した、学ぶことと生きること、働くことを関連付けた多様で柔軟な体験活動の実践に、組織的・体系的に取り組んでおり、キャリア教育優良学校としてふさわしい高校であると判断し推薦する。</p>
新潟県	学校	胎内市立築地中学校	<p>築地中学校では、キャリア教育の視点に立ち「自分の将来像を描ける生徒の育成」を目標に掲げ取り組んできた。しかし、生徒や教職員の意識調査から以下のような課題が浮き彫りとなった。</p> <p>① 自分の将来（目標）に向かって努力している生徒が6割弱であったこと。</p> <p>② 教職員においては進学指導が中心となり、社会的・職業的自立に向け必要となる能力や態度を育成するという意識やそのための指導体制が十分とはいえなかったこと。</p> <p>上記の課題を受け、キャリア教育の視点に立った見直し・改善を次のように図った。</p> <p>1 校内指導体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を全校体制で推進していくために、ミドルリーダー（各主任）を中心としたキャリア教育推進委員会を設置し、以下のことに取り組んだ。 <p>(1) キャリア教育全体計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育をグランドデザインに位置付け、キャリア教育推進委員会が中心となって全体計画を作成した。また、各学年の体験学習のつながりを明確にした系統的な指導計画を作成した。 <p>(2) 教職員研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立教育センターより講師を招へいし、キャリア教育の視点に立って社会的・職業的自立に向け必要となる能力や態度の育成について全教職員で研修を行った。 <p>(3) 教育活動の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が体験学習で学んだことを将来の自分に結び付けられるよう学習内容及び事前・事後指導の見直しに取り組んだ。 <p>2 見直した教育活動</p> <p>(1) 職場体験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の育成のため、一つの事業所で一人の生徒が職場体験活動を行うことを基本とした。また、事業所より事後評価をしてもらい、生徒にフィードバックし学校生活への活用を図った。 <p>(2) 職業講話「プロに学ぶ会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決やプランニング能力の育成に重点を置き、身近で職業人として活躍している地域の方を講師に招き、職業講話を実施した。なお、教師のインタビュー形式で行い、講話の内容が生徒の将来の生き方につながっていくように配慮した。 <p>(3) 福祉施設訪問活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来行ってきた福祉施設訪問活動の訪問回数を1回から2回に増やし、入所

		<p>者と生徒のふれあいの機会を増やしコミュニケーション能力を高めるとともに、地域貢献の視点を強化した。</p> <p>3 成果と課題</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育推進委員会を中核に据えて指導体制を確立し、産業界や地域と連携して取り組んだことにより、キャリア教育の視点に立った教育活動の見直し・改善を行うことができた。 <p>その結果、全教職員が「生徒は夢を持つことの大切さを語るようになった」や「組織的かつ継続的な働きかけの大切さを感じている」に肯定的に回答しておりキャリア教育に対する意識の変容が見られる。</p> <p>また、生徒の意識調査では「将来の目標に向かって努力している」に8割の生徒が肯定的に回答しており、将来への意識が高まっている。また、自己の将来を前向きに捉え、他教科の学習にも一層意欲的に取り組むようになった。さらに、地域からもあいさつが積極的になったという評価を頂いている。</p> <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育では系統性が重要である。そこで小・中学校で行われている体験活動について、合同の教職員研修を実施し、9年間を見据えた小中連携を一層強めていくことを計画している。 <p>以上のように、校長がリーダーシップを発揮し、全校体制でキャリア教育を着実に推進していることから、キャリア教育優良学校として推薦する。</p> <p>【ホームページ】 http://tainai-ed.nxc.jp/tsuiji-jhs/</p>	
富山県	学校	富山県立雄峰高等学校	<p>1 校内委員会を設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内にキャリア教育を検討する組織としてキャリア教育推進委員会、キャリア講座の教材開発の組織としてキャリア教育小委員会を設置し、学校全体でキャリア教育を推進している。 <p>2 キャリア講座（総合的な学習の時間）の教材作成と授業実践</p> <p>①夜間単位制課程用</p> <p>基礎編（自分自身を見据え将来を考えるワーク）作成と授業実践 応用編（自分と社会との関わりを考えるワーク）作成と授業実践</p> <p>②通信制課程用「基礎編」「応用編」作成</p> <p>③昼間単位制課程用「入門編」作成、「実践編」作成中</p> <p>3 外部講師を招へいし、キャリア教育の研修会を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒対象にキャリアカウンセラーによる授業実践を実施した。 <p>4 情報ビジネス科での販売実習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬有限責任事業組合を設立し、地元商店街と連携し、花、新鮮野菜などの販売実習を実施している。 <p>5 企業見学・大学見学の実施</p> <p>①エコタウンツアーを実施し、自分と社会とのつながりを考え、将来の職業に</p>

			<p>ついて考える機会とした。</p> <p>②県内の企業・大学の見学を通して、進路決定に向けて意識を高めている。また、毎年、見学後の研修レポートを研修集録にまとめ、報告会を実施している。</p> <p>6 各教科指導や特別活動を通じたキャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人として自立できる人間の育成を目指し、長年、各教科やホームルーム等にコミュニケーション能力向上のための活動やソーシャルスキルトレーニングを取り入れている。 <p>7 キャリア教育導入に向けた研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育講演会の開催 <p>8 就職支援教員や関係機関と連携し、卒業生に対しても希望に応じて支援を継続している。</p>
福井県	学校	福井県立福井農林高等学校	<p>生物生産科、環境工学科、生活科学科、生産流通科の4学科を設置する農業の拠点校で、今年で創立120年目になる。すべての学科で「地域社会の発展に寄与する能力と態度を育てる」ことを目標に掲げ、地域社会と連携した教育を展開している。</p> <p>「総合的な学習の時間」(各学年1単位)をキャリア教育の時間と位置付け、3年間を通して系統的に『キャリア教育プログラム』を実施している。</p> <p>入学当初に「自己啓発ノート」(資料やノートをファイリングし、進路決定に向けた取組や経緯を自己把握し、自己評価できるようにした記録簿)を持たせ、学年毎の目標を達成できるよう実践している。</p> <p>1年次では、自己理解が中心で、仕事や進路に関する講演やガイダンスに加え、外部講師を招いた「ライフプランニング研修会」を実施している。生徒は、人生設計と生活資金の関係を具体的に自分の将来と重ね合わせながらライフプランニングを学んでいる。</p> <p>2年次では、勤労観育成のため、職場訪問や先進地見学に加え、全生徒が5日間のインターンシップと希望生徒が10日間の実践的長期企業実習を行っている。生徒は、受入先の依頼などの事前学習、終了後の報告書の作成とアドバイザーを招いた発表会まで、綿密な指導計画に基づいて実施している。</p> <p>3年次では、自己実現のための進路選択を中心に、学科の特色を生かした地域や企業と連携した取組を行っている。例えば、地域の方が栽培する校内農園における栽培指導や交流、地域の花壇の維持・管理(生物生産科)、地元の桜並木の維持・管理(環境工学科)、企業と商品開発したドレッシングなどを学校給食に提供(生活科学科)、校内マーケットでの農産物や加工品を毎週授業で一般販売(生産流通科)などを継続して行っている。</p> <p>また、3学年を通して15日間の校外実習、自分の在り方や生き方を考える小論文指導(年間4回)とその校内発表会(年度末)、担い手不足地域での農業ボランティアも行っている。</p> <p>一方、これらの情報を毎月学校新聞(A3裏表)にまとめて保護者に配付するとともに、学校のホームページを活用してPDFファイルで掲載し広く情報発信</p>

		<p>して、PTAや同窓会、協力団体などの組織との連携や協力を求めている。</p> <p>このように、福井農林高等学校は、地域に根差した教育活動を展開し、校内外での多くの農業や食に関する実習経験に基づいた農業教育を通して、自分の進路に対する前向きな姿勢やプレゼンテーション・コミュニケーションの力を育むキャリア教育を長年実践しているため推薦します。</p>
学校	福井県立敦賀工業高等学校	<p>電子機械科，電気科，情報ケミカル科，建築システム科の4学科を設置する工業単独校で、今年で創立52年目になる。卒業生の約8割が就職し、そのほとんどが地元で就業している。「地域社会と連携を密にし、理解と協力を深める」ことを学校努力目標に掲げ、地域に残り、地域社会に貢献できる職業人の育成を行っている。</p> <p>全生徒が勤労観育成のために3日間のインターンシップを行い、希望生徒が企業レベルの技術習得のために10日間の実践的長期企業実習を敦賀商工会議所と連携して行っている。</p> <p>各学科では、その学科の特色を生かした地域貢献活動を継続して積極的に行っている。生徒はその体験を通して、自分たちの学んできたことが地域に役立ち生かされることを実感し、自分の将来・進路について考えるよい機会になっている。</p> <p>電子機械科では、平成12年から月1回、子供たちの壊れたおもちゃなどを修理する「おもちゃ病院」を市の協力団体と一緒にしている。壊れたおもちゃを直してもらった子供たちが笑顔でお礼を言って帰っていく様子に、生徒は充実感を持っている。</p> <p>電気科では、生徒が製作した乗車可能な「ミニ電車」をいろいろなイベントで走らせている。手作りの温かみのある電車は子供たちに大人気で、現在もメンテナンスを継続して行き安全運行に心がけている。</p> <p>情報ケミカル科では、市内の小学校や幼稚園、児童クラブを訪問し、恒例となった「楽しい科学実験」の出前授業を行っている。この出前授業に参加した子供の中には、その時の体験が忘れられず、当該校に入学した者がいる。</p> <p>建築システム科では、平成22年に地元中学校の中庭改修において、ウッドデッキやカウンター、ベンチなどを町民と協力して製作した。平成24年には、地元青年会議所と連携し、5月度例会「つるがの宝再発見～中高生とともに考えるつるがのまちの未来」で「海のまちつるが」をキーワードとした観光や食を楽しむまちづくりを提案・発表し、地元敦賀の将来について関心を高めることができた。また、生徒が製作した「暖簾（のれん）」を市内中心部の商店街に掛けて景観づくりに協力した。生徒は、この製作発表会を地域の人たちの前で行い、製作のコンセプトや苦労したことを発表し、やりがいを感じる事ができた。</p> <p>このように、敦賀工業高等学校は、地域に根差した教育活動を展開し、生徒の自己肯定感や有用感を高め、自分の進路に対する前向きな姿勢やふるさとを愛する心、地域社会を担う自覚を育むキャリア教育を長年実践しているため推薦する。</p>

山梨県	学校	山梨県立上野原高等学校	<p>上野原高校は平成 24 年度から 2 年間山梨県進路指導研究推進校として、キャリア教育の実践に取り組み、教育課程の工夫及び授業改善など成果を上げている。これは平成 23 年度から総合学科高校に改編し、生徒の夢を育み、実現する学校づくりをキャリア教育にのっとり推進してきたことと相まって、21 世紀型学力を志向した学校経営につながっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制と二期制の利点を生かした教育課程 <p>52 科目に及ぶ学校設定科目を開講し、少人数で生徒の進路実現に合致した授業を展開し、1 年次の「産業社会と人間」で培ったキャリア意識を授業選択で実現している。また半期科目を設定して必履修科目の早期履修終了を図り、効率よく進路実現に向けて学習できる環境を整えるとともに、生徒のキャリア設計を促進する効果を上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科横断型の授業展開 <p>平成 24 年度に国語科と地歴科、理科と外国語科で授業計画の中に教科横断型の指導計画を導入し生徒の思考力の活性化、表現力の向上、理解の深化に成果を上げ、さらに、今年度ではこれ以外の教科でも指導計画に教科横断型指導を取り入れ、全校的に他教科との知識の共有並びに応用力や活用力を育成し、「生きる力」を育むことにつなげている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の重視と授業での実践 <p>平成 24 年度からの進路指導研究の中で特に言語活動を重視し、国語科では他教科に先行し授業の中にアニメーションを導入、生徒の活発な思考活動と深い理解を実現した。それを受け今年度はすべての教科の評価に言語活動を取り込むべく定期試験にオープンエンドの問題を出題し、生徒の思考力、表現力を高め理解を深化させる取組を行うなど、キャリア教育の一つの柱となる 21 世紀型学力の育成を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざした教育活動の実践 <p>上野原市役所と連携しながらインターンシップを市の公的機関で実施し、生徒が地域で生きる上でのキャリアモデルを形成する効果をあげている。また、地域の中学校や図書館で生徒がアニメーションを指導し、生徒自身が地域の一員としてリーダー性を育てている。更に部活動を中学生に公開し、また、JR 友の会を結成し利用駅周辺の清掃活動を展開するなど、あらゆる機会を捉えて生徒の地域社会での社会性を培いながら地域との連携を深めている。</p> <p>【ホームページ】 http://www.ueko.kai.ed.jp/index.html</p>
-----	----	-------------	---

<p>学校</p>	<p>山梨県立谷村工業高等学校</p>	<p>谷村工業高校では、キャリア教育・職業教育を教育課程に位置付けた、キャリア教育委員会を中心に、進路指導部、工業科、普通科を有機的に結び付け、組織的な指導体制を確立している。キャリア教育・職業教育の全体計画及び年間指導計画に基づき、教育課程の工夫・改善を継続して行っている。その結果、景気変動があっても平成19年度以降、6年連続、進路内定率100%を維持している。</p> <p>キャリア教育・職業教育を推進するに当たって、当該校では①「基本的生活習慣と人間性の涵養」、②「基礎学力の定着」、③「専門的知識技能の習得」の3点を重点項目に据え、教育活動を展開してきた。①は社会・人間関係形成能力の伸長を目指して、あいさつ運動、遅刻・欠席ゼロの日を月ごとに設定することや、部活動への参加を促し、豊かな人間性を育成する取組を行っている。②は社会に順応できる学力の定着を目標に、朝、基礎学習の時間を設け、全校一斉に数学や国語の基礎問題を解き、漢字検定受検の取組を全校で行っている。③は、地域産業の担い手育成のため、各工業科の教育課程の工夫改善につとめ、国家技能検定等の高度資格に挑戦させ、ものづくりコンテスト等各種競技会へも積極的に参加させて、実践的な技術技能の習得を推進している。</p> <p>平成19～21年度、文部科学省「地域産業の担い手育成プロジェクト」及び平成22～24年度、山梨県単独事業「地域連携ものづくり事業」の研究指定を受け、当該校と地元企業が連携を図り、(1)実践的技術を習得する生徒の企業現場実習、(2)高度熟練技術者による実践的授業、(3)教員の高度技術習得を目標とした企業研修、(4)企業との共同研究等に取り組んだ。研究過程ではPDCAサイクル型問題解決能力の醸成と地域産業を担う実践的技術を有する人材育成に努めた。平成23～24年度、国立教育研究所教育課程研究センターから教育課程指定校事業の委託を受け、研究主題を『山梨県富士北麓・東部の地域産業を担う人材育成』に設定して研究を行った。</p> <p>具体的には(1)地域産業界等との連携、(2)交流による実践的教育、(3)外部人材を活用した授業内容の工夫と改善、(4)実践力・コミュニケーション力・社会への適応能力等の育成、を各工業科の実習や課題研究等において取り組み、その学習内容やテーマ及び評価の研究を行い、地元の産官学のコンソーシアムの構築や「学習改善シート」の開発により授業改善が進展した。</p> <p>さらに、地元企業の要望から、より高度な専門技術を身に付けた実践的中堅技術者育成のため、平成25年に当該校隣地に開校した山梨県立産業技術短期大学校とカリキュラム連携や人的・設備的活用や優先入学制度に関して高大連携協定を結び、国立高専と同等のものづくり人材の育成を目指している。平成25年度産短大1期生においては、入学定員の約半数の生徒が当該校から優先入学等で進学している。当該校は、全教職員が、キャリア教育・職業教育の識見を有し、それぞれの授業をキャリア教育・職業教育の視点で見直し、指導案を作成しながら授業実践を進めており、企業、地域住民、関係機関とも密接に連携しながら次世代の地域産業界を担う人材育成に、学校独自のキャリア教育のプログラムを作成し、特色あるキャリア教育を推進している点が特筆に値する。</p>
-----------	---------------------	--

長野県	学校 辰野町塩尻市小 学校組合立両小 野小学校	<p>1 地域に学び、地域の人に学ぶ、施設分離型小中一貫校のキャリア教育 社会が変化し価値観が多様化する中で、児童・生徒一人一人が自らの内に生きていく上の確かな足場を築くことが求められる。故郷「たのめの里」の、人やものやことに学び、たくましく生きようとする子の育成に向け、教科外の学習（領域）として、「たのめ科」を設けて実践に取り組んでいる。（文部科学省指定教育課程特例校）</p> <p>「たのめ科」の授業時数；1～6年 55時間</p> <p>2 「たのめ科」におけるキャリア教育の推進 両小野の自然、歴史・文化、産業、人々の生き方に探究的・体験的に関わることを通して、両小野の良さに気付き両小野を愛する子を育てるとともに、自己肯定感・自己有用感を育み自己の生き方を見つめ、自らの将来の夢に向けて、たくましく生きようとする子の育成を願っている。柱となる二つの学習は次の通り。</p> <p><学習1> … 地域の良さを発見する学習 <学習2> … 自分の良さや可能性を発見する学習</p> <p>3 自分の良さや可能性を発見する学習 友や地域の人々と関わりながら体験活動を進め、自分の良さや可能性を発見するとともに、望ましい職業観を育み、自分の生き方を考える。</p> <p>小1～2…保育園児との交流や大豆栽培等により、達成感や成就感を味わい、自分への自信につなげる。</p> <p>小3～4…地域の方と共に巡る地域学習や二分の一成人式の計画運営や、美化活動等により、自分のよさや役割に気付く。</p> <p>小5…地域の産業見学や起業家との懇談、米作り等により、勤労の尊さを実感し、集団の中での役立つ自分の存在に気付く。</p> <p>小6…地域の方を通して学ぶ地域の歴史や夢探し等により、これからの自分に目を向け、自分の可能性を信じ歩もうとする。</p> <p><小5の例>地元の小野酒造の社長、とう氏の方、営農組合の酒米を作っている方からそれぞれの思いを聞く学習を行う。児童の感想には、「相手のためにもものづくりをしているんだな。」 「このような人たちのような気持ちで自分たちも米作りをしたい。」等があった。</p>
-----	----------------------------------	--

学校	塩尻市辰野町中学校組合立両小野中学校	<p>1 地域に学び自己を見つめる小中一貫のキャリア教育</p> <p>両小野小学校での教科外学習（領域）「たのめ科」（文部科学省指定教育課程特例校）による地域学習を礎として、中学校においても、「たのめ科」を中心に、地域学習を行っている。地域学習の中核をなすものは、地域の過去に学ぶ「歴史・文化・伝承・民俗」学習、地域の現在に学ぶ「職場体験学習」「自然学習」、そして地域の未来を拓く「アントレプレナー学習」である。これらの学習をとおり生徒たち一人一人が自らの内に生きていく上での確かな足場を築いている。</p> <p>2 地域学習を柱とするキャリア教育の推進</p> <p>小・中学校を通して学んできた地域の良さをアントレプレナー学習（起業家精神涵養教育、1～3年生縦割り・課題別によるグループ学習）により、商品化の企画提案やイベントの企画提案あるいは地域のPR企画提案として地域に積極的に発信する活動をすることで自己肯定感・自己有用感を育み、自己の生き方を見つめ、自らと地域の将来の夢に向けて地域を愛し・誇り・たくましく生きようとする生徒を育成している。</p> <p>3 地域の良さを生かし、地域の将来を切り拓く学習</p> <p>地域の人々や友と関りながら体験活動をとおして見出した地域の良さを「商品化」「イベント化」「PR」して地域を活性化し、地域に貢献しようとする生徒を育成するのがアントレプレナー学習である。その礎となるものは小学校における「たのめ科」での地域学習であり、中学校が全校で計画的に行っている「歴史・文化・伝承・民俗」学習、職場体験学習、自然学習である。学習の成果は文化祭で発表され、地域の方々からも好評を博している。</p> <p><地域の方の感想より></p> <p>「アントレ学習の発表よかったね。中学生がこんなに地域のことを考えてくれて感激です。もっと多くの大人に来てほしかったね。この発表を地域でも活かすべく大人が真剣に考えていかないといけないね。」等があった。</p>
----	--------------------	--

学校	長野県屋代南高等学校	<p>同校は創立100年以上の歴史があり、普通科と家庭科の専門科であるライフデザイン科が併設されている。キャリア教育において「地域・社会との連携による体験的な学習や地域企業と連携を図った実習」の実践と「キャリア教育における地域ネットワークの拠点化」を目指し、体験的な学びを生かした取組が行われている。</p> <p>1 キャリア教育全体計画に基づき、キャリア教育を1年生から総合的な学習の時間、各教科の授業等に位置付け「マナー」「コミュニケーション」「職種研究」等に重点を置き取り組んでいる。2年次は夏に全員が希望の職場で就業体験をし、更に就職希望者全員がその後2度目の就業体験をしている。年々協力してくれる企業も増え体験できる職種も増えている。</p> <p>就業体験をとおして、自己や社会について様々な気付きや発見し、自分の将来を考えることで、進路研究、自己の適性、将来の設計につながっている。</p> <p>2 同校の生徒が町おこしや観光振興のために、特別活動で「お田植えまつり」「森将軍塚まつり」「スポーツ少年団日独交流事業」などの企画、立案に加わり、参加することをとおして地域のコミュニティを活性化させるとともに、キャリア教育でつきたい「他者理解・課題対応能力」を高め、積極的に人間関係を形成し、協力・協働して物事に取り組む力を養っている。</p> <p>3 家庭科の専門科であるライフデザイン科の高齢者に対する福祉活動の一つとして、介護用二部式ねまきの寄贈を行っている。この活動は昭和59年から、在宅で介護を必要とする高齢者に対して地域の社会福祉協議会を通して、生徒が考案した独自の手作りの二部式ねまきを贈るものである。従来の着物型のねまきを高齢者や家族と関わる中で年々少しずつ改良し、平成11年度から下衣をパンツ型にし、パジャマ型「楽しくねまき」を製作するようになった。先輩から後輩へと受け継がれた活動は四半世紀を数えている。この奉仕・ボランティア活動は生徒にとって社会における自己の役割を見いだす力を与え、意欲の向上や自発性の育成をもたらしている。</p> <p>以上のように、同校は学校全体を通してキャリア教育を実践し、顕著な実績を上げていることから、推薦に十分値するものと考えている。</p>
----	------------	--

岐阜県	学校 瑞穂市立穂積中学校	<p>1. 平成22年度より継続して、系統的にキャリア教育(起業体験プログラム)に取り組んでいる。</p> <p>当校の起業体験プログラムとは、生徒が保護者より出資金を集め、模擬株式会社を立ち上げ、自らデザインした商品を地域の方々等に販売するものである。販売に至るまでに、市場調査・商品の決定・デザインの作成・出資者によるデザイン評価・発注業者の決定・商品の発注・広報活動・販売・出資者への配当金の返金といった一連の起業体験を行うものである。</p> <p>(1) 生徒主体の起業体験プログラムとなるよう段階的に進めている。</p> <p>平成22年度と翌23年度は、民間業者の支援を受けて地域の製造業者の協力を得て起業体験学習を進めた。この2年間で起業体験学習のノウハウをつかみ、平成24年度からは、業者の支援を受けることなく、学校独自で進めている。</p> <p>(2) 2年間を通して系統的に起業体験プログラムに取り組んでいる。</p> <p>起業体験学習を第2学年と第3学年の2年間取り組むことで、教師主導の学習(第2学年)から生徒が主体となって進める体験学習(第3学年)となっている。第2学年の経験が確実に第3学年での学習につながっている。</p> <p>また、3年生が1～2学期にかけて活動し、その活動を2年生の代表者が見学・体験・参加することで、2～3学期に行う2年生の体験活動に生かしている。</p> <p>2. 事前・事後指導を大切にした職場体験を継続して実施している。</p> <p>第1学年では、地域の方々との交流(創造活動)及び身近な職業調べに取り組む。第2学年では、事前・事後指導を大切にした職場体験学習を夏季休業中に実施している。</p> <p>また、この職場体験学習を核とした学習により身に付けた社会人としてのマナー等が、前述の起業体験プログラムにおける接客等の場面において生かされている。</p>
学校	岐阜県立長良特別支援学校	<p>病弱教育特別支援学校におけるキャリア教育の視点から、継続的に教育実践を追求している。</p> <p>当校では平成19～21年度に、キャリア教育に関する研究や児童生徒の社会参加や自立につながる自立活動の充実を目指した研究を行ってきた。これらの研究を踏まえて、さらに、平成24～25年度に、中教審の答申が新たに示した「基礎的・汎用的能力」の視点を踏まえて児童生徒の実態の捉え直しや支援内容について取上げ、実践をしている。</p> <p>①「特別支援教育におけるキャリア教育について」のテーマで職員研修を実施した。</p> <p>H24年 森脇勤先生(前京都市立白河総合支援学校長) H25年 渡辺三枝子先生(筑波大学 名誉教授)</p> <p>②全校研究テーマ「社会とかかわる力を育む病弱教育の在り方～児童生徒のキャリア発達の課題に即した教育実践を通して～」を設定し、全</p>

		<p>校で研究に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小一中高卒業後を見据え、一貫性、系統性のあるキャリア発達の課題表を作成した。 ・キャリア発達の課題表の観点から授業における観点位置付けと授業改善を行い、全校で研究授業を実施した。 <p>③キャリア発達の課題表の観点から個別の指導計画の項目・形式の見直しを行った。個別の教育支援計画（移行支援計画）へ反映させた。</p> <p>④「キャリア教育学校全体学習計画」を作成し、教育活動全体をキャリア教育の視点で見直した。</p>
静岡県	学校 御殿場市立御殿場小学校	<p>当该校は平成 21 年度・平成 22 年度御殿場市教育委員会の研究指定をきっかけに、継続的かつ計画的にキャリア教育の充実に努めている。平成 25 年度は学校経営目標を「夢を育む 楽しい学校！（キャリア教育を核として）」と掲げ、明確な経営構想の基に夢や希望を持って努力する子の育成に取り組んでいる。その取組は教育活動の様々な場面で行われており、特に顕著な実践として次の 4 点をあげる。</p> <p>I キャリア教育を核とする学校経営</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子供一人一人がそれぞれの「楽しい」を持ち、明日が待たれる学校づくり、また、自分の良さに気付き将来に向かっての夢や希望を持って努力する子を育む学校づくりを目指す学校経営 2 生きていくために必要な基礎となる力の育成 命の学習、道徳教育の推進（重点①礼儀・言葉遣い②勤勉・努力）⇒挨拶（共通目標）・黙働清掃・ありがとうの日 3 夢や目標に向かって努力する子供の姿を、重点目標「ちょうせんしょう！やりぬこう！」とし、ステージ毎の評価で達成を目指す 4 グランドデザイン、学校経営構想、ホームページ、学校だより等、経営方針の周知による保護者や地域の理解と協力、連携の推進 4 グランドデザイン、学校経営構想、ホームページ、学校だより等、経営方針の周知による保護者や地域の理解と協力、連携の推進 <p>II 地域・産業界等との連携・協力によるキャリア教育の実践</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 多様な職業の外部講師の講演・実演・体験活動の充実 2 保護者ボランティアの活用（読み聞かせ、授業支援、行事支援） 3 地域や関係機関との連携・協力による見学、体験、出前授業の推進 <p>III 授業におけるキャリア教育の取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 キャリア教育で育てたい力を踏まえた授業実践 <p>IV キャリア教育の視点を持った幼小中一貫教育の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 御殿場中学校区幼小中一貫教育推進の組織、計画、活動の推進 2 子供と子供の交流、教職員と子供の交流、教職員同士の交流の充実 3 幼小・小中の滑らかな接続のための取組の推進

学校	伊東市立宇佐美 中学校	<p>当該校は、学校教育目標にある「学びを喜ぶ生徒」を育てるために、キャリア教育をグランドデザインに位置付け、2年生を中心に計画的に取り組んできた。キャリア教育の実施に当たっては、県の「キャリア・コンサルタント派遣事業」を活用し、地域との連携も積極的に図っている。</p> <p>2年生の取組</p> <p>○14歳のハローワーク(6月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアコンサルタントを招き、社会や職場に対する興味や関心を持たせ、視野を広げるための講演会を開催した。 <p>○職業人インタビュー(7月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師として5名の職業人の方を招いた。生徒は興味のある職業人を2人選択し、グループで話を聞いた後、インタビューできるようにした。職業について広く正しい情報を知り、自らの適性について考える機会となった。 <p>○宇佐美小中合同研修会(8月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアコンサルタントを招き、宇佐美小・中学校の先生方向けに講演会を開いた。年代別に「今できること」について、発達段階に応じた話を聞いた。 <p>○職場体験マナー講座(9月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名のキャリアコンサルタントを招き、各学級で職場体験に向けて基本的なマナーや礼儀について学んだ。 <p>○PTA 教育講演会(10月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアコンサルタントを招き、「自律(立)した人間形成のためのキャリア教育について」というテーマの下、保護者向けに講演会を開いた。 <p>○職場体験(11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の事業所や保護者の協力の下、生徒が2日間の職場体験を行った。 <p>○キャリア面談(11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアカウンセラーを4名招き、職場体験での「事業所からのアンケート」「職場体験の振り返り」を基に、一人約10分のカウンセリングを行った。これからの学校生活や家庭での生活で取り組んでいくことが明確になった。また、将来の夢や就きたい職業などがイメージできた。 <p>○キャリアマップ作成(12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の自分の姿を具体的にイメージすることを目標に、10年後の自分がどうなっていたいかを考える手掛かりを、ワークシートを利用し導き出した。 <p>3年生の取組</p> <p>○修学旅行での商人体験(5月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪の商店街で郷土の地場産品を販売する職場体験を行った。仕事の楽しさや喜び、特にお客とのコミュニケーションの難しさや大切さを学んだ。
----	----------------	--

学校	静岡県立御殿場高等学校	<p>当該校では、平成 18 年度から「地球社会に生きる職業人として、社会をつくる人として、考え行動できる人になるための基本的資質・能力を育てる」ことを目標とした学校設定科目「キャリアプランニング」(CAP)を実施している。また、CAPを中心としたキャリア教育委員会を校内に設置し、入学から卒業までの3年間で専門学科の授業や活動も含めた系統的なキャリア教育を実践している。</p> <p>CAP(各学年1単位)は、担任・副担任によるティーム・ティーチングで実施し、ソーシャルスキルトレーニングの専門家を活用するなど、先駆的な取組である。それによって、生徒のキャリア全体を見すえた進路意識形成が図られ、系統的なトレーニングによって、ソーシャルスキルが向上している。さらに、生徒自らが考え表現し学習することを大切にする実践は、基礎的・汎用的能力の育成を通して、キャリア教育に早くから取り組んでいることを示している。</p> <p>授業内容は常にキャリア教育委員会で検討され、進路課、教務課、学年部が協力連携して行われている。従来、各担当が行っていたインターンシップや学校・企業見学等の活動もキャリアプランニングに組み込み、目的の明確化、事前・事後指導の充実によって、より効果的な学習となっている。</p> <p>さらに、当該校は3学科からなる専門高校という特性を生かして、小学生ものづくり体験講座、地域での出前講座、企業、地域との各種連携活動を進めているほか、5年連続、就職内定率100%を達成し現在も継続中である。</p> <p>静岡県のキャリア教育をけん引する学校となっている。</p>
愛知県	教育委員会	<p>半田市教育委員会では、「元気いっぱい、笑顔いっぱい、優しさいっぱいの子どもを育てよう」を合い言葉に、キャリア教育に取り組んでいる。平成 23 年度に推進委員会を立ち上げ、平成 24 年度に「幼保小中一貫教育 HANDA プラン」を策定し、市内の幼稚園、保育園、こども園、小学校、中学校でキャリア教育を推進している。取組としては、教職員研修会、半田市二分の一成入式、中学校区幼保小中懇談会、キャリア教育研究実践校の指定、小学校区対抗駅伝大会などを開催している。</p> <p>具体的には、推進委員会については、委員としてキャリア教育担当校長、小学校長代表、中学校長代表、小学校教頭代表、中学校教頭代表の5名と、教育長を始めとする教育委員会事務局で構成している。推進委員会では、半田市のキャリア教育の方針、プランの策定等を行っている。また、委員の5名を五つの中学校区から選出することにより、中学校区ごとに開催している幼保小中懇談会の情報交換も行っている。</p> <p>教職員の研修会については、平成 23 年度には、幼稚園・保育園、小・中学校のキャリア教育を担当する教職員70名を対象に、愛知教育大学名誉教授の神谷孝男先生を講師に迎え、キャリア教育の意義や目的について学ぶ機会を持った。平成 24 年度には、幼稚園・保育園、小・中学校の全教職員650名を対象に、大阪教育大学監事の野口克海先生を招いて研修を行った。</p> <p>半田市二分の一成入式については、平成 24 年度より開催しており、市内の小学校4年生約1200名が一堂に会し、第1部では14校の代表が夢や目標を発表し合い、第2部では職業人の話を聞いている。10歳の節目の時に、これまでの自分や</p>

		<p>これからの自分を考える機会としている。</p> <p>中学校区幼保小中懇談会については、五つの中学校区ごとに、私立も含め幼稚園、保育園、こども園、小学校、中学校の教職員が懇談会を開催している。中学校区ごとにテーマを決め、小1プロブレム、中1ギャップなどについての共通理解を図り、一貫した考えで指導を進めている。また、中学校区での幼保小中合同のあいさつ運動や、中学校の教員が小学校で授業を行う出前授業、中学生による小学生の学習支援や皆泳指導など、教職員同士や子供同士の交流を進めている。</p> <p>キャリア教育研究実践校については、平成24年度・平成25年度の2年間、市内の小学校を指定し、キャリア教育の研究を進めている。平成25年10月には研究発表会を開催し、市内外の教職員等がキャリア教育の実践について学ぶ機会を持った。</p> <p>小学校区対抗駅伝大会については、平成24年度より、小学校区の小学校4年生から中学校2年生までの男女10名でチームを構成し、小中学生が駅伝大会を通して交流を深めている。</p>
学校	田原市立田原中部小学校	<p>当該校では、子供が「自他を愛し、夢を抱いて、自ら動き出す人間」に成長してくれることを願っている。人格形成のキーワードを「愛」「夢」「動く」ととらえ、小学校段階では「実践力のある子供」の育成を目指している。平成24年度から文部科学省教育課程特例校の指定を受け、生活科・総合的な学習の時間・特別活動を統合した夢育活動を教育課程に位置付け、「夢を抱く子」の育成を研究している。夢育活動は、ふるさと田原に学び、ひと・もの・こととかかわることで、子供のキャリア発達をはぐくむ教育活動である。当該校では、キャリア発達で育てたい4つの力を「自分をつくる力」「人とかかわる力」「問題を解決する力」「将来を見通す力」と押さえ、夢育活動と各教科、道徳との関連を図りながら小学校におけるキャリア教育の在り方を研究している。</p> <p>具体的には、地域教材として、家族や商店街、校区の祭礼（田原まつり、田原凧まつり）、郷土の先覚者（渡辺崋山）、昔からの催し（二七の市）、福祉等を取上げ、学年ごとにカリキュラムを編成し、小学校6年間でふるさと田原のよさや課題を学び、自分がどうかかわっていけばよいか、人としてどう生きていくのかを考える単元を構想している。授業では、教材との出会いを大切に、探究型の学習を展開することで、問題を解決する力を育てている。また、授業の中に振り返りの場を設定し、自分の学びや成長を見つめ、記録に残していくことで、自分をつくる力を育てている。問題を追究する過程で、地域や家庭、友達と協働したり、働く人や専門家話を聴取したりする活動を重視し、人とかかわる力を育てるようになっている。さらに、単元の終末には、これからの田原市や自分がどうあるべきかなど、将来にわたってかかわり、考え続けることができるような場を設けることで、将来を見通す力を育成している。</p> <p>小学校でのキャリア教育に関して、学校外の意見を反映させるとともに、研究成果を市内小中学校へ啓発するために、平成24年度から近隣の教育関係者で構成するキャリア教育推進協議会を立ち上げた。具体的には、校内授業研究（年3回実施）を開催し、田原市教育委員会を始め中学校区（中学校1、小学校3）の教</p>

		<p>員や幼稚園・保育所関係者、校区会長等の地域有識者を招へいして、授業や単元についての御意見などを伺っている。また、キャリア教育の在り方・進め方などを協議したり当該校の研究成果を報告したりするとともに、中学校や幼稚園・保育所との連携を図り、幼稚園・保育所、小・中学校を通して子供の育ちを見取ることも重視している。</p>
学校	江南市立宮田中学校	<p>当該校では、自己有用感が低かったり、他人とうまく関われなかったりする等、様々な悩みを抱えた生徒が多い。このような中、平成22年度より、校区の2小学校と連携し、義務教育9年間のキャリア教育年間計画等を作成し、子供たちの健全育成を目指して、積極的に取り組んできた。</p> <p>〈小学校・中学校の連携〉</p> <p>2小学校・1中学校の9年間のキャリア教育目標や各学年の目標、各学年の実施内容を設定することで、目指す子供像やその学習内容を明確にした。そして、小中合同のあいさつ運動、宮田中学校教師による小学校への出前授業、小・中学校の合同現職研修、小中共通の学習ルールづくり、キャリア教育ノートの9年間の持ち上がり、中学生が職場体験の感想を小学生へ伝える会を開催する等、様々な場面で小・中学校の連携を深めている。</p> <p>〈体験学習の充実〉</p> <p>江南市は平成21年度より、江南市教育委員会、江南市内公立5中学校、江南商工会議所、江南ロータリークラブ、江南ライオンズクラブ、江南青年会議所、ハローワーク犬山の代表者で、江南市職場体験実行委員会を組織した。この委員会は事前リーフレットを事業所と保護者に配付し、更に事後アンケート結果を配付することで理解と協力を得ている。そのような中、宮田中学校はこのネットワークを十分に活用し、中学校2年生の生徒たちが様々な場所で職場体験を行っている。本年度は約100か所の職場体験に出かけた。</p> <p>〈地域との連携〉</p> <p>「社会形成能力」「課題対応能力」等の育成を図るために、生徒が地域の行事等（例えば、地域の夏祭りや江南市主催イベント、地域の美化活動、地域防災会議、吹奏楽部の老人福祉施設への慰問活動）に積極的に参加できるよう支援を行った。それによって、生徒は一人一人が様々な体験をし、地域社会ルールを学んだり、地域の方に賞賛されることで自己有用感が高まったりするなどの効果が現れてきた。また、「サポート宮田実行委員会」を小中学校の教師、PTAや同窓会の役員、区長、主任児童委員、民生児童委員、保護司代表で立ち上げ、地域ぐるみで子供たちの健全育成ための活動を行っている。</p> <p>〈家庭との連携〉</p> <p>当該校では、学期に1回程度、「キャリア教育だより」を発行している。その便りで、当該校のキャリア教育の具体的な取組を紹介している。この便りを、宮田</p>

			<p>中学校区の小学校1年生から中学校3年生まで全世帯に配付している。また、キャリア教育ノートを利用して、授業後に保護者から子供へメッセージを書いてもらい、キャリア教育に保護者にも携わってもらうような工夫を行っている。</p>
学校	愛知県立豊橋商業高等学校		<p>平成23年10月に、勤労観・職業観を育み、自立できる能力を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力、態度を育てることを目標に、豊商インターンシップサポートセンターを設立した。本センターは、当該校、ハローワーク、豊橋商工会議所、豊商同窓会で組織し、インターンシップの充実に向け協議する機関である。</p> <p>各学科で、インターンシップサポートセンターへ登録した事業所の中から、生徒自身の体験したい仕事を選択し、毎週水曜日の午後からインターンシップを実施している。参加している生徒は、実際に働いている方々とともに働くことで勤労観や職業観を学び、協調性、積極性、主体性や創造性を身に付け社会に出て役立つ人間になることを目指し、意欲的に取り組んでいる。インターンシップ参加者へは、校内での多面的な指導が行われており、生徒の良さを各事業所や地域の方々に知ってもらうこともできている。</p> <p>当該校では、産業界の求める生徒を育成する必要がある、挨拶や制服の着こなし、敬語の使い方などのビジネスマナーを身に付け、社会人として必要な資質を伸ばしている。また、地域の活性化と街づくりのため、生徒に対する期待も大きく、それに応える活躍を願い、今後も更に充実発展するものと確信する。</p> <p>この取組は、地域社会に役立つ人間の育成を目指しており、実社会に送り出された若者が地域や地元産業界の活性化・発展に大きく貢献することが期待でき、実効性のあるキャリア教育であるため推薦する。</p>
三重県	教育委員会	亀山市教育委員会	<p>亀山市は平成16年度から文部科学省事業「キャリア教育推進地域指定事業」を受け、三重県において先進的にキャリア教育を推進している。市内の中学校では、平成13年度から5日間の職場体験を実施しており、各中学校が推進委員会を設置し、学校・地域が連携した取組となっている。そうした中で、亀山市教育委員会は、3中学校の調整、市民への広報及び市内の県立高等学校や地域・産業界との連携を図るなど亀山市におけるキャリア教育推進のコーディネーター役を担っている。</p> <p>1 中学校における5日間の職場体験</p> <p>平成11年度、兵庫県の「地域に学ぶ中学生・体験活動週間『トライやる・ウィーク』」の取組を参考に、亀山市立中部中学校において、校区内の住民で組織された教育協議会の協力により受入事業所の開拓を行い、職場体験を開始した。</p> <p>平成13年度には、県事業「自分発見！中学生・地域ふれあい補助事業」の指定を受け、亀山市立亀山中学校、関中学校（旧関町立）においても5日間の職場体験学習を開始した。平成17年度の市合併後、平成21年度から3中学校が同時期に職場体験を実施している。</p>

		<p>2 市教育委員会の取組</p> <p>(1) 推進委員会を各中学校に設置</p> <p>平成13年度から下記のとおり各中学校において推進委員会を設置している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 亀山中学校地域に学ぶ学習推進委員会 (校長, 教頭, 2年職場体験担当, 1年進路担当, PTA会長, 教育協議会長, 亀山市教育委員会, 亀山商工会議所) ・ 中部中学校インターンシップ事業推進委員会 (校長, 教頭, 2年職場体験担当, 1年進路担当, PTA会長, 教育協議会長, 亀山市教育委員会) ・ 関中学校体験学習推進委員会 (校長, 教頭, 2年職場体験担当, 1年進路担当, PTA会長, 教育協議会長) <p>(2) 職場体験学習担当者会議を主催(年4回)</p> <p>3中学校の推進委員会の代表者と市教育委員会の担当者と構成し, 事業所の調整, 3校の取組の情報交換及び共通のアンケートの実施等について協議している。</p> <p>(3) 高校との連携</p> <p>亀山市中高連携会議を主催し, 亀山高等学校のインターンシップと3中学校の職場体験の日程調整及び中高の取組の交流を行っている。</p> <p>(4) 感謝状の贈呈</p> <p>3中学校が同期間に職場体験を開始して5年目となった本年度, 5年間の協力事業所100所に感謝状を贈呈している。贈呈式には30事業所の代表者が出席し, 欠席した事業所には, 市教育委員会の職員が訪問して贈呈した。</p>
学校	東員町立稲部小学校	<p>稲部小学校は第1学年2クラス, 第2学年～第6学年1クラス, 特別支援学級2クラスの全校児童221人である。「生きる力」の育成を目指して取り組んできており, 様々な教育活動をキャリア教育の視点で見直すとともに, 特に, 「自らの将来を切り拓く力」を「生きる力」の大切な要素であると考え, 次の三つの育成を目指して取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 様々な人とふれあえる力 ② 自分を伸ばし, 社会に役立つことに喜びが持てる職業観 ③ 中学3年生の段階で進路選択ができる学力 <p>1 経緯</p> <p>平成19年度からキャリア教育の視点を意識した取組を始め7年目となる。平成25年度は「東員町16年一貫教育プラン」を基に実践している。</p> <p>また, 平成24年度・平成25年度は県事業「体系的なキャリア教育実践研究」の指定を受け, 稲部小学校独自の取組とともに, 中学校・高等学校との連携について, 研究を進めている。</p>

		<p>2 主な取組</p> <p>(1) 6年生職業体験の取組</p> <p>2月に2日間、町内の事業所において実施（原則1事業所1児童）している。6年間の学習の集大成として位置付け、児童が小学校での学習を通して身に付けてきた様々な力（相手が伝えようとすることを理解したり、自分が伝えたいことを整理して相手に伝える力・話し方、あいさつ、マナー、感謝の気持ちを伝えたりすること等）を発揮して取り組むことにより、働く人の誇りや思い、優しさに触れるとともに、自分の成長を実感し、卒業式での発表につなげている。</p> <p>○主な事前・事後指導の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前指導・・・家族への聞き取り、仕事調べ、事業所への依頼、企業経営者による授業 ・事後指導・・・事業所への礼状、児童間の交流会、卒業式での発表 <p>(2) 異校種・異年齢との交流</p> <p>①隣接する保育園、幼稚園との連携</p> <p>小学1，2年生が保育園児・幼稚園児とともに、遊びを通して社会作りを学ぶ「いなべっこフェスティバル」を実施している。</p> <p>②特別支援学校との連携</p> <p>稲部小学校区に在住し、北勢きらら学園（特別支援学校）に通学する児童が稲部小学校に登校し一日過ごしたり、4年生が北勢きらら学園を訪問したりするなど、共に活動する機会を設けている。こうした交流を通して、多様な個性や考えを理解し関わる力を伸ばし、共に生きる意識・態度を育成している。</p> <p>(3) 地域・保護者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科において、働くことの大切さや苦勞を知る機会として地域の商店街や地元の工場見学を実施している。（3年生） ・身近な人の生き方を知る機会として、保護者が職業紹介・特技（そろばん、ピアノ、英語、習字、マジック等）を指導している。（4年生） <p>3 組織的な取組と地域との信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教育活動をキャリア教育の視点でつなぎ一貫性を持たせたことにより、全教職員で組織的に取り組む体制を整えている。 ・学校生活において重視している「一生懸命に取り組むこと」「人と関わること」「意欲的に学習すること」が社会でも必要とされていることを教師自身が確信している。 ・職業体験等を通して、「稲部小の児童は一人でもしっかり取り組める」という評価をもらうなど、学校として地域からの厚い信頼や高い期待を実感している。
--	--	--

学校	鈴鹿市立平田野 中学校	<p>当該校は、1、2年生各5クラス、3年生6クラス、全校生徒は512人である。平成24年度・平成25年度三重県教育委員会「体系的なキャリア教育実践研究」の指定を受け、特色ある教育を推進している。キャリア教育を学校経営の重要な柱の一つに据え、学校の教育活動をキャリア教育の視点で見直し、カリキュラムマネジメントの手法を用い、体系的にキャリア教育を推進している。3年間を通して、生徒の社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度の育成に組織的・系統的に取り組んでいる。</p> <p>1 キャリア教育を体系的に推進</p> <p>各教科の内容について整理し、育てたい力を指導計画に明示することにより、生徒自らが学習活動の中で自分に必要な力を意識できるようにするとともに、実感できるように教材や指導方法を工夫している。また、各教科間や教科とその他の教育活動（道徳、総合的な学習の時間、特別活動）に関連性を持たせ、3年間を見通した体系的な学習活動を実施している。</p> <p>2 特色ある職場体験の取組</p> <p>平成24年度より5日間の職場体験を実施している。2日間就業体験をした後、3日目にその成果や課題を学校に持ち寄り、異業種で体験した5～6人のワークショップを実施し、生徒間で成果と課題を共有している。成果と課題の他、困っていることや心配なこと、うれしかったことなどを、学校独自が開発した概念化シートを基にしたKJ法で分析するなど、多様な意見交流を行っている。こうした活動を通して、初めての職場体験で感じた不安を解消するとともに、生徒自身の学びや気付きがあり、後半の2日間の充実した体験につながっている。平成25年度は10月に第2学年170人余の生徒が50の事業所において5日間の職業体験を行った。</p> <p>3 他校種や地域・産業界との連携</p> <p>(1)「平田野中 ものづくり 人材育成 プログラム」</p> <p>技術科や科学部では、「ロボット製作学習」に取り組み、小中連携の取組の一環として、小学校への出前授業を行い、科学部ではロボットコンテスト出場を目指している。特に、技術科においては、「ものづくりを支える能力などを一層高めるとともに、よりよい社会を築くために、技術を適切に評価し活用できる能力と実践的な態度の育成」を目指して活動し、ロボット製作もアイデアを形にする活動を通して、それらを活用する力を育成することを目指している。</p> <p>(2) 理科教育の充実</p> <p>昨年度の学習状況調査等で、他の教科に比べ理科のポイントが高いという結果が明らかになった。その強みを更に伸ばすため、理科教育において、IT機器を導入するとともに、生徒の興味関心を向上させるための実験を工夫するなど、理科の学習指導を中心として、全校体制で授業改善や実験の研究に取り組んでいる。また、郷土鈴鹿の「ものづくりの推進」という観点からもキャリア</p>
----	----------------	---

		<p>教育との関連を図りながら取り組んでいる。</p> <p>(3) 他校種との連携</p> <p>ア 校区の小学校との連携</p> <p>代表生徒が小学校を訪問し、5年生を対象に、職場体験で得られた成果をプレゼンテーションする「職業体験学習報告会」を行っている。</p> <p>イ 高校授業体験講座</p> <p>3年生を対象に、将来の職業選択も見据えた体験講座として、年2回実施している。普通科の他、農業、工業、情報、体育、デザイン等の専門高校や高等専門学校が出前授業を行っている。実施後のアンケートでは、90%以上の生徒が「進路決定に役立つ。」「良い経験だ。また受けてみたい。」と回答しており、満足度は高い。</p> <p>(4) 産業界との連携</p> <p>地元の自動車産業の企業経営者による授業や宇宙開発に携わる研究者の講演会を実施し、人生に見通しを持つことの大切さ（キャリアプランニング）やあきらめないことの大切さ（課題解決）を学ぶ機会を設けている。</p> <p>【ホームページ】 http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/hirata-j/</p>
学校	三重県立津商業高等学校	<p>当该校は三重県中勢地区における商業教育の拠点校として、ビジネス科と情報システム科を設置し、全20クラス800人が在籍する。地域の産業経済界をリードし、貢献できる人材を育成することを目的に教育を行っており、卒業生の進路選択は地域の担い手として地元企業に就職する者と、さらに、専門教育を受けるため進学をする者がほぼ同数である。このような状況の中、将来社会で必要とされる人間力及び勤労観・職業観の育成を目指しキャリア教育を推進している。生徒が学校生活で身に付けた専門的な知識やスキルを活用し、コミュニケーション力を発揮することにより、自らの成長を確かめるとともに、自らの在り方生き方を考える機会となるよう、様々な活動に取り組んでいる。</p> <p>1 インターンシップの取組</p> <p>平成13年度に「課題研究」の中でインターンシップを開始し、現在、2年生全員が夏季休業中を中心にインターンシップを行っている。就職希望者は地域の事業所で行い、進学希望者はスクールインターンシップとして、希望する大学等での体験に参加している。受入事業所を確保するために、三重県商工会議所連合会・津商工会議所と連携して進めている。平成18年度・平成19年度は中小企業庁委託・三重県商工会議所連合会の事業「若者と中小企業とのネットワーク構築事業」も活用している。</p> <p>(1) インターンシップ日誌「がんばろうノート」の取組</p> <p>インターンシップを通して自分の在り方・生き方を考えるための取組として、「がんばろうノート」を当该校独自に作成している。生徒は、体験前に調べ学習に活用し、心構え等を記入する。体験中は毎日の学びや気づきを書きとめ、</p>

振り返りを行うとともに、事業所の担当者からの一言を書きいただいている。体験後は、礼状の下書き、学習のまとめや感想等を記述し、一連の活動が一冊にまとめられ、生徒が自らの成長を確認できる取組である。

(2) インターンシップ報告会の開催

12月にはインターンシップ報告会を実施し、1、2年生全員に向けプレゼンテーションを行っている。2年生にとってはそれぞれの学びを共有し、1年生にとっては翌年に向けての意識付けや意欲の向上につながる取組である。

2 産業界との連携

(1) ネットショップ運営 「ネット津商ッ」

平成20年度より地元企業と提携し販売を開始し、現在5社の製品を扱う。平成23年度には共同で商品を開発し、パッケージデザイン等を生徒が担当し、現在も機会ある毎に販売実習に活用している。平成25年度は地元事業所の協力を得て、オリジナル「津ぎょうざ」の開発に取り組んでいる。

(2) 商店街との連携

平成24年度より地域商店街の活性化に取り組んでおり、協力3商店のWebページ作成と管理を生徒が担当している。生徒が主体的に情報を収集し、商店のニーズの把握、Webページ更新方法の指導、サポートのためのヘルプデスクの運営などの継続的な支援を行い、生徒にとって地域を知るよい機会になっている。

(3) 卒業生調査の実施

商業教育のさらなる充実・改善を目的に、卒業生に関する現状調査を実施している。教員が地域の事業所を訪問し、担当者から、就職した卒業生の仕事ぶりや、採用時に重視する要素、必要と思われる高校の教育活動等について、聞き取りを行うことで、学校の指導内容の参考にするとともに、就職におけるミスマッチの防止につなげている。

3 保護者・地域・異校種との連携

(1) 外部人材等の活用・卒業生の協力

ア 県事業「三重県版ようこそ先輩」を活用し、1、2年生の進路意識の醸成を図り将来設計を考える取組として、当該校の卒業生で生徒の年齢に近い社会人や大学生による講話を行っている。生徒にとって近い未来の自分の姿を考える機会となるとともに、卒業生にとっても、自らを振り返り、様々な気づきがあると聞いている。

イ 県内外で活躍する方々による学年別の講話を行ったり、ビジネスマナーや「社会人として求められる力とは」等についての講義や実習を行ったりしている。

(2) 様々なパソコン講座への参加

市民講座や、小中学生及びその保護者対象の講座等で、生徒が講師を務めたり、教員のアシスタントとして参加者をサポートしたりしている。

			<p>(3) 保護者向け学習会</p> <p>平成24年度よりPTAとの協賛事業として毎学期1回、保護者が生徒となって、当該校教員等による授業体験を実施している。親子の会話が増えたとの声も多い。</p>
滋賀県	教育委員会	近江八幡市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> 平成16年度から市長部局と連携し、「近江八幡キャリア教育推進協議会」を立ちあげ、自分の生き方を考える機会として、職場体験を位置付け、進路を選択できる力や社会人として自立できる力を育むことを目指してキャリア教育の推進に取り組んでいる。 本協議会は、地元商工会やJA、市役所都市産業部の代表、幼稚園、小学校、中学校の代表、市教委担当者で組織されており、平成16年からこれまで継続して開催されている。 本協議会は、毎年、5月と2月に開催し、本協議会を通じて各受入事業所にキャリア教育の意義や目的、身に付けさせたい力を伝えるとともに、事業所から今の若者の姿から学校へ期待することを聞き、互いのキャリア教育に関する考え方のすりあわせを行うことで目的に沿った職場体験が実施できるようにしている。 市内全4中学校で5日間の職場体験を実施しており、この協議会とは別に、中学生チャレンジウィーク担当者会を年3回実施し、職場体験について成果や課題を共有したり、受入事業所の調整などを行ったりすることで、職場体験のスムーズな実施を図っている。 本市教育委員会では、「キャリア教育の推進に向けて～キャリア発達支援プログラム～」を作成し、保育所・幼稚園から高等学校までの各学校園における取組を系統的にキャリア教育の視点で実施できるようにしていることは特筆すべきことである。
	学校	彦根市立鳥居本中学校	<ul style="list-style-type: none"> 毎年7月1日「びわ湖の日」の活動の一環として、小中合同クリーン活動に取り組んでいる。小中学生が一緒になり、保護者や地域の方とともに、町内の清掃活動に取り組んでいる。小中それぞれのリーダーが計画段階から一緒に話し合い、内容や方法を決めている。 「鳥居本を百合の花でいっぱいにする会」を立ち上げ、駅や自治会館、コミュニティセンターに百合の花を配布する活動に取り組んでいる。生徒が前年度にプランターに植えて咲かせた百合を、男鬼（おおり）森林学習で生徒が間伐し作成したプランターカバーをつけて配布している。 「スーパービューティフル鳥居本（SBT活動）」と銘打ち、生徒会が中心となってボランティアを募り、学校周辺の清掃を行っている。 中学1年生では、「職場聴き取り学習」を実施し、働くことの意義や目的などを市内の事業所を訪問して聴き取り、発表会を行っている。 中学1・2年生に対して「職場マナー講座」を実施し、事業所の方からあいさつや相手を思いやる気持ちの大切さを学ぶ機会とし、中学2年生の職場体験の事前学習の一つとして位置付けている。 中学2年生における5日間の中学生チャレンジウィーク（職場体験学習）では、

			<p>実施前に辞令交付式を行い、生徒の職場体験への意欲を高める取組や、実施後の報告会では、同学年だけでなく、小学5年生を対象にするなど、将来への希望や夢を抱くような取組を行っていることが特徴としてあげられる。このことにより、学んだことや感謝の気持ちを発信することで、達成感や自己有用感を醸成する機会ともなっている。</p> <p>・中学3年生では、「とりいもと time ボランティア」を実施し、今まで自分たちがお世話になった場所に対して、感謝の意を示すために、保育園、自治会館、駅の清掃に取り組んでいる。</p>
京都府	学校	京都府立海洋高等学校	<p>京都府立海洋高等学校は、近畿唯一の水産・海洋系単独の専門高校として「Be Unique!」(唯一, 他にない) をスローガンに掲げ、海の魅力を生かしたキャリア教育・シティズンシップ教育を推進している。本年度は、「環境のための地球規模の学習及び観測プログラム(グローブ) 指定校」(文科省), 「スペシャリストネットワーク京都指定校」(京都府教委) として、地域連携・校種間連携を重視した実習や研究を柱に、知識や技術を活用し地域・社会に貢献する体験活動に力を入れている。「自己有用感のはぐくみ」をコアコンセプトに、体で感じ心揺さぶられる体験的な学びを通して職業観・勤労観の育成を図る教育の仕掛け作りやネットワーク構築・活用力は、京都府のキャリア教育をけん引するのみならず、全国水産・海洋系高校の中でも先駆的实践を行う高校として注目を集めているところである。</p> <p>キャリア教育に係るユニークな取組を次に示す。</p> <p><人材育成プログラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ○京都府水産事務所との連携により、定置網漁業他のインターンシップを実施し、京都府北部の若手漁業者を育成 ○京都府漁業士会との連携により、マガキ、イワガキ育成と出荷作業を体験し、養殖漁業技術の習得を推進 ○京都水族館飼育職員を招いて水槽展示や飼育方法などの指導を受け、アクアリウムの専門家を育成 ○各企業等で活躍するプロフェッショナル卒業生(造船技師, 海上保安官, 水族館飼育員) を招いて技術指導や講演会を実施 ○京都府水産事務所と連携し、魚食を通して食育とともに魚食文化の伝承を推進 ○京都府海洋センターや京都府漁協と連携し、アマモ場造成やウニなどの外敵駆除による藻場造成(京都府の水域改善研究) に共同参画 ○環境学習出前講座や小中学生の体験学習で海洋高校生が研究成果プレゼンや体験活動の指導を行い、「海洋生がキャリアモデル」となって専門的学びや職業・社会に対する小中学生のキャリアプランニングをサポート ○SSH指定校とのコラボで、丹後の海の水生生物や水域環境のフィールドワークを実施 ○総合的な学習の時間をキャリアチャレンジと位置付けて年間計画を立案し、資格取得や社会人基礎力につながる講座を通して生徒のキャリアアップを推進

			<p>○水産海洋系大学を訪問して専門高校ならではの学習内容や実習の在り方を研究する高大接続教育の取組を推進</p> <p>○船長候補の育成に向けて、四・三・二級海技士国家資格の取得支援と受検を奨励</p> <p>○海洋キャリアチャレンジという時間枠を朝 10 分間設定し、基礎学力や読書力の向上を通して主体的に学ぶ力を育成</p> <p>○研究活動や実験実習などの公開発表会を年 3 回実施し、外部有識者等からの評価・指導も受けつつ、ことばの力・伝える力を育成</p> <p><ハイスクール起業チャレンジプログラム></p> <p>○底曳網漁獲鮮魚や実習製品を、校内や地元企業との連携によるアンテナショップで販売</p> <p>○宮津市やKTR（北近畿タンゴ鉄道）との連携で駅水族館「魚魚駅舎（ととステーション）」を運営</p> <p>○海の廃棄物（ヒトデ・海藻）と山林の間伐材（竹）を活用した堆肥化研究、里海と里山をつなぐ 6 次産業化を推進</p> <p>○学科間連携や他校との共同研究・販売を促進し“海洋ブランド”の確立</p> <p>○地元休耕田を利用して京料理の伝統食材であるホンモロコを育成し、養殖技術のノウハウを地域社会に還元</p> <p>○商品価値の高い丹後“ナマコ”の採苗と新商品開発を地元企業や京都大学水産実験所と協同で研究開発</p> <p>以上のように、府立海洋高等学校では生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度を育成するために小・中学校や他の高校、地域・産業界と連携・協力しながら、全国的にもユニークな取組を計画的・積極的に進めており、その実践は全国の高等学校の模範として高く評価できることから、文部科学大臣表彰の対象校として推薦する。</p> <p>【ホームページ】 http://www.kyoto-be.ne.jp/kaiyou-hs/cms/</p>
大阪府	学校	高槻市立富田小学校	<p>高槻市立第四中学校区（同中学校，富田小学校，赤大路小学校）では、以前より同中学校区内の保育所・幼稚園・高等学校や地域の方々と協働しながら、「0歳から18歳まで」を合い言葉に子供たちの「生きる力」を育むため、地域・校区連携を基盤としたキャリア教育を進めてきた。</p> <p>その取組を更に進めるべく、平成22年度～25年度に文部科学省研究開発学校の指定を受け、「実生活 いまとみらい科」の研究・開発に取り組んだ。</p> <p>「実生活 いまとみらい科」では、各教科で身に付けた知識や技能を活用し、現実の社会の中で直面する課題を解決するための知識・技能，思考力・判断力・表現力，社会参画力を育むことや、各教科等の学びの原動力として学習意欲を向上させることをねらいとし、小・中学校9年間を通したカリキュラムを作成し、</p>

		<p>それに基づき、「10年後の社会を考える」「住みたい街 NO.1高槻」など、身近な問題をテーマにした学習を進めた。</p> <p>また、「SR-PDCA」学習サイクルの研究を行い、児童が自分の立ち位置を見つめ(S)、広い視野から学習課題を見つけ(R)、計画し(P)、実行して(D)、結果を振り返り(C)、それを次の学習に活かす(A)実践を行った。取組の成果として、平成24年度の大阪府学力・学習状況調査の結果において、「活用する力」に向上傾向が見られることや、子供たちが様々なことに挑戦したり、最後まであきらめない意識が確実に育まれたりしていることなどが挙げられる。また、不登校児童数の減少も、この取組の成果と考える。</p> <p>これらの取組を評価し、高槻市立富田小学校をキャリア教育優良学校として推薦する。</p>
学校	高槻市立赤大路小学校	<p>高槻市立第四中学校区(同中学校、富田小学校、赤大路小学校)では、以前より同中学校区内の保育所・幼稚園・高等学校や地域の方々と協働しながら、「0歳から18歳まで」を合い言葉に子供たちの「生きる力」を育むため、地域・校区連携を基盤としたキャリア教育を進めてきた。</p> <p>その取組を更に進めるべく、平成22年度～25年度に文部科学省研究開発学校の指定を受け、「実生活 いまとみらい科」の研究・開発に取り組んだ。</p> <p>「実生活 いまとみらい科」では、各教科で身に付けた知識や技能を活用し、現実の社会の中で直面する課題を解決するための知識・技能、思考力・判断力・表現力、社会参画力を育むことや、各教科等の学びの原動力として学習意欲を向上させることをねらいとし、小・中学校9年間を通したカリキュラムを作成し、それに基づき、「10年後の社会を考える」「住みたい街 NO.1高槻」など、身近な問題をテーマにした学習を進めた。</p> <p>また、「SR-PDCA」学習サイクルの研究を行い、児童が自分の立ち位置を見つめ(S)、広い視野から学習課題を見つけ(R)、計画し(P)、実行して(D)、結果を振り返り(C)、それを次の学習に活かす(A)実践を行った。</p> <p>取組の成果として、平成24年度の大阪府学力・学習状況調査の結果において、「活用する力」に向上傾向が見られることや、子供たちが様々なことに挑戦したり、最後まであきらめない意識が確実に育まれていたりすることなどが挙げられる。また、不登校児童数の減少も、この取組の成果と考える。</p> <p>これらの取組を評価し、高槻市立赤大路小学校をキャリア教育優良学校として推薦する。</p>
学校	高槻市立第四中学校	<p>高槻市立第四中学校区(同中学校、富田小学校、赤大路小学校)では、以前より同中学校区内の保育所・幼稚園・高等学校や地域の方々と協働しながら、「0歳から18歳まで」を合い言葉に子供たちの「生きる力」を育むため、地域・校区連携を基盤としたキャリア教育を進めてきた。</p> <p>その取組を更に進めるべく、平成22年度～25年度に文部科学省研究開発学校の指定を受け、「実生活 いまとみらい科」の研究・開発に取り組んだ。</p> <p>「実生活 いまとみらい科」では、各教科で身に付けた知識や技能を活用し、現実の社会の中で直面する課題を解決するための知識・技能、思考力・判断力・</p>

		<p>表現力，社会参画力を育むことや，各教科等の学びの原動力として学習意欲を向上させることをねらいとし，小・中学校9年間を通したカリキュラムを作成し，それに基づき，「10年後の社会を考える」「住みたい街 NO.1高槻」など，身近な問題をテーマにした学習を進めた。</p> <p>また，「SR-PDCA」学習サイクルの研究を行い，生徒が自分の立ち位置を見つめ（S），広い視野から学習課題を見つけ（R），計画し（P），実行して（D），結果を振り返り（C），それを次の学習に活かす（A）実践を行った。</p> <p>取組の成果として，平成24年度の大阪府学力・学習状況調査の結果において，「活用する力」に向上傾向が見られることや，子供たちが様々なことに挑戦したり，最後まであきらめない意識が確実に育まれていたりすることなどが挙げられる。また，不登校生徒数の減少も，この取組の成果と考える。</p> <p>これらの取組を評価し，高槻市立第四中学校をキャリア教育優良学校として推薦する。</p>
兵庫県	学校 兵庫県立猪名川高等学校	<p>当该校は，全日制普通科高等学校で2学年生徒全員が事業所におけるインターンシップを行っている。期間は夏季休業中の3日間～5日間で実施。当该校は農業地域と新興住宅地が混在する地域にあり，地場産業は少ないが，学年全員がインターンシップを行うことができる事業所数を確保している。そのため，生徒の希望を元に，インターンシップコーディネーターと連携して，開拓を行っている。</p> <p>また，当该校独自のインターンシッププログラムも確立している。事前指導，事後指導が充実しており，生徒には事前指導当初より，「インターンシップノート」を配布している。自分理解のためのワークシート，インターンシップ企画書，事業所決定から事前訪問，そしてインターンシップ期間までのスケジュール管理やタスクリストなどをまとめることで，キャリアプランニング能力や自己管理能力を高められるように工夫をしている。事後指導では，グループワークやプレゼンテーション等の言語活動を取り入れ，インターンシップを総合的に振り返らせている。また，生徒の勤労観，職業観を体験と道徳の両面から結びつけている。</p> <p>これらの取組により，「事業所と学校の双方で生徒を伸ばす。」の共通理解が受入先との間で確立され，学校全体での取組状況やインターンシップを実施する生徒に対する事業所の評価も良好である。その結果，生徒の職業意識が高まり，学校全体の学習意欲も高まっている。</p>
	学校 兵庫県立東灘高等学校	<p>1 当该校の現状と課題</p> <p>当该校は，神戸市東部に位置する全日制普通科の高等学校であるが，中学時代に様々な課題（家庭環境，不登校，怠学傾向 等）を有し，勉強に集中することができなかつた生徒，成功体験が少なく，自尊感情が低い生徒が多く入学してきている。自分の将来に夢や希望を持つことができず，高校生活に意味を見いだせず，転退学する生徒も少なくない。</p> <p>2 学校経営方針への位置付け</p> <p>当该校の学校経営方針は，「君の『夢』サポートします・地域と共にある地域に輝く東灘高-」であり，重点目標1は「『基礎・基本』の徹底，進路保障（3）キャリア教育の充実と将来設計の確立（夢を持たせる）」としており，教育活動</p>

		<p>の根幹に「キャリア教育」を位置付けている。具体的には「キャリア教育」をテーマとした「総合的な学習の時間」、LHR、課外活動など様々な機会を利用して、取組を進めている。</p> <p>3 3年間を見通したキャリア教育 各学年の目標を1学年「自分を知ろう」2学年「進路を決定しよう」3学年「進路を実現しよう」とし、3年間の進路指導計画により指導をしている。</p> <p>4 体験学習の活用 当該校では、様々な体験活動を実施しているが、それらの体験によって達成感を得させ、自信を持たせるとともに、自らの進路決定、目標設定につなげている。</p> <p>1学年：企業体験（5月） 2学年：夏季体験学習、インターンシップ、ワークキャンプ、ふれあい看護体験、ふれあい保育体験（2年間で1人5回） 希望者：東北ボランティア、地域の小学校でのプール指導補助、地域の夏祭りの手伝い（夏休み）、地域の幼稚園児を招いてのサツマイモ掘り交流会、地域の高齢者を招いてのふれあいコンサート 部活動：地域の保育所、高齢者施設を訪問してのふれあいコンサート</p> <p>5 横断的な取組 キャリア教育は「進路指導」だけでなく、「生徒指導」「学習指導」などとも関連させて取り組んでいる。</p> <p>生徒指導：人間関係を構築 ルールやマナーを守れる あいさつができる 学習指導：基礎学力の定着 学び直し（学校設定教科「ブラッシュアップ」）</p>
奈良県	学校 五條市立西吉野中学校	<p>当該校は、平成20年度文部科学省・県教育委員会指定「キャリア教育実践プロジェクト（キャリア・スタート・ウィーク推進地域事業）研究指定校」として、キャリア教育推進に係る教育課程を編成し、地域清掃や福祉施設訪問等を取り入れ、充実した取組を進めてきた。中でも、総合的な学習の時間に位置付けて実施している「カッキータイム」と名付けた取組は、地域の産業を有効に活用し、地域の人たちと協力して生徒のキャリア発達を目指した取組である。</p> <p>《具体的取組》 地域の学習素材「柿」を通し、自ら進んで学ぶ力を付け、我が郷土への愛情を育み、地域の活性化に貢献できる生徒を育てるとともに、その活動を通して、生徒自身の進路を切り拓く力を育てることを目的として「カッキータイム」を実施している。</p> <p>実施内容は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会園芸委員会を中心とした班を編成し、実習園の富有柿を栽培し、摘蕾、摘果、収穫までを行う。 地元のJAや奈良県農林部技術職員と連携し、年間計画に沿って柿を育てるための知識や技術を教えてもらったり、教えてもらったことを生かして実習を行ったりしている。

		<ul style="list-style-type: none"> 平成 24 年度までは、(株) 大阪青果市場を訪れ、市場体験（販売実習）も行ってきた。今年度は、地元の J A に協力いただき、全校生徒が参加して 11 月頃に販売実習を実施する予定である。 柿の栽培以外にも、「柿の創作料理実習」や「梅の加工品作り」、「生け花実習」なども年間計画の中に位置付けて実施している。地域人材や保護者をゲストティーチャーとして招き、生徒が地域に対する愛着を深める一つの手立てとした。
学校	河合町立河合第二中学校	<p>当該校は、学校教育目標を達成するため「夢を育む」「学びを育む」「心を育む」の三つの重点目標を掲げ、体験活動、ボランティア活動などの活動を積極的に取り入れてきた。特に平成 23 年度からは、道徳教育も積極的に推進し、豊かな勤労観など、心の面からもキャリア教育の推進・充実に取り組んできた。</p> <p>同校は、キャリア教育の目標を、</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の理解（個性や特性）を深め、集団の中での人間関係について学ぶ 様々な体験を通して、自己有用感を持ち、自分の生き方について考える 正しい勤労観、職業観を身に付け、仕事に就くことへの意欲を高める <p>と設定し、3年間を通して、社会で自立し、生きていく力を育むために様々な活動に取り組んできた。</p> <p>《具体的取組》</p> <p>平成 11 年度より P T A 及び地域の方々の協力を得て、全校生徒を対象に生徒の自由選択により「進路学習講演会」を実施している。毎年 10 前後の職種から生徒が関心のある講座を選択し、ゲストティーチャーの話を聞く機会を設けている。さらに、平成 13 年度より地域の理解、協力を得て 2 年生の職場体験学習を実施している。当該校は住宅地にある学校であり、校区内の事業所数や職種には制限があるが、毎年 30 程度の事業所の協力を得て進めている。</p> <p>1 年生のものづくり体験では「やまと熟練技能者活躍バンク」より講師の派遣を受けるなど、関係機関や地域の方の協力を得ながら取組を進めてきた。</p> <p>学年目標</p> <p>1 年・体験学習や聞き取り学習などを通して、自己を理解させるとともに自己有用感を持たせ、自己の生き方を考える姿勢を培う。</p> <p>2 年・社会人として生きていくための基礎を身に付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 働く人との出会いを通して、働くことの意味・意義を考えさせる。 <p>3 年・様々な情報を集め、主体的に進路選択し、将来の展望を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者や社会との関わりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等様々な役割を担いながら生きていることや、社会人としての義務と責任を理解させる。 社会の中で自分の役割を果たしながら、「自分らしい生き方」を実現していく方法を考えさせる。

学校	奈良県立登美ヶ丘高等学校	<p>協調の精神に富んだ心豊かな人間性を育成し、体験的な活動を通して、正しい勤労観や社会奉仕の精神を養う取組を行っている。また、10年後、20年後を見据えたキャリア教育を推進している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 フレッシュマンミーティングの開催 入学予定者に対して、在校生が入学前オリエンテーションの計画、運営を行っている。学ぶ意義、高校生活の意義等の確認やコミュニケーションを高めることにつながっている。 2 地域の中학생に対する進路選択講演会の実施 地域の中學生，保護者に対して学ぶ意義，高校生活，大学入試，就職に向けた講演会を行っている。中学校から大学までの10年間の人生を設計する一助となっている。 3 ボケーションナル・ガイダンスの実施 職業人を招いたパネルディスカッションを行っている。社会人が何を考え、どのような思いで仕事をしているのかを知り、将来の進路選択の一助としている。 4 資格・検定の取得の取組 語彙読解力検定，GTEC等の受検・取得を奨励している。 5 大学入学前教育プログラムの実施 大学に合格した生徒を対象に積極的な学習態度や知識の向上を目指している。 また、道徳教育実践研究事業実践校の実績から、社会人としての人格形成のため、ボランティア活動，清掃活動等を行っている。今後、県内の高校におけるキャリア教育の指導的な役割も期待できる。
島根県	学校 島根県立宍道高等学校	<p>当該校は、県内唯一の定時制・通信制課程併設独立校として平成22年に開校した単位制高校である。多様な学習履歴，学習動機を持った生徒に対して、就労意識を育てて卒業させることは意味のあることと考えるとともに、生徒に対して社会に貢献する有用感を養うことが必須と考える。そのため、開校当初から県が独自に開発した「キャリアカウンセリングプログラム」を活用し、準備と振り返りを繰り返しながらキャリアガイダンス（講演会・各種セミナー等）や企業見学等を計画的に行い、全校挙げて生徒の社会への適応力や職業的自立に向けた意識の啓発・向上に努めている。</p> <p>また、平成23年度より県内高校で初めて配置した進路コーディネーター（外部人材）と進路部の教員が中心となって、県内の経済団体及び各事業所を訪問して協力を仰ぎ、学校と企業・地域との連携体制構築に努めている。その結果として、地域の職業人や企業関係者の協力が多く得られ、職業人講話や企業ガイダンス等を積極的に実施できており、働くことや生きること、社会に貢献することの意味・意義を伝えるよい機会となっている。</p> <p>さらに、インターンシップについては、主に7～8月中の3～5日間、卒業予定生を除く定時制2，3年次生全員と通信制希望者を対象に実施しており、自ら希望して複数回の体験をする生徒もいる。開校当初は確保困難と思われた受入企</p>

		<p>業であったが、今や40を超える企業の協力を得て、充実した体験が行われており、校外での体験が困難な生徒に対しては、プレインターンシップ（校内での作業体験）を実施するなど、生徒の状況に応じたきめ細かい配慮がなされている。</p> <p>昨年度、定時制課程から初めての卒業生29名を送り出したが、それは4年間の就学期間を本人の努力により3年間で終えた生徒たちであった。その進路実現においては、3年にわたる系統的なキャリア教育が奏功した結果との評価が高い。</p>
広島県	学校	<p>呉市立呉中央小学校</p> <p>呉中央小・中学校（通称「呉中央学園」）は、平成19年4月に、広島県内の公立学校で最初の施設一体型の小中一貫校として創立した。平成12年度から7年間、研究開発学校として小中一貫教育について研究を推進してきた。その中で追い求めてきたものは、「豊かな学び」と「豊かな生き方」の実現である。</p> <p>現在は、「呉中央学園『自分を育てる』自立への15年」という教育構想の下、学校教育目標を「自分を育てる」とし、継続して「豊かな学び」と「豊かな生き方」の実現を追究している。「豊かな生き方」の柱となるのはキャリア教育である。各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動との関連を確認した上で、生活科・総合的な学習の時間に「夢チャレンジの時間」（生き方学習）を設定して、1年から9年（中学3年）へと系統のかつ発展的につなげているところが特徴である。</p> <p>「夢チャレンジの時間」には、呉市の中心部に学校があるというメリットを生かして、3・4年に職場ウォッチング、5・6年に職場訪問、7・8年に職場体験、9年に体験入学を位置付けている。</p> <p>3年から8年の職場訪問等の実施に際しては、市内103事業所等にのべ294日間の協力を頂いている。各学年の学習内容は次のとおりである。</p> <p>3年 ものをつくる・売る仕事・人たち 4年 くらしを支える仕事・人たち 5年 福祉や教育などの仕事・人たち 6年 資格や技術を生かす仕事・人たち 7年 自分の夢に近い仕事（1日間、5年生への職場体験報告会） 8年 自分の夢に近い仕事（キャリアスタートウィーク5日間）</p> <p>また、外部講師として、1年「どうぶつはかせ（獣医）」「いきものはかせ（環境カウンセラー）」、2年「おもちゃめいじん（絵画教室講師）」、3年「洋裁名人（洋裁店経営者）」「和菓子職人」、4年「介護士」を招き、自身の仕事を通じた夢を語ってもらったり専門職の技を見せてもらったりしている。</p> <p>さらに、4年生は3月に行う「二分の一成人式」で、自分の将来の夢を3年生と保護者の前で発表し、7年生の「立志式」へと発展させている。</p> <p>こうした取組の積み上げにより、95.2%の当該校の児童が「将来の夢がある」と答えている。</p> <p>これらのことから、小学校から中学校への継続した取組とその成果は、本市のキャリア教育をけん引するものであり、県内は元より全国にも発信普及できる実績があることから、当該校をここに推薦する。</p>

<p>学校</p>	<p>東広島市立安芸津中学校</p>	<p>当該校は、生徒に自らの役割や自己有用感を実感させる活動を積極的に行うとともに、第2学年で実施する職場体験学習に焦点を当てて、職場体験学習を充実させるための取組を第1学年及び第3学年において展開している。</p> <p>内容としては、自らの役割や自己有用感を実感できる活動としてのボランティア活動を行っている。安芸津の風景を詠んだ歌が万葉集に掲載されていることにちなんで行われる「あきつフェスティバル」では、生徒がボランティアとして部活動単位で参加している。上級生が下級生を指導しながら、男子は地域の大人と一緒に山頂で万葉火をたくためのたきぎを運び、女子は会場で案内・車椅子の支援・清掃を行う。この行事は、他市町からも多くの来場者が訪れ、ゴミが落ちていないことが一つの自慢となっている。生徒は、自らの働きによって万葉火が成功し、美しい会場が保たれることに対して誇りを持っており、この地域活動への参加は平成13年から継続している。また、敬老の日には体育館を敬老会に開放し、生徒は部活動単位で参加者への弁当配りや会場案内を行っている。生徒は、自ら人に関わり、地域に貢献する活動を通して、相手を理解することの大切さや難しさを感じている。</p> <p>また、当該校は、職業人や職業にかかわる様々な現場を通して、生徒一人一人が社会人・職業人として自立していくための勤労観・職業観を身に付け、学ぶことの意義を理解し、主体的に進路を決定しようとする意欲や態度を身に付けさせるために、平成18年から第2学年による連続5日間の職場体験学習を行っている。平成25年度には、49事業所で99人が体験した。事前学習として、第1学年では、国語科で「自分新聞」を作り、自分について考えさせている。また、身近な人に働くことや職業についてインタビューを実施し、自分の課題について考えさせている。第2学年では実際に職場体験を行う前に、第3学年から職場体験で学んでほしいことや職場体験に行くに当たっての心構え等を学ぶ取組を行っている。この取組は、「生徒が生徒を育てる学校の創造」という教育方針に基づくものであり、上級生から体験談を聞くことで、目的を持った職場体験の実施につながっている。また、第3学年は下級生に自らの職場体験談を話すことによって、自らの生活態度を振り返るきっかけになっている。体験後は、「お世話になった事業所のPR」「体験内容」「今後の生活の参考になった事」「事業所や保護者への感謝の気持ち」についてレポートにまとめさせる。そして、それらを冊子にし、職場体験学習を受け入れた事業所に渡し、生徒の学びを事業所と共有化することによって、地域で生徒を育てるという風土を醸成している。</p> <p>当該校のキャリア教育は、ボランティア活動及び職場体験活動を地域との深い関わりや異学年の交流により充実させていると判断し、推薦する。</p>
-----------	--------------------	--

<p>学校</p>	<p>広島県立松永高等学校</p>	<p>福山市西部に位置する当該校は、旧松永市域に立地し、大正 10 年に設立された高等女学校に起源を持つ地域の拠点校であった。</p> <p>しかし、平成 10 年前後から生徒の問題行動が目立ち始めて以来、学校経営や生徒指導における改善が遅々として進まず、過去 10 数年間にわたり、年間平均約 50 名の退学者と年間平均約 100 件前後の問題行動が発生する学校となった。福山市と尾道市のはざ間にある旧松永市域は、こぢんまりした一つの文化圏を依然として持っており、現在は 8 小学校（神村小、本郷小、東村小、今津小、松永小、柳津小、金江小、藤江小）、3 中学校（大成館中、松永中、精華中）、1 高等学校となっている。地域や同窓会の悲願は、かつての名門松永高等学校の復活とそれに伴う「小・中・高 12 年間の教育の松永ブランド」の活性化である。</p> <p>そのことを目標として当該校では、キャリア教育に欠かすことができない要素である「人格形成」及び「学力向上」の二大目標を掲げ、取組を推進している。</p> <p>「学力向上」については、平成 23 年度から国語・数学（算数）・英語の 3 教科において旧松永市域の小・中・高の担当者と「生徒児童の学力向上を図り、どのように将来のキャリア形成に結びつけるか」をテーマに綿密な協議を重ね、小学校 1 年から高校 3 年まで 12 年間の教育テキストである、「松永検定」を作成した。現在は旧松永市域のそれぞれの学校へ「松永検定」を配付し、「学力向上」のために日常的に活用している。</p> <p>また、「松永検定」は福山市内や県内外の多くの学校からも活用したいと要望があり、配付している。</p> <p>当該校においては、生徒一人一人の学力実態に応じて学習課題を選択させ、基礎学力の向上を図っている。特に、平成 25 年度から国語・数学・英語において「学び直し」として 8 単位、学校設定科目「体験」として 2 単位を 1 年次に導入し、その取組を通して生徒に自尊感情や自己肯定感を味わわせるとともに、基礎学力を向上させることで、未来を切り拓く「原動力」を身に付けさせている。</p> <p>「人格形成」については、一時休止状態であった旧松永市域の小・中・高 12 校と福山西警察署で組織される、松永地区学校警察連絡協議会を平成 24 年度から復活させている。児童生徒の情報交換等の連携を深めながら協議を重ね、「児童生徒の規範意識を高める指導を通じた、小・中・高 12 年間で意識したキャリア教育の在り方」を模索し、検討している。</p> <p>また、「人格形成」の最終目標として「かわいがられ、地域貢献できる生徒の育成」を設定し、実現のため 3 ステップ「ルールを守る」、「マナーを守る」、「日本の心を守る」を掲げ、特に「マナーを守る」という部分で「あ・じ・み（あ：挨拶・じ：時間・み：身だしなみ）」運動の徹底を図っている。分かりやすい目標設定から生徒・教職員の取組姿勢が変化し、挨拶、時間、身だしなみとともに劇的に向上した。平成 24 年度から平成 25 年度にかけて、問題行動数も昨年度比約 85% に激減し、落ち着いた雰囲気になっているとともに、安全安心な「学びの場」としての機能を回復することができている。</p> <p>福山・尾道地域の約 50 余りの企業等の協力を得ながら、二学期始めに 2 年次生全員で 3 日間のインターンシップを実施している。かつては問題行動が多く、意</p>
-----------	-------------------	--

		<p>欲に欠ける生徒実態があったため、企業や地域に多大な迷惑をかけて批判を受け、何回も中止の検討がなされたこともあった。</p> <p>しかし、キャリア教育におけるインターンシップは、職業を「実体験」し、将来ビジョンを描かせるという教育効果があることを全教職員で確認し、現在まで粘り強く指導を展開してきている。また、地域とともに児童生徒を育てていく意図がある。</p> <p>「松永親交会」（商工会松永支部）を通して、学校の現状を訴えながら協力を要請し、「学校・地域・社会の大人が次世代を育成する使命がある」という基本理念を学校と地域で強く共有しながら継続している。</p> <p>これらの結果、生徒は企業や地域の方の温かい言葉や励ましに心を打たれ、一段と成長し、将来の進路実現を意識した学校生活が送れるようになってきている。</p> <p>このように、都市部にあつて地域の小・中・高等学校が一体感や共通認識を持ちながら、キャリア教育の基盤作りに努力していることは画期的である。こうした取組を表彰し、奨励することで、松永地域全体のキャリア教育の更なる発展が期待できることから当該校をキャリア教育優良学校として推薦する。</p> <p>【ホームページ】 http://www.matsunaga-h.hiroshima-c.ed.jp/</p>
PTA 団体 等	広島県スーパー マーケット協会	<p>広島県スーパーマーケット協会は、スーパーマーケットに関する専門的知識・技術の進歩向上を図り、スーパーマーケット業界の健全な育成発展に努めることを目的に、広島県内 12 社から構成され、広島県の産業等の振興に寄与している。</p> <p>当該協会には、協会に所属する企業から特別支援学校の教員に対する研修会や、授業における生徒への指導に協力を頂いている。</p> <p>また、広島県教育委員会が広島県内の知的障害特別支援学校高等部生徒の自立と社会参加に向けて、生徒の就職意欲を高め、企業等に雇用を促すため平成 23 年度から企業団体等と連携して本県独自の認定資格を開発、授与する特別支援学校技能検定を実施しており、当該協会には、当初から特別支援学校認定資格研究協議会の委員として参画していただき、認定資格の開発から、技能検定の実施に当たって、特別支援学校への指導及び審査等の全面的な協力を頂いている。</p> <p>《平成 24 年度・平成 25 年度の広島県スーパーマーケット協会の主な取組》</p> <p>① 特別支援学校認定資格研究協議会（実施要項等作成）平成 24 年 4 月， 2 月，平成 25 年 4 月</p> <p>② 特別支援学校認定資格研究協議会流通・物流部会（運営検討）平成 24 年度 5 月， 9 月， 2 月，平成 25 年度 5 月， 10 月</p> <p>③ 技能検定流通・物流分野（審査）平成 24 年 12 月 7 日， 8 日，平成 25 年 6 月 22 日， 11 月 30 日</p> <p>④ 教員実技研修（指導員派遣）平成 24 年 8 月 2 日</p> <p>⑤ 特別支援学校生徒実技指導（認定資格指導員派遣）平成 24 年度 5 校延べ回数 15 回，派遣企業 5 社，平成 25 年度 6 校延べ回数 14 回，派遣企業 7 社</p>

			<p>《成果》</p> <p>知的障害特別支援学校高等部生徒は、技能検定を通じて、知識や技能を身に付けるとともに、働くことの意義を理解し、就労に対する意欲を高めている。また、目標に向かって粘り強く取り組む態度が培われる等、特別支援学校において、企業と連携した取組の効果は計り知れない。</p> <p>流通物流関係の業種は、特別支援学校高等部生徒の就職先として多くの割合を占めている。広島県スーパーマーケット協会からは、こうした取組を通じて、知的障害のある生徒の能力の高さや、ひたむきに頑張る姿を目の当たりにすることにより、障害者に対する理解を深めることができたこと、技能検定に対して高い評価を頂いた。</p> <p>さらに、広島県スーパーマーケット協会加盟企業に対して理解と協力を呼びかける等、障害者雇用の拡大にもつながっている。</p> <p>また、企業の職員による特別支援学校での研修は、特別支援学校の教育に期待すること等、率直な意見を直接聞く機会となっている。</p> <p>このように、広島県のキャリア教育推進において多大な成果を上げている広島県スーパーマーケット協会を「キャリア教育優良団体」として強く推薦する。</p>
山口県	学校	萩市立萩東中学校	<p>当該校は、萩市中央の市街地に位置し、全校生徒 478 名の中規模校である。生徒は、明朗活発で礼儀正しく、進取の気風を持って何事にも積極的に取り組んでいる。また、教育に対する保護者や地域の関心や期待は高く、PTA活動等も大変盛んである。校訓「至誠」の下、目指す生徒像を「深く考え、正しく判断し、志を抱く生徒」、「明るく清くさわやかで、勇気を持ち、仲間を大切にす生徒」、「強くたくましく、粘り強く取り組む生徒」と定め、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成に向け、家庭や地域と連携し、全校体制でキャリア教育の充実に取り組んでいる。</p> <p>《具体的な取組概要》</p> <p>(1) 3・4・5プロジェクトの策定</p> <p>夢をプランニングする「3つの視点」と生徒に身に付けさせたい「4つの能力」を踏まえ、それらの能力を獲得させるために「5つのプロジェクト」に取り組むこととし、身に付けさせたい能力との関連を明らかにした上で、組織的に教育活動を展開している。また、全教職員が様々な活動のつながりを意識し、活動の振り返り(評価)を重視して次の活動につなげることができるよう、「3・4・5プロジェクト」に基づき、学校の教育活動を系統的に整理している。</p> <p>(2) 職場体験学習を柱とした志を抱かせる教育</p> <p>2年生における職場体験学習を、志を抱かせる教育の柱として位置付け、1年生での地域人材を活用した職業講話や、職場体験学習前の接遇マナー講座や面接指導などの事前学習、保護者や地域の方を招いての事後の報告会などを行っている。2年生の3学期には、これまでの体験に基づいて将来の夢や目標を語る「夢宣言の会(立志式)」を実施し、第2学年の年間を通じた系統的な活動</p>

		<p>により、生徒一人一人の夢や目標を志に高める取組を行っている。</p> <p>(3) 家庭や地域との連携</p> <p>毎月の保護者向けの学校だよりにおいて、取組の紹介など積極的な情報発信を行い、家庭と連携したキャリア教育の推進に努めるとともに、保護者アンケートなどを通して、保護者の意見をキャリア教育に関する取組の検証・改善につなげている。また、萩市の基幹産業である第一次産業の担い手を育てる「萩・農下村塾事業」の一環として、梨やぶどうなどの果樹栽培、玉ねぎ、白菜、花卉栽培農家などの第一次産業に係る 13 の事業所においても職場体験を実施しており、地域産業の理解や幅広い職業観の育成を図っている。</p>
学校	山口県立熊毛北高等学校	<p>当該校は、従来、体験学習を含めたキャリア教育の推進に、積極的に取り組んできており、平成25年度においても、その取組を継承した教育活動を展開している。</p> <p>学校教育目標の一つとして、「進路選択能力の向上に向けたキャリア教育の充実」を掲げ、キャリア教育における指導目標を「生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向けての基盤となる意欲・態度や能力を育成する」とし、以下の4点の具体的な目標を設定した。</p> <p>(1) 自己理解の深化と自己受容 (2) 選択基準としての勤労観・職業観の確立 (3) 将来設計の立案と社会的移行の準備 (4) 進路の現実吟味と試行的参加</p> <p>また、各学年におけるキャリア発達課題を明確にし、取組の「連携と積み上げ」を行うべく、学年目標を設定して具体的な取組を行っている。</p> <p>第1学年：「自己理解と進路意識の高揚」 普通科「産業社会と人間」、ライフデザイン科「生活産業基礎」 企業・学校見学、インターンシップ発表会視聴、進路別ガイダンス</p> <p>第2学年：「高校生活の充実と進路の吟味・選択」 マナー講座、インターンシップ、インターンシップ発表会、進路別ガイダンス</p> <p>第3学年：「進路決定と将来の生活への適応」 進路別ガイダンス、就職説明会、卒業生講話、面接指導《具体的な取組》</p> <p>I 学校設定科目「産業社会と人間」</p> <p>平成24年度入学生から、普通科に学校設定科目として開設した（1年次2単位、2年次1単位）。ライフデザイン科の「生活産業基礎」とともに、教科の中にキャリア教育を位置付け、系統的に勤労観・職業観の育成を行っている。学習内容は、自己理解に始まり、上級学校理解、職業理解、職業研究などを経て学年末に自己実現ライフプランを作成する。また、積極的に外部講師を活用した出前講義を実施している。今年度1学期の授業評価では、「この科目に興味関心が持てた」と答えた生徒が99%、「この授業を受けて満足している」と答えた生徒が96%を占め、高い評価を受けている。</p>

II インターンシップ（2年生全員が実施）

今年度は2年生66人が40の事業所で3日間実習を行った。生徒が自らの進路希望に応じた企業において、就業体験やジョブシャドウを行うことにより、職業意識を高めることができた。また、実習先関係者や保護者、1年生、教職員を対象に「インターンシップ発表会」を実施することで、プレゼンテーション能力の向上を図っている。

III 企画・研究型インターンシップ

県教委が実施する「企画・研究型インターンシップ推進事業（学校が地域の大学や企業等と連携して共同研究や共同開発を行う）」の一環として、調理研究部が、地元の呼鶴温泉と連携した商品開発等の共同研究に取り組んだ。主な活動は以下の4点である。

- (1) 熊毛地域の特産品を用いたアイスクリーム類の研究
- (2) 呼鶴温泉内の地域交流センターで販売する昼食の研究
- (3) 「ケーキ類」の商品開発に向けた技術の向上

(4) 周南地区特産品「じねんじょ、ごぼう、さといも」等を用いた商品開発アンケート調査の結果から、体験を通じて、調理や接客、商品開発などに対する興味・関心が高まっており、様々な点から生徒の成長が見て取れた。また、生徒の感想の中には「働くことの楽しさや厳しさが分かった」など、勤労観・職業観に関する内容が多く見られた。

この取組を発展させ、平成25年1月からは、呼鶴温泉内の軽食・喫茶コーナーで、毎月2回程度（土曜日）ランチタイムに「熊北レストラン」を開店している。献立から調理、接客、配膳、会計管理までの全てを調理研究部員が運営し、学習の成果を地域に還元している。

IV 学校独自事業

平成25年度は、「熊北レストラン」の取組を、県教委の別の事業である「学校独自事業」の一環として実施しているが、その他にも「学校独自事業」では以下の取組を行っている。

1 創作料理発表会

ライフデザイン科食物文化コース3年生が1年かけて課題研究で考案した、地域の特産品等を使用した創作料理を、関係教育機関・関係機関・生徒就職先・3年保護者を招待し、試食会（ビュッフェ形式）として発表する。その過程においては、周南地域地場産業振興センターと連携して課題研究途中発表会や課題研究中間発表会を行い、プレゼンテーション能力も高めながら「熊北ブランド」として商品化されるための努力を重ねてきている。

2 大量調理実習

ライフデザイン科食物文化コース2年生が、3年生での「創作料理発表会」へ向けた基礎として、松花堂弁当の「大量調理実習」を長年続けている。今年度は、山口マイスターを講師に招いて事前指導を受けた。その授業の様子は、本年11

月に『夢づくり！山口「未来を担う産業人材の育成」』として地元のテレビ局で紹介された。

V 教科の実習とボランティア活動との連携強化

長年、授業の一環で保育園実習や介護施設実習、中学校出前講座等を行っている。そうした取組を通して、ボランティア活動の理解促進も図ってきている。ボランティア活動には、豊かな人間性・社会性を育むことは元より、インターンシップとしての性格を持つものも多く、幅広いキャリア体験という位置付けをもって奨励しており、多くの生徒が参加している。

また、「ボランティア活動の単位認定」を行っており、公的機関や社会福祉施設等で半年以上継続して35時間以上のボランティア活動を行った場合、最大2単位まで認定することとしている。

VI コラム・コラム・コラム

昨年度までは週一回（月曜日）朝学の時間に新聞コラムを読ませる「コラム・ザ・マンデー」という取組を全校で行っていた。今年度は一つのコラムについて、月曜日に一回読み、水曜日に視写、金曜日に感想を書かせる「コラム・コラム・コラム」という取組に発展させた。道徳・マナーに関するものや、職業観・勤労観につながる題材など、生徒に読ませたい記事を教員が選んで準備している。

VII 成果

- 1 体験活動を充実させることで、人や社会との関わりを通して自他を尊重し、認め合い高め合う、コミュニケーション能力を育むことができている。
- 2 学校と家庭・地域・産業界等との連携・協力体制を強化することで、地域や伝統、文化に対する理解を深め、自らに生かし、ふるさとへの誇りと愛着を持ちながら、継承し発展させようとする心や態度を育成することができている。
- 3 3年間を見通し、発達段階に応じた系統的・計画的な取組により、社会的・職業的自立に向けての基盤となる意欲・態度や能力が育成されてきている。※平成25年8月、県教委主催の「平成25年度キャリア教育実践セミナー」において「キャリア教育の取組の成果と課題」と題して実践発表を行った。

VIII 今後に向けての取組

- 1 校内分掌間のさらなる連携
- 2 学校行事等へのキャリア教育の視点の導入（生徒への意識付け）
- 3 生徒の特長を生かした進路先の確保

徳島県	学校	美馬市立岩倉小学校	<p>1 平成 21 年度</p> <p>文部科学省指定「発達段階に応じたキャリア教育支援事業」の研究校として、「食育における体験活動を基盤にした、発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進」を研究課題として実践研究を行った。</p> <p>(1) 取組内容</p> <p>生活科，社会科等における学習（地域探検，職場見学，地域清掃活動等）をキャリア教育の視点でとらえ直し，「学ぶこと」や「働くこと」の意義を実感できるようなジャガイモの収穫や稲刈り，工場見学等体験活動を推進した。</p> <p>(2) 成果</p> <p>給食食材であるジャガイモ収穫の自給自足の体験活動や職場体験を通して，仲間と協力することの大切さや汗を流すことの大切さを実感することができるとともに，地域の方々の優しさや温かさに触れることにより，自分たちの地域のよさを実感することができた。</p> <p>2 平成 22 年度・平成 23 年度</p> <p>文部科学省指定事業「小・中学校における体系的・一貫的な進路指導に関する調査研究」の研究校として体験活動を基盤にした，発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進を目指して研究実践を行った。</p> <p>(1) 取組内容</p> <p>食育における給食食材の自給自足活動を継続するとともに，岩倉中校の生徒と連携した花づくり体験や文化祭，中学校 2 年生の職場体験発表会に参加することを通して児童の中学校生活への意欲や期待が高まるように取組を推進した。また，全教職員を 4 つの部会に分け，様々な視点から研究を推進し，キャリア教育全体計画や年間計画，食育・キャリア教育交流体験学習計画を作成し，体系的・一貫的なキャリア教育に取り組んだ。</p> <p>(2) 成果</p> <p>人とのふれあいや，地域とかかわる体験活動を通して，コミュニケーション能力の高まりとともに，食育体験活動を継続することにより働くことの意義を実感することができている。</p> <p>さらに，中学生との交流の機会を持つことによって，中学校生活への不安が解消されたとともに，あこがれや期待感の高まりも見られるようになった。</p> <p>3 平成 24 年度・平成 25 年度</p> <p>文部科学省指定事業における活動を継続するとともに，地元の 資源を活用した稲刈りや野菜作りを栽培し，食育活動を核として「働くこと」や「学ぶこと」を実感させるとともに地域社会の様々な人とかわることにより，コミュニケーション能力を高めるための工夫を行っている。今年度は，理科教育と食育活動をつなげた教育活動に取り組んでおり，児童が栽培したじゃがいもで，光合成の実験を行うなど，学ぶことを実感させている。</p> <p>引き続いて幼稚園や中学校との連携も推進しており，食育新聞を通して家庭</p>
-----	----	-----------	---

		<p>との連携も図っている。</p> <p>また、学校全体において職業人としての基盤となる挨拶や返事、時間や約束を守る、自分の責任を果たすことを重点課題として取り組んでいる。</p> <p>このように、当該校は、以前からキャリア教育に取り組んでおり、各部会を設置するなど校内体制を構築し、更に教科間の連携もされている。</p> <p>さらに、地元の資源を活用して様々体験活動も展開しており、キャリア教育優良校として推薦する。</p>
学校	美馬市立岩倉中学校	<p>1 平成 21 年度</p> <p>文部科学省指定「発達段階に応じたキャリア教育支援事業」の研究校として、「学校の特色を生かした地域ですすめるみんなの職場体験活動」を研究課題として実践研究を行った。</p> <p>(1) 取組内容</p> <p>1 年次では、自己理解と職業観の基礎を培うために地元の職場を訪問し、職業についての情報収集を行い職業への理解を深めた。2 年次では、地元の事業所 16 か所と連携し、5 日間の職場体験活動を実施することにより自己の適性について考えさせ、3 年次における将来の職業を見通した進路学習へとつなげた。</p> <p>(2) 成果</p> <p>生徒の職場体験における感想には「働くことの大切さや楽しさや喜び、コミュニケーションの大切さ、社会のルール、マナーについて学ぶことができた」など自己の成長を確認する内容が多く見られた。また、地域社会と連携することで、今後の職場体験活動への支援や協力体制の構築につながった。</p> <p>2 平成 22 年度・平成 23 年度</p> <p>文部科学省「小・中学校における体系的・一貫的な進路指導に関する調査研究」の研究校として、キャリア教育を通じて自尊感情を高め、学習意欲の向上や学習習慣の確立を目指した。</p> <p>(1) 取組内容</p> <p>平成 21 年度の研修を継続するとともに、新たに研究を推進するにおいて、キャリア教育研究部を学校組織に位置付けるとともに、各教科研究部や特別活動研究部、道徳教育研究部、総合学習研究部と連携を図りながら、教育課程への改善につなげた。</p> <p>各教科においてキャリア教育に視点を当てた活動を実践するとともに、平成 23 年度には総合的な学習の時間を見直し、実践した。職場体験活動も継続するとともに、岩倉小学校と合同の体験活動や教職員の研修会を実施し、小中連携したキャリア教育を推進した。</p> <p>(2) 成果</p> <p>従来教育活動をキャリア教育の視点に立って見直すことで、教育課程の改善等が図られた。また、生徒たちの自尊感情の向上や挑戦する勇気が徐々に見られるようになり、地域と学校との連携が深まった。</p> <p>3 平成 24 年度・平成 25 年度</p> <p>平成 24 年度、25 年度においても組織的・系統的にキャリア教育に取り組ん</p>

		<p>でおり、職場体験活動では、事前指導や事後の職場体験発表会を開催するなど、学校間連携や地域・産業界との連携を積極的に推進している。</p> <p>今年度は、職場体験学習発表会を文化祭で実施し、各関係事業所を招待するとともに、冊子にまとめ配布を行っている。</p> <p>また、「花づくり活動」も積極的に推進しており、体験的な学び合いで自尊感情を高めるキャリア教育の推進も引き続いて行われている。</p> <p>このように、岩倉中学校は、以前からキャリア教育に取り組んでおり、各部会を設置するなど校内体制を構築し、教科間における連携も行われている。</p> <p>さらに、地域・産業界と連携して様々な体験活動を実施しておりキャリア教育優良校として推薦する。</p>
学校	徳島県立徳島商業高等学校	<p>当该校は創立100年を越え、これまで多くの卒業生を輩出し徳島県の地域産業を支えてきた伝統校である。</p> <p>【取組内容】</p> <p>「平成15年度～平成23年度」</p> <p>商業教育の更なる推進や生きる力の育成に向け、徳島市の新町川沿いある新町ボードウォークにおいて全クラスが参加する「校外徳商デパート」を、起業に関する学習として次の取組を行ってきた。</p> <p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全生徒が出資して模擬株式会社「校外徳商デパート株式会社」を設立し、創立総会を開催し、定款、代表取締役の承認等を行う。 <p>9月～10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラスにおいて意見を出し合い販売商品や仕入係、包装係、会計係等について生徒の役割分担を決める。 ・販売商品を選んだ理由、仕入先、仕入れ数等について各クラスによる事業計画プレゼンテーションを実施する。 <p>11月上旬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「校外徳商デパート」を開催する。 <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラスによる報告プレゼンテーションを実施し、貸借対照表及び損益計算書の作成と分析、学んだこと等を発表する。 <p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社解散のための株主総会及び表彰(生徒の感想) ・仕事におけるチームワークの重要性を認識できた。 ・ビジネスマナーの確認や必要性を認識できた。 ・自分の役割を果たすことにより達成感、やりがいを感じた。 ・利益を得ることができたのもうれしかったが、お客様からのありがとうの言葉もうれしかった。 ・働くことは生活のためであるが、人々のためでもあると感じた。

		<p>など</p> <p>特に平成23年度の「校外徳商デパート」は、東日本大震災で被災した宮城県女川町の女川第二小学校を支援することを目的としたチャリティショップとした。被災地支援をテーマにした商品の選定や企業の協力を得て宮城県の特産品であるジャガイモと徳島産のワカメ、スダチを使った弁当や仙台名物の牛タンと徳島バーガーなどを融合させた商品も取り扱った。</p> <p>また、徳島県と友好提携を結んでいるドイツ・ニーダーザクセン州のシューラベルク職業高校の生徒が来県したことから、このチャリティショップに参加し徳島商業高校の生徒と交流するとともにシューラベルク職業高校の生徒が考案したオリジナルマグカップを販売した。</p> <p>収益金は女川第二小学校の児童が取り組んでいる伝統芸能「さざなみ太鼓」に必要な太鼓の購入資金などに充てられた。</p> <p>「平成24年度，25年度」</p> <p>「校外徳商デパート」を、商品開発を主眼に置いた取組としたことや郊外の大型ショッピングモール（フジグラン北島）での開催となったことから、平成24年度は第1学年の生徒が、平成25年度はマーケティングコース選択者、課題研究（商品開発，イベント企画）選択者が出店した。販売商品については、地元企業の方から指導を受けながら徳島県の特産品を材料に使用した商品を開発した。</p> <p>また、「はじめてのおしごと」と題して、小学生を対象に花屋，バスガイド，販売，ラッピング等の仕事体験コーナーを設け，子供たちに仕事の楽しさなどを理解してもらう取組も行った。</p> <p>【成果】</p> <p>このような取組を通して，生徒は自分の考えを自分の言葉で表現するなどコミュニケーション能力の向上を図るとともに他の生徒や一般の方々との交流を通して「人間関係形成・社会形成能力」を養ったり，各自に与えられた役割を果たすことを通して「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」等を養ったり，社会的・職業的自立に向けた能力を身に付けたりしている。</p> <p>当該校は，様々な活動を通して生徒が自ら考え行動すること等によりキャリア教育を推進しており，キャリア教育優良校として表彰されるにふさわしいと考え，推薦する。</p>
--	--	---

香 川 県	学校	丸亀市立東中学校	<p>平成25年度香川県中学校教育研究会進路指導部会研究大会の開催校として、研究主題「自ら未来を切り拓く力を育てるキャリア教育～基礎的・汎用的能力の育成をめざして～」を掲げ、キャリア教育に取り組んでいる。</p> <p>学ぶ意義を全ての教科等を通じて指導するとともに、課題対応能力を中心に基礎的・汎用的能力の育成を図る教科指導、人間関係形成・社会形成能力の育成を図る学級活動、キャリアプランニング能力の育成を図る職場体験学習（1学年時から3学年時に向けて計画的に推進）、社会的・職業的自立を図る人権・同和教育を核として、研究や実践を積み上げている。</p> <p>さらに、学校と地域が連携した事業（運動会、東雲祭、職場体験学習など）や、小学校と中学校が連携した事業（ボランティア・クリーン活動、運動会、東雲祭、壁画制作など）の年間計画を作成し、キャリア教育の考え方を踏まえた教育実践が継続的に積み上げられている。</p> <p>授業と実生活、実社会を視野に入れたキャリア教育の取組が、校内のみならず、小学校や地域との連携も大切にしながら全職員で推進されている。</p>
愛 媛 県	学校	新居浜市立神郷小学校	<p>○ 体験活動の充実</p> <p>幼稚園・中学校との交流活動、ボランティア活動、地域企業と連携・協力した職場体験活動等の体験活動を取り入れながら、集団生活の中での自分の役割を自覚し、将来に向けて「今しなければならぬことを考える力」を育てる授業を継続的、効果的に実践している。</p> <p>○ 組織的・体系的なキャリア教育の推進</p> <p>平成16年からキャリア教育の充実に努め、平成23年度・平成24年度は、県の「学校力アップ実践研究事業」指定校として、「社会的・職業的自立を促すキャリア教育」についての研究実践を行い、大きな成果を上げた。研究指定終了後も、自主的に研究を継続している。</p> <p>○ 地域・保護者との連携</p> <p>勤労観、職業観を育むためのプログラム開発を行い、保護者とともに学ぶ授業実践に取り組んだ。学校・保護者・地域を挙げてキャリア教育に取り組んだことにより、児童・保護者に「今の学びが将来につながっている。」「将来の自分のために学ぶことが大切だ。」という意識面の向上が見られ、働くことの生きがいや楽しさについての理解も深まっている。</p>
	学校	愛媛県立松山工業高等学校	<p>○ 地域企業との連携</p> <p>地域企業との連携による工業教育活性化委員会を年3回開催し、高校の教育内容等に対する企業ニーズを明確にするとともに、企業ニーズを踏まえた、専門的な知識や技術を習得するための取組を行い、地域で活躍できる人材の育成に努めている。</p> <p>○ 充実したインターンシップ、デュアルシステム、企業見学の実施</p> <p>学科の特性に応じて1年次から企業見学を実施するとともに、生徒全員が2年次に5日間のインターンシップを行っているほか、3年生9人が5～18日間のデュアルシステムを実施するなど、望ましい勤労観、職業観の育成に努めている。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ○ 匠の技教室の実施 地域企業の技術者や技能者などを講師とした「匠の技教室」を、12講座、32日間開催し、ものづくりに係る実技指導及び講演を行っている。 ○ ものづくりコンテストでの活躍 平成24年度高校生ものづくりコンテスト全国大会（旋盤部門）で準優勝に輝くなど、専門的な技術・技能を身に付けた生徒が育っている。
学校	愛媛大学教育学部附属特別支援学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 組織的・体系的なキャリア教育の推進 卒業後の「働く生活」を実現するために、発達段階に応じて身に付けることが期待される能力・態度や、各部・学年間の系統性や関連性を明らかにした「キャリア学習プログラム」及び「キャリア教育全体計画」を作成している。また、教科、指導の形態ごとに「キャリア教育の視点に立った年間指導計画」を作成し、全教職員共通理解の下、小・中・高等部12年間の一貫した取組を行っている。 ○ 関係機関等との連携 愛媛大学と連携した新しい作業種の開発や、年間を通じた大学における作業学習の実施の外、制作活動等における専門家の招へい・指導等、地域・産業界と連携した質の高い体験を学習に取り入れることにより、児童生徒が働くことに対する夢や憧れを持ち、自らの生き方を真剣に考えることのできる授業を実践している。 また、保護者や地域社会、関係機関等に対し、キャリア教育への理解促進を働き掛け、連携・協力しながらキャリア教育を進めるためのリーフレットを作成、活用している。

高知県	学校	高知県立須崎工業高等学校	<p>当該校は、昭和16年に創立され、現在、「機械科」と「電気情報科」に加え、全国の高等学校で唯一の「造船科」と「ユニバーサルデザイン科」を有する生徒数279名の工業高校である。</p> <p>「社会・地域に貢献する工業技術者の育成」を教育目標に掲げ、「高吾地域の子どもたちの、より豊かな将来を保障する学校」として、保護者や地域・企業関係者との連携・協力を図りながら、工業高校ならではの専門性を生かしつつ、社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育成する当該校の取組は、特筆すべきものである。</p> <p>【学力向上対策の充実】</p> <p>朝のショートホームと1時間目の始業までの10分間を「基礎学力向上」の時間として設定し、数学、国語を中心とした学び直しの取組を続けている。系統立てた計画の下、スモールステップで「分かる」「できる」という実感を持たせることにより、中学校までの学習歴の違いを補いながら、自ら学ぶ姿勢を育てている。また、特に支援が必要な生徒に対しては、放課後や長期休暇中に個別補習を行うなど、個々の生徒に寄り添う指導にも力を入れている。さらに、検討委員会を設置し、取組の成果と課題を常に検証し、次年度の取組に生かすPDCAサイクルを確立している。</p> <p>【職業指導の徹底による専門技能・技術力向上の取組】</p> <p>職業意識を身に付けさせるとともに、仕事に必要な知識・技術の習得とその向上を目的として、学校全体で生徒が様々な資格取得に挑戦できるよう取り組んでいる。なかでも、外部人材（地域のスペシャリスト）を積極的に活用した技術指導の実施は、生徒の技能の向上に大きな役割を果たしている。また、長期休暇を利用して「介護職員初任者研修」を実施するなど、工業だけにとらわれない幅広い分野での職業観の育成にも力を入れている。</p> <p>資格試験の成果としては、平成23年度から「普通旋盤作業」技能検定の2級合格者を3年続けて出すなど、めざましい実績もあげている。</p> <p>また、全国工業高等学校造船教育研究会に参加することにより、各造船企業や大学等と連携し、最新の技術を学ぶ機会・環境を生徒に提供していることも当該校の特徴である。</p> <p>【保護者と連携した教育力向上の取組】</p> <p>保護者や地域の力を学校に生かすために、就職試験に向けた面接練習の面接官を保護者に依頼し、保護者の協力による模擬面接を3年生スキルアップ講習として実施している。通常の教職員との関わりとは異なる新たな人間関係の中で、生徒のコミュニケーション能力や社会性が養われる取組となっている。</p> <p>【ものづくりによる地域貢献の取組】</p> <p>専門性を生かしたものづくりによる地域貢献も生徒を主体として積極的に行われている。大月町の「黒潮実感センター」に寄贈した当該校造船科の生徒らが造ったグラスボートは、観光客が海中を観察する体験プログラムなどで活用されている。また、生徒製作の滑り台の地元保育園への寄贈や、津波避難所マップの製作など、多彩な地域貢献活動が評価され、平成25年3月には地元自治体より感</p>
-----	----	--------------	--

		<p>謝状が贈られている。</p> <p>【ボランティアの取組】</p> <p>「通学路清掃」として生徒たち自らが年に3回清掃活動を行い、地域の方から感謝されている。また、地元地域における海岸清掃は、10年以上前から毎年恒例行事として、海と関わりが深い造船科生徒が行っている。その地道な活動が評価され、平成20年度には国土交通省四国地方整備局長から表彰状が授与されている。</p> <p>【インターンシップの取組】</p> <p>地元企業へのインターンシップはもちろんであるが、造船科3年生は、県外造船企業と連携し、宿泊（2泊）を伴ったインターンシップを実施している。</p> <p>また、地元教育委員会と連携し、当該校の生徒だけではなく、地元小中学校の児童生徒とともに造船所を訪問し、インターンシップを実施するなど、校種間の連携も積極的に進めており、そのことによる生徒の学びも大きい。</p> <p>その上、地元教育委員会と連携し、児童生徒だけでなく小中学校の教職員を対象にキャリア教育支援として「企業見学会」を実施し、職業に対する理解の促進を図り、適切な進路指導推進の一助を担っている。</p> <p>以上の取組を実施している当該校は、100%の就職決定率を実現している。生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けた能力や態度の育成について、他校種や地域・産業界等との連携を図り、「ものづくり」という学校の特色を核としながら系統的にキャリア教育に取り組んでいるという点において、他校のモデルとなり得るものであり、顕著な功績が認められるため推薦いたします。</p> <p>【ホームページ】</p> <p>http://www.kochinet.ed.jp/susakikogyo-h/</p>	
福岡県	教育委員会	古賀市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・古賀市中学生職業体験学習「ドリームステージ」実施要項に基づき、市教委を事務局とした実行委員会を組織し、市内事業所や市商工会の協力を得て、事務局にて職業体験受入協力事業所を確保し、連携を図りながら、職業体験を実施している。（平成25年度は、125事業所に受入協力を頂いた。） ・市内全小学校5年生と中学校2年生を対象に、市費にて講師を招へいし、キャリア教育として教育課程に位置付け、接遇マナー研修を実施している。中学校2年生は、職業体験学習を実施する1週間前に接遇マナー研修を受講する。（講師謝礼の予算化については、中学校分は平成21年度から、小学校分は平成24年度から行っている。） ・年4回開催する実行委員会を通して、計画－実践－評価を行い、職業体験実施後は、報告書（冊子）を作成している。 <p>【ホームページ】</p> <p>http://www.city.koga.fukuoka.jp/cityhall/work/gakkokyoiku/028.php</p>

<p>学校</p>	<p>水巻町立伊左座 小学校</p>	<p>当該校の学校教育目標は、「自分を伸ばし、自他を大切にすることの育成」である。この教育目標を具現化するため、当該校では、平成20年度から「よりよい生き方を追求し続ける子どもの育成」というテーマの下、キャリア教育の視点を位置付けた学習指導の在り方について主題研究を推進している。特に、児童のキャリア発達を促すために必要となる諸能力を、^{注1)}「見つめる力」^{注2)}「かかわる力」^{注3)}「創造する力」と設定し、その育成を図るため、次の二つの着眼に基づき、各教科等の指導を行っている。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※ 注1：自分を見つめ、自分を律し、よさを発揮する力 注2：他者とよりよい関係を築く力、自分の役割を果たし他者と協働してよりよい生活を築く力 注3：夢や目標をもち、意欲的に取り組む力、課題解決の計画を立て、実行する力</p> </div> <p>【着眼1】各教科等で育成するキャリア発達を促す諸能力の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見つめる力：道徳、特別活動 ○ かかわる力：国語科、道徳、特別活動 ○ 創造する力：各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動 <p>【着眼2】学習過程における「練り合う」「振り返る」場の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 練り合う場の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の見通しを持たせ、考えを構築させるための支援 ・個の考えが分かるように伝えさせるための支援 ・思考を広げ、深めさせるための支援 ○ 振り返る場の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・活動によって得た応えをまとめさせるための支援 ・活動によって得た応えを発信させるための支援 ・よりよい生き方についての考えを蓄積し、評価させるための支援 <p>上記の取組により、次のような成果が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科等の特質に応じて、「見つめる力」「かかわる力」「創造する力」を重点的に指導したり、学習過程の「練り合う」「振り返る」段階において教師の支援を各教科等の学習内容を踏まえて具体化したりしたことにより、児童のキャリア発達を促す諸能力が高まった。 ○ 研究発表会の開催や管理職研修会等での事例発表を通して、研究の成果を地域の小・中学校に普及することにより、各学校においてキャリア教育を推進する参考となった。
<p>学校</p>	<p>みやこ町立久保 小学校</p>	<p>生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域の人材を活用した活動プランを作成し、実施している。その活動の中に、キャリア教育の視点（コミュニケーション力、意思決定力、自己理解力）を位置付けることにより、自ら選択した課題を達成したり、他者から認められる経験を積み重ねたりしている。そのことにより、児童の学ぶ意欲や自尊感情を高めることができている。</p> <p>この取組においては、久保小学校教育力向上実行委員会を組織し、学校、保護者、地域が連携した取組を行っている。この取組の指導者・協力者としては、この実行委員会の構成員は、小学校職員の外に、中学校職員、校区の農業指導員、</p>

		<p>保育士、おやじの会、地元食進会、地域のボランティア等にお願ひし、実に幅広い方と連携しながら、活動を行っている。</p> <p>この取組をすることで、以下のような成果が見られた。</p> <p>○地域の人材を活用することによって、質問や聞き取り活動が促進され、コミュニケーション力の育成につながった。また、地域ボランティアや指導者の方からほめられたり、認められたりすることで、自尊感情の高まりも見られた。</p> <p>○キャリアスキルを位置付けることによって、実際の場面で学んだスキルを生かして、相手や場に応じたあいさつや自信を持って自己紹介できるようになった。また、地域の方とのよりよい人間関係づくりにも役立った。</p> <p>○地域での子育てに対する興味・関心が高まった。</p> <p>このように、家庭、地域と連携しながら、子供達の自立心を育てる取組を評価し、推薦したい。</p>
学校	福岡県立筑後特別支援学校	<p>当該校では、毎年40名前後の高等部生徒が卒業し、そのうちの約3割の生徒が一般の企業・事業所へ就労している。それ以外の生徒も福祉施設へ入所し、全員が進路を決定して卒業するなどキャリア教育の充実による成果を上げている。</p> <p>1 校内における取組</p> <p>(1) 産業現場等における実習（現場実習）・校内実習・職場見学の取組</p> <p>高等部2・3年生を対象として、毎年6月と10月に企業・事業所や福祉施設で2週間の現場実習を実施している。実習期間中、生徒は自宅から通い、教職員は実習先を巡回する。その間、高等部1年生は校内実習として1日6時間の作業学習を実施するほか、卒業生が働いている事業所や施設を見学する。また、1年生の3学期には、卒業後の地域での生活をイメージすることができるよう、学校近くのグループホームを見学する。</p> <p>(2) 進路モーニングトレーニング社（仮想会社）における就業態度訓練の取組</p> <p>現場実習に取り組む中で、卒業生に求められる力は、「職業人としての態度とコミュニケーション能力（挨拶力）」であることが明らかになった。そこで、校内に「進路モーニングトレーニング社」という仮想会社を立ち上げ、高等部の就職希望生徒を対象として、元気のよい挨拶や会社での様々な場面を想定した声出しの練習など就業態度の育成に取り組んでいる。</p> <p>(3) 求職登録会</p> <p>毎年2月に、就職を希望する生徒をハローワークに登録している。</p> <p>(4) 就職学習会及び事前登録会</p> <p>高等部3年生のうち就職を希望する生徒と保護者を対象として、障害者就業・生活支援センターのセンター長を招いて就労に関する講話や進路相談を実施したりしている。</p> <p>(5) 施設見学会</p> <p>毎年7月末に保護者と職員を対象として3日間、6コースで12か所の施設見学会を実施している。</p> <p>(6) 卒業生個別相談</p>

		<p>卒業生や卒業生の保護者からの電話相談に応じたり、相談内容に応じて地域の関係機関等と連携して支援を行ったりしている。</p> <p>2 関係機関と連携した取組</p> <p>(1) 就労支援地域ネットワーク会議</p> <p>生徒一人一人の進路実現や卒業後の社会生活の安定を図るために、筑後市福祉事務所、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、企業・事業所等の関係機関と連携して、生徒の就業支援に関する具体的な支援内容・方法や関係機関との連携体制の整備に関することについて協議を行っている。</p> <p>(2) 筑後特別支援学校在籍児童生徒居住地区支援連携推進会議</p> <p>当該校に在籍する児童生徒が居住している17市町の行政機関や施設などの関係者に来校していただき、児童生徒についての理解を深めるための教職員による事例報告や外部講師による講演を行っている。</p> <p>3 学校研究としてのキャリア教育の取組</p> <p>当該校は、平成23年度から平成25年度にわたり、福岡県重点課題研究指定・委嘱事業を受け「たくましく生き抜く力を育むキャリア教育の在り方・ICFの理念を基盤とした授業改善の取組を通して」を研究主題として、キャリア教育を視点とした授業の在り方について実践的な研究に取り組んできた。さらに、キャリア教育を推進するための校務分掌業務の在り方についてこれまでの実践をまとめた。</p> <p>その成果として、キャリア発達に関わる各観点とICFの構成要素を踏まえた、小中高の一貫性・系統性のある授業を実践するとともに、地域や関係機関との幼少期からの連携の重要性と具体的な連携の在り方について明らかにした。</p>
PTA 団体 等	福岡県立伝習館 高等学校父母教 師会	<p>従来、伝習館高等学校父母教師会では、大運動会やマラソン大会、文化祭、様々な講演会などへの、生徒の活動の場に保護者が参加してきた。その中の一つとして「よのなか講座」がある。これは「伝習館キャリア教育」の一環として、保護者と生徒と教師がともに生徒の進路を考える機会にするための講座・講演会を開催し、学校と家庭がともに生徒の進路を考える環境を整えるための行事である。このような取組は普通・専門科高校を問わず数多く実施されているが、伝習館高等学校父母教師会の「よのなか講座」には、二つの特筆すべき特徴がある。</p> <p>一つ目は父母教師会会長の強力なリーダーシップの下、父母教師会の組織的な活動の一環としてこの講座が企画・運営されていることである。講義・講演会は10以上のジャンルに分かれ、それぞれのジャンルに相応しい講師依頼からスタートする。毎年、父母教師会新体制の発足直後に着手するのであるが、講師決定までの時間が短いこと、生徒のニーズと保護者の思いのすり合わせをどう図るか等の様々な困難を乗り越えながら父母教師会の縦横のネットワークを駆使することによって講師を決定している。</p> <p>二つ目は講師陣の顔ぶれの広さである。グローバル化を踏まえ生徒たちの夢も広範囲にわたっている。講師の先生方を依頼するに当たっては、世界的に活躍されている方々を始めとして、筑後地区のそれぞれのジャンルにおいて第1線級で活躍されている方々をお願いしている。「よのなか講座」のテーマの中にある、「地</p>

		<p>域興し」「地方自治」「農業」などからもわかるように、生徒たちが卒業後、地域の担い手として活躍することも視野に入れ、この筑後地区が現在抱える様々な問題の解決を未来（生徒たち）に託すことにもなっている部分もあり、生徒一人一人にとって、現在の学びが、将来どのような意味を持つかを考える大きなきっかけとなっている。</p> <p>以上、父母教師会会長を始め父母教師会の組織的活動の取組によって、学校と保護者と子供が進路を考えるための情報を共有でき、密度の濃い面談や話ができる環境が整ったことで、保護者の学校教育活動への理解が深まっている。さらに、家庭、学校、地域が連携したキャリア教育を展開でき、実効性のあるキャリア教育の環境を整えることができたことによって生徒一人一人の主体的な学びの育成に大きな成果を上げている。</p>
佐賀県	学校 佐賀市立神野小学校	<p>○長年にわたり、当該校のキャリア教育の中核ともいえる5年生の総合的な学習「神野小 キッズマート」（出店販売体験プログラム）の取組を続け、大きな成果を上げている。</p> <p>〈推薦理由1〉長期間にわたる取組</p> <p>長期間にわたる取組・平成17年度から今年度までの9年間、毎年6月中旬から2月下旬（11月に佐賀駅南にて出店）まで、ほぼ毎週、総合的な学習の時間に「NPO法人 鳳雛塾」の協力を得ながら、キッズマートに取り組んでいる。</p> <p>〈推薦理由2〉企画・運営の有効性</p> <p>企画・運営の有効性・児童の興味・関心や時代のニーズを考慮した実施計画をたて、担任と鳳雛塾との十分な打合せの上、効率的な活動に取り組んでいる。</p> <p>〈推薦理由3〉学習効果の有効性（生きる力の育成）</p> <p>学習効果の有効性（生きる力の育成）・単元を通して、キャリア教育の目標である「将来の社会的・職業的な自立」への素地を培うことができていることが児童の感想からうかがえる。また、必ず生産者・消費者・流通業者のそれぞれの視点に立って考える時間を設定している。具体的には、農作物や工業製品などの生産活動に携わっている方とのふれ合い・消費者である保護者や地域の方へのアンケートやインタビュー・実際に個人商店や大型店舗の見学等を通して、人々の思いを感じ自分が理想とするお店を開こうと意欲を持つ活動に取り組んでいる。自ら学び・自ら考え・自ら行動する能力「生きる力」を育成できている。</p> <p>〈推薦理由4〉キャリア教育を通しての豊かな心の育成</p> <p>キャリア教育を通しての豊かな心の育成・活動を進める中で、第1次産業分野についての調べ学習では「環境の大切さ」「自然愛護」などに気付かせることができる。商品提供を依頼する団体に福祉施設を含めることで、障がいのある方への理解を深めさせることができる。取り扱う商品や協力していただく企業・団体をできる限り地元から選ぶことで、自分たちが住んでいる「神野校区」「佐賀市（県）」についてより深く知り、郷土への愛着心や誇りを持たせることができる。</p>
	学校 武雄市立武雄中学校	<p>当該校は学校教育目標を『生徒一人ひとりが夢と誇りをもち、いきいきと輝く生徒の育成』と掲げ、平成19年度から平成21年度の3か年間はキャリア教育の研究を深め、地域と連携した体験活動や各教科でキャリア教育の視点を取り入</p>

れた授業を実践することで、生徒が思考力・判断力・表現力を活用する力を身に付けてきた。その後も、キャリア教育を中核に据えた学校教育を推進しており、特に、平成23年度からは「武中のちから構想」と名付けた地域・家庭との連携支援体制づくり推進事業と併せて教育実践を展開している。

今年度もキャリア教育の研究を継続し、各教科での学習、進路学習で生徒一人一人に役割や出番を持たせ、自らの生き方をじっくりと見つめ、自己実現ができる生徒の育成を図っている。

【取組について】

「学級づくり」「授業づくり」「体験的活動」の三つの柱を設定して、キャリア教育の視点を取り入れた取組を行っている。また、学校と家庭・地域が連携してキャリア教育の推進に取り組んでいる。

〈取組1〉 体験的活動…

- ・1年次；ICT 寺子屋 お礼状の書き方 マナー教室
地域調査 職業講話 職業調べ
- ・2年次；マナー講座 職場体験
- ・3年次；高校体験入学 先輩と語ろう 面接体験

※ 各活動の中で、役割分担や活動内容詳細設定、活動の見通しの設定などを経験していく中で生徒自身に責任感が大きく芽生えた。また、地域の人たちを身近に感じ、地域の中の自分という意識も大変高まった。

〈取組2〉 授業づくり…

「教科－キャリア教育関連表」を活用し、話し合い活動や学習内容と職業との関連を語る場の設定、学習場面での役割分担

※ 少しずつであるが、学習に対する意欲が高まってきた。また、自分の考えを筋道立てて説明しようとする意識も身に付きつつある。

〈取組3〉 学級づくり…

- ・自問清掃と自問ノート ・道徳 ・校外のゴミ拾い ・街頭募金

※ 生徒が自主的に活動できる場面が増えた。生徒は自己と他人の違いを感じ、他を認める心が育成できた。

〈取組4〉 家庭・地域・学校連携支援体制（武中のちから）…

- ・通学路の落書き消し ・子育て支援事業へのボランティア参加
- ・毎週の赤ちゃん登校日（コミュニティの日設定）
- ・福祉施設慰問、市内・公民館行事への参加

※ 地域から支えられているという感謝の心を持つ生徒はアンケート結果から87%に上る。また、生徒による地域への支援活動に取り組んだ実感から、自己認識・自己効力感・自己肯定感が高まりつつある。

【生徒の変容】

学校評価(7月)によると、「将来の夢や目標を持っている」生徒は84%、「キャリア教育によって将来の職業や進学先について理解が深まった」生徒は84%に上った。また、「自分の子どもと将来の夢や目標について話をする」保護者は84%とい

		<p>う大変よいアンケート結果であった。学校組織でキャリア教育に取り組んできた成果として評価できる。</p> <p>【参考】</p> <p>○平成 19 年度～平成 21 年度 佐賀県教育委員会指定キャリア教育推進事業</p> <p>○平成 23 年度～平成 25 年度 家庭・学校・地域連携支援体制づくり推進事業 「武中のちからシンポジウム」開催</p> <p>○平成 24 年度 全九州中学校研究大会プレ大会 公開授業研究会実施</p> <p>○平成 25 年度 全九州中学校進路指導研究大会佐賀大会会場校 公開授業研究会実施</p>
学校	佐賀県立伊万里農林高等学校	<p>当该校は「平成 14 年・15 年度 豊かな体験活動推進事業(文部科学省委託)」の推進協議会の一員として豊かな体験活動推進校に指定されてから、10 年間にわたり体験活動に力を入れてきた。</p> <p>その取組内容は、①自然に関わる体験活動、②勤労生産に関わる体験活動、③職業・就業に関わる体験活動、④交流に関わる体験活動などであり、具体的には近隣の幼稚園・小学校との農林業各分野による交流や、2 年生全員が取り組む就業体験を実施している。</p> <p>地域の幼稚園や小学校との交流では、生物生産科で幼稚園児との芋掘り交流や小学校や地域の老人会を巻き込んだ国道 204 号線沿い花いっぱい運動、食品化学科で食品に関する出前授業を実施、森林工学科で各小学校や地域の児童クラブ等に出かけていき林業教室にて木の実を使った写真立てや木工品作りなどの交流を行っている。子供たちも生徒も熱心に生き生きと活動しており、林業教室の実施学校数も年々増加し、生徒も教えることにより学習を深化し、学校で学んだことを再確認する場にもなっている。</p> <p>就業体験の実施形態の特徴は、生徒自らが主体的に実施するセルフ・プロデュース形式である。</p> <p>具体的な流れは、1)事業内容の説明→2)事業所の選択→3)事業所への電話連絡→4)事業所との打ち合わせ→5)依頼文書の発送→6)実施→7)日誌・体験感想文提出→8)お礼状の発送→9)報告書の作成→10)報告会の開催となっており、事前・事後の指導を行いながら生徒主体で取り組んでいる。</p> <p>事業所の選択においては 100 社以上の企業の協力が有るが、専門的な事業所だけに限らず、生徒の職業観の多様性等を考慮して、生徒が主体的に決めて実施するよう変化してきた。</p> <p>生徒は、電話一つにしても挨拶にしても自分たちで主体的に考え、電話での対応を原稿にしたり、友人と事前に練習して打ち合わせに出かけたりするなど、積極的に行動している。</p> <p>プレゼンテーション技術を用いた各学科の発表会や 2 月の市民センターでの報告会では、挨拶や言葉遣い、時間の大切さ、仕事に対する心構え、社会人としてのマナーなどを学び、学校で学んでいることの専門性を深化することができた等の感想が述べられ、生徒の成長がうかがえる。</p>

			<p>就業体験を通して、生徒の社会的・職業的自立とともに、地域や訪問企業との信頼関係の構築にもつながっており、生徒自ら取り組むセルフ・プロデュース形式の就業体験教育を今後とも継続して実践していきたい。</p>
長崎県	学校	長崎県立島原商業高等学校	<p>平成16年度より、販売実習の体験と地元商店街の活性化を目的に「島商ッ」を開店し、今年度で10年間の継続活動となる。</p> <p>現在は31社の地元企業と連携し、約200品目を販売している。また、販売品目の中には、地元企業の指導の下、生徒たちが商品化した「噴火ちゃんぽん(H21)」、「かまポテト(H25)」もある。</p> <p>近年では、工業科・農業科・特別支援学校の生徒たちが製作した、まな板やジャム、陶器なども販売している。</p> <p>商業科全員がこの実習に取り組むに当たり、地元企業の協力の下、生徒たちは、仕入れ、価格設定、陳列、接客、会計を学んでいる。</p> <p>この販売実習を通して、主体的、創造的に物事を考え合理的に企画する力や、消費者の立場に立ち倫理観を持って販売活動を行える資質を育成している。また、地元商店街に活気を与えると同時に、商店街や仕入先、顧客など地域の方々と接するためのコミュニケーション能力を高めている。</p> <p>学校では、1年次に小売業に関する講話や現場・企業見学、2年生でインターンシップを実施し、3年次で販売実習を行う系統的なキャリア教育を行っている。</p>
熊本県	学校	熊本県立荒尾高等学校	<p>1 取組の内容</p> <p>2学年生徒全員（今年度106人）を対象としたインターンシップを実施しており、平成23年度から今年度で3回目となった。</p> <p>(1) 実施期間 9月第3週の4日間</p> <p>(2) 実施場所 荒尾市、玉名市、長洲町周辺の事業所（今年度30事業所）</p> <p>2 具体的な説明</p> <p>(1) 実施した経緯</p> <p>近年の厳しい就職状況の中、一方で緊迫感を得ない生徒たちがいた。この現状を改善したいと考え実施に至った。2年生は、1年後に就職・進学の実践中に身を置くことになる。インターンシップをその予行準備と位置付けて取り組んだ。</p> <p>(2) 工夫した点及び成果</p> <p>① 実習先の決定に際して、実際の就職・進学時に準じた選考基準で「校内選考」を実施することで、生徒の緊張感が高まり、また1年後の予行準備という意識が深まった。</p> <p>② 実習先決定後、生徒全員が実習先に就職するつもりで志望理由書に準じた「自己紹介カード」を作成することにより、インターンシップに対する心構えが確立された。</p> <p>③ 実習中、生徒全員が真剣に取り組み、ふだん学校では見ることのできない生き生きとした表情、熱心に取り組む姿を見ることができた。</p> <p>④ 地域の方々から高い評価を得、地域へのアピールという思わぬ副産物を得ることができた。</p>

		<p>⑤ 生徒にとって、頑張りを認められたことが一つの自信となり、自己を高める機会となった。</p> <p>3 取組のまとめと今後の展望</p> <p>実施時期の見直しや事業所の新規開拓、事前事後指導の改善等を重ね、当該校の特徴的な取組として定着しつつある。当該校におけるキャリア教育の取組の中で、重要な位置を占めており、生徒のよりよい職業観の育成と進路意識向上のため、今後も必要な取組である。</p>
学校	熊本国府高等学校	<p>当該校は早期に進路意識を醸成し、進路選択のミスマッチが生じないように、平成21年度から、教育内容の改善を目指し、多様な進路志向に対応できる学科・コースの改編を進め、早期の進路意識の醸成や人生設計の意思を高める教育活動の充実を図ることを目的として、キャリア教育の充実のため実践的な体験型の学習を導入し、5年間継続して実践を行っている。</p> <p>①体験学習（ビジネス科）</p> <p>教科「産業社会と人間」の実践を目的とした活動。専門学校で、実際の専門学校の授業を体験し、職業観や自らの将来設計について考える取組。</p> <p>②国府高校市場（ビジネス科）</p> <p>販売実習を実演することで、社会で求められる社会性や、社会人として求められる資質について考える取組。</p> <p>③国府まなびや（ビジネス科）</p> <p>インターネットショッピングモールの運営を行う取組。実際の商取引を体験しながら、実社会で求められる社会的資質、コミュニケーションスキルの習得を目指す取組。</p> <p>④キャリアアクション（普通科）</p> <p>進路学習の一環として、大学見学や模擬授業に取り組む学習。将来の自分を考えながら、上級学校での学びを実際に体験し、社会や職業についての見識を深めていく取組を行っている。</p> <p>⑤進学ガイダンス（全校）</p> <p>当該校体育館で、上級学校の説明を受けることができる行事。一度に複数の学校について学ぶことができ、当該校進学指導の大きな役割を果たす取組である。</p> <p>⑥インターンシップ</p> <p>ビジネス科2年生全員と普通科2年生就職希望者による、職業体験の取組。</p>

<p>学校 熊本県立荒尾支援学校</p>	<p>研究テーマ：「キャリア教育の視点を踏まえた学校システムの再考」</p> <p>当该校のキャリア教育推進における取組の特徴は、キャリア教育の視点で教育課程を始め、研究方法、授業改善のための話し合いの手法や指導案などに関する見直しを行い、児童生徒一人一人が自立的に活動できる指導支援体制を構築することを目的としている。</p> <p>また、研究を進める上で外部研究者(熊本大学)と積極的に連携し、本県教育機関誌「H24, 25」への誌上発表や、日本特殊教育学会「H24, 25」でのポスター発表を通じて、常に研究の外部評価を受けながら研究の質の向上と教師一人一人の専門性の向上を図ってきた。そして、本研究の目的を達成するために、以下の1～3のことについて具体的に明らかにしている点が特徴として上げられる。</p> <p>1 児童生徒の発達段階に配慮し、必要な力の基盤となる独自に作成した「育てたい力」を活用することで、一貫性と系統性のある指導・支援へとつなげている。ここでの特徴的な点は、キャリア教育を構造化した4つの領域と、さらに、地域の中で役割を果たしながら暮らしていく力として二つの領域を加え、「社会的キャリア」と「職業的キャリア」の新たな概念図を構成したことである。また、それぞれ構造化された六つの領域については、「かかわる」、「きめる」、「はたらく」の三つのキーワードを設け内容表を作成している。そして、学校生活、家庭生活、社会生活において、一人一人のキャリア発達を促していくために、将来の姿を見据えどのような力を育てたいか明確な目標設定を行い、短期スパン、長期スパンで一人一人の変容を丁寧に見取り、小・中・高等部と一貫した指導・支援を継続していくために、一人一人の実態や発達段階においてどのような力を育てたいのか、目標設定や授業作り等に活用できるように学校全体の共通のツールとして作成したものである。</p> <p>具体的には、この学習活動ではどのような能力の育成を目指したものかを指導案の中で育てたい力に基づく観点別表として明確に言語化するようにした。そして、年度末には各学習における指導案の育てたい力に基づく観点別のデータを集約することで、年間の学習活動におけるキャリアの能力領域や各観点の偏りや傾向を調査し授業の改善に役立てている。</p> <p>2 これまでの学習計画（指導案等）の形式を1に基づいて見直し、学習内容を具体的に明示することで指導・支援のねらいを明確にし、授業の評価・改善へとつなげるPDCAサイクルを、教師一人一人が理解し実践するために、一人1事例の実践発表を計画し、全職員によるポスターセッションを年間3回実施した。結果、教師一人一人がキャリア教育について理解を深め自身の実践を通して共通理解を図ることができた。また、自分自身の実践を振り返りまとめることで教師一人一人がPDCAサイクルを理解し授業の改善へとつなげている。</p> <p>3 PATH(Planning Alternative Tomorrows with Hope)又はブレン・ストーミング法、更に生活マップなどのツールを用いて話し合いの手法を変えることで、本人・家族の将来の夢を設定し、さらに段階的支援目標を関係者間で共有し、児童生徒一人一人の実態に応じた指導支援を展開している。具体的には、卒業後の家庭・地域生活をより豊かにすることを目指し、生活マップ及び土日のス</p>
--------------------------	--

			<p>スケジュール表を作成し、学校外での生活も含めた生活の把握を行った。保護者からの聞き取りや連絡帳の記述を基に情報を整理しまとめることで本人の願いについて推察し、さらに、学校・保護者・関係機関の担当者が一堂に会し PATH ミーティングによる支援会議を行い、児童生徒の将来のビジョンを具体的に共有している。また、その後に保護者及び関係者から調査したアンケートによると、「話しやすい雰囲気」「具体的な支援方法」「新しい視点から考える」「子どものニーズや実態に応じた内容」の項目において高い評価を得ている。</p> <p>また、授業づくりにおいては「育てたい力」の意義付けをどのように学習指導案に盛り込んでいくか、どのように授業を構造化するとよいかなどの課題を解決するため「ブレン・ライティング法」と「KJ法」の手法を用い、授業づくりにおける教師集団の会議の活性化を図っている。「前年踏襲型」から「学ぶ組織」「生み出す組織」に変換し、教師自身の「意識改革」と「共同性」を高め促進するため、教師一人一人の思いや考えを引き出し、互いに学び合う組織づくりと、チームアプローチによる授業づくりを進めている。結果として、遊びの単元や新規性を求める単元については、担当者だけでアイデアを絞るのではなく、全員参加型のミーティングによりアイデアを募り、対象児童に効果的な授業を展開している。また、他の教師が出したアイデアを見て、更に新しいアイデアが浮かび上がり、その積み上げによる授業づくりを進めている。また、「育てたい力」に沿って、授業内容をキャリア教育の視点で整理することができ、教師一人一人のキャリア教育を捉える力を高めることができた。</p>
大分県	学校	大分県立津久見高等学校海洋科学校	<p>当該校は、大分県内唯一の水産系専門高校として、漁業・海運業等に関する人材育成において重要な役割を果たしている。</p> <p>キャリア教育に関しては、入学時から3年間を見通した体系的・系統的な計画の下、PDCA サイクルによる実践を重ねており、特に次の点において顕著な成果が見られる。</p> <p>1. 新規就業者の育成を目的としたインターンシップの実施</p> <p>平成18年度より、新規海運業及び新規水産業就業者の育成を目的としたインターンシップを、それぞれ国土交通省九州運輸局大分支局を中心とした佐伯海事地域人材確保連携協議会及び大分県農林水産部水産振興課との連携により実施している。1, 2年次は、全生徒を対象にそれぞれ3日間、5日間、3年次は海運業・水産業への就業を希望する生徒を対象に5～12日間、漁業・養殖業や水産物加工団地等において実施することで、3か年を通じて学校での学習と関連付けて段階的に専門性が高まるように工夫している。</p> <p>この結果、平成18年度に約3割であった水産業への就職決定率が平成24年度は約7割にまで上昇し、就業後の定着率も向上している。</p> <p>2. 魚食普及及び地産地消活動を通じた専門的实践力向上への取組</p> <p>昨年度から地域の魚市場で毎週土曜日の朝7時半より開催される朝市に参加し、水産業従事者と共同して、消費者が購入した魚の調理サービス等を行う取組を実施している。専門的職業人と協働することで、より専門的な知識や技術の習得につながるほか、衛生管理や商品管理等においても実践的な学習の場となって</p>

			<p>いる。</p> <p>この結果、平成24年度、平成25年度の全国水産高等学校長協会主催の食品技能コンテスト全国大会実技コンテストにおいて、2年連続優勝するという成果を得た。また、接客サービスや幅広い世代間との交流等を通じて、コミュニケーション能力や協調性、相手を思いやる心などを身に付けている。</p> <p>当該校は、このような取組によって、生徒に学校での学習と地域社会や職業とのつながりを意識させ、人間関係形成・社会形成能力や課題解決能力、キャリアプランニング能力などの育成に努めている。キャリア教育の推進を通じて更なる発展が期待できることから、本表彰にふさわしいと思われるので推薦する。</p> <p>【ホームページ】 Kou.oita-ed.jp/kaiyoukagaku/</p>
鹿児島県	教育委員会	与論町教育委員会	<p>1 「教育立島」の実現を掲げる与論町教育委員会は、「思いどう運命」のことわざに学び、幼児及び児童生徒の各発達段階に応じた夢を育て、国内外に大きく羽ばたく人材の育成を目指している。これは、キャリア教育の目標「一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度の育成」と目的を一にするものである。</p> <p>2 小・中学校段階における取組</p> <p>(1) 毎年「でっかい夢語り大会」を開催し、各小学校5・6年児童1名ずつ中学生各学年1名ずつが方言や英語で自己紹介を行い、自分の夢を発表している。</p> <p>(2) 3小学校合同宿泊学習において、与論町の基幹産業である観光業についての職場体験学習プログラムを実施している。具体的には、町内のホテルに宿泊し、ベッドメイキングや接客マナー、パーティーセッティング、ショップでの販売員体験を実施している。</p> <p>(3) 中学校3年生が町内の20箇所の事業所で職場体験学習を行っている。</p> <p>(4) 中学校において中学校進路学習会を開催し、与論高校の生徒が、大学推薦入試合格体験や就職試験の合格体験を発表している。</p> <p>(5) 与論高校への体験入学を実施している。</p> <p>3 高校段階における取組</p> <p>(1) 平成12年4月から始まった連携型中高一貫教育の下、中高合同職員会議を開催し、中学校の教諭と高校の教諭が情報交換を行っている。</p> <p>(2) 与論中学3年生及び各小・中学校の管理職並びに与論町学力向上対策委員会の教諭の参加の下、進路体験発表会を開催している。</p> <p>(3) 中学生を対象にした就職試験の模擬面接の参観、小論文の書き方や試験勉強の方法等の発表等に取り組み、夢実現のための方法を学ばせている。</p> <p>(4) 中学校との相互乗り入れ授業を行い、発達の段階に応じた立志指導と進路指導の充実を図っている。</p> <p>4 地域・社会での取組</p> <p>(1) 「一人一人の可能性を引き出すための特別支援教育の推進」をテーマに、町</p>

		<p>全体で特別支援教育の研究に取り組み、大島地区の研究大会を開催している。就労継続支援事業所や民間団体等との連携の下、子供一人一人のライフステージに応じた支援計画や指導計画の充実を図っている。</p> <p>(2) 平成25年度より道徳教育総合支援事業に取り組み、自己の在り方や生き方を考えさせる「与論のことわざカレンダー」を町内の全小・中・高等学校の生徒に配布している。</p> <p>(3) すべての小・中学校に学校応援団が組織され、各学校での進路学習等の教育活動に積極的に活用されている。</p>
学校	日置市立伊集院北中学校	<p>自己実現させるための進路指導の充実を図り、生徒に生きる力を身に付けさせるために必要となる能力や態度の育成に取り組み、キャリア教育としての実践を積み重ねている。</p> <p>1 学校経営方針などのキャリア教育の視点、特に基礎的・汎用的能力としての4つの能力との関係について見直しを図る。</p> <p>(1) 目指す生徒像をキャリア発達にかかる4つの能力との関係をまとめる。</p> <p>(2) 学校行事や総合的な学習の時間等の取組のねらいと、4つの能力との関係をまとめる。</p> <p>(3) 各教科で育成するキャリア発達にかかる諸能力の把握と実践</p> <p>2 キャリア教育の視点を取り入れた各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間などの実践</p> <p>(1) キャリア発達にかかる4つの能力との関係をまとめる。</p> <p>(2) 道徳教育の推進、特別活動での計画的な進路指導</p> <p>(3) 特色ある総合的な学習の時間の体験的活動 (命ふれあい授業、俳句教室、駅伝マラソン大会など)</p> <p>(4) キャリア発達に直接かかる体験活動の充実 (職場体験活動、高校説明会、先輩講話、高校めぐりなど)</p> <p>(5) 生徒会活動と連携したキャリア能力の育成 (エコキャンペーン、緑のエコカーテン、いじめ撲滅運動)</p> <p>3 キャリア教育の視点を取り入れた小中連携の実践</p> <p>(1) 小中合同の授業参観、研究協議の実践 (1学期：伊集院北小学校 3学期：伊集院北中学校)</p> <p>(2) 夏季休業中の小中合同教育講演会の実施 (鹿児島大学教授による「思春期のそだち」の講演)</p> <p>(3) 学業指導の共通実践項目の作成と共通理解</p> <p>(4) 生徒指導の情報連携と共通実践項目の策定</p> <p>(5) P T Aの交流会の実施と共通実践事項の設定</p>
学校	鹿児島県立鹿児島水産高等学校	<p>1 インターンシップや現場実習における取組</p> <p>当该校は平成21年度・平成22年度に文部科学省と水産庁からの指定を受け、「里海(ふるさとの海)を守り、拓く人材育成プロジェクト事業」に取り組んだ。この事業の成功を踏まえ、学校と地域の関連産業界とが連携し、組織的な職業体験やインターンシップの推進を通じて、望ましい職業観や知識・能力を身に付け、主体</p>

		<p>的に進路を選択する力や態度を育てることを主な目的として現在も継続して行っている。</p> <p>今年度計画・実施している現場実習は、次のとおりである。</p> <p>(1) 海洋技術コース3年 県内フェリー事業所 07.23(火)～08.01(木)</p> <p>(2) 機関コース3年 (株)鹿児島ドック 06.03(月)～06.08(金)</p> <p>(3) 栽培工学コース2年 長島町内養殖事業所 11.05(火)～08(金)</p> <p>(4) 情報通信科2年 南薩地区事業所 12.10(火),11(水) [予定]</p> <p>(5) 食品工学科2年 枕崎市内事業所 07.08(月)～12(金)</p> <p>(6) 食品工学科2年 枕崎市内事業所 03.13(木),14(金) [予定]</p> <p>各企業との連携も定着し、内容も体験的なものから実践的なものになってきており、目的とする人材育成が構築されつつある。最近現場実習をきっかけにその企業に就職する生徒も出てきている。</p> <p>2 他校種等への取組</p> <p>当該校では、①いつでも、②どこでも、③誰にでも水産業の面白さやすばらしさを知ってもらおうと独自で取り組んでいる「どこでも授業」がある。対象者は、幼稚園児から小・中学校の児童生徒、保護者や高齢者に至る一般の方々まで幅広い。また、授業の内容も水産分野だけにとどまらず、環境や食育など多岐に亘っている。この取組は全国的にも珍しく、受講者からは「専門の先生から楽しく学べる貴重な機会である。」という評価がある。</p> <p>平成13年度から海洋科栽培工学コースを中心にスタートした本授業は、平成20年度から学校全体による取組に進化し、学校が一丸となって水産教育の面白さについて組織的に指導を行っている。</p> <p>この取組により、次のような効果が現れている。</p> <p>(1) 来校者の学校理解につながっている。特に最近では近隣の中学生が進路指導の一環で学年ごとに来校するため、生徒募集の観点からもメリットが大きい。</p> <p>(2) 授業の進め方や説明・紹介の仕方など初めて接する児童生徒に対しても興味の湧く授業の在り方を考えるよい機会となっている。また、授業を受ける児童生徒は直接魚を触ったり、大きなエンジンを運転したりすることなど、各学科やコースの学習内容を肌で感じる事ができている。</p> <p>【ホームページ】</p> <p>http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Kagoshima-F/top.html</p>
--	--	---

沖縄県	学校	沖縄県立宜野座高等学校	<p>平成 24 年度より沖縄県商工労働部による「高校生等のためのキャリア形成支援プログラム事業」の実践推進校として「自己実現を図るために今できること」という学校テーマの下、3 年間のキャリア教育計画を作成しキャリア教育の実践を行っている。地域連携と上級学校のキャリア教育の取組について、PTA とともに、先進県や上級学校を訪問し、キャリア教育の理解を深めている。今年度 2 月には、保護者と生徒に向けて 2 年間の取組による生徒の意識の変容を分析、発表するとともに、キャリア教育の講演会を予定している。教育課程上は主に総合的な学習の時間に位置付け、「宜野座高等学校キャリア全体構想図」の下、各学年でそれぞれテーマを設定し、組織的・系統的に取組を展開している。</p> <p>総合的な学習の時間における主な取組は以下の通り</p> <p>1 年次：「オープンキャンパス」に向けた事前準備、質問事項の作成、事後報告会</p> <p>2 年次：「就業体験」の事前にマナー講座を実施する。事業所マッチングや自己紹介文の作成、事後にお礼状の作成及び事後報告会</p> <p>3 年次：進路別学習会、進路別進学相談や面接試験対策指導、事後報告会外部機関と連携した取組等</p> <p>「学年共通」</p> <p>1、職業体験授業</p> <p>職業意識の啓発を行い、多種多様な分野の職業を体験することを目的に、外部講師による「職業体験授業」を全学年対象に 6 月に行っている。今年度は、17 職種に関する授業を展開した。</p> <p>2、キャリア教育講演会の実施</p> <p>自立した社会人として生きていくために高校生活を通してどのようなことに取り組みべきかをテーマに 5 月の 3 者面談期間中の 2 日間に渡り、午後の時間を利用し、宜野座村の「がらまんホール」にて講演会を実施している。</p> <p>3、「G-up 進路講演会」の実施</p> <p>進路の早期決定を促すために、各学年に応じた今後の過ごし方及び生徒個々の目的に合った進路決定の方策を学ぶことを目的に、講演会を実施している。</p>
仙台市	学校	仙台市立寺岡小学校	<p>平成 24 年度・平成 25 年度、仙台自分づくり教育（仙台版キャリア教育）を校内研究テーマとして位置付け、「社会の中でたくましく生きる児童の育成」に取り組んでいる。</p> <p>各教科において、自分づくり教育の視点で取組を見直し、生きる力を育むことを意識した教育活動の在り方について、研究主任を中心に、授業実践を通じた研究を行っている。児童の変容について客観的に捉えることができるよう地元教育大学と協力し、キャリア教育のプログラムを充実させるために NPO 法人とも積極的に連携を図っている。さらに、働くことと生きることを結びつけるために、地域の社会人講師を招いた職業講話も実施している。また、教員の校内研修会においては、外部講師を積極的に招くなど、研修の充実を図っている。</p> <p>具体的事例として、3 年生では総合的な学習の時間に「寺岡の宝物を見つけよう」というテーマを掲げ、地域の自然に触れ、達人との交流を深め、寺岡の宝物として発信したり、地域のためにできることに取り組んだりしている。4 年生で</p>

		<p>は「自分アーカイブス」というテーマの下、10年間の成長について家族にインタビューし、将来に対する夢や目標を持つ活動に取り組んでいる。6年生では「自分にできることを考えよう」のテーマの下、震災後に活動してきたボランティアや市の職員の話を聞き、今後の自分の生き方について考えさせている。</p> <p>さらに、どの学年においても、ふだんの授業の中で、仙台市が自分づくり教育で育むことを目指している「かかわる力（人間関係形成）」「みつめる力（自己肯定感）」「うごく力（積極性）」を教員が意識し、働きかけを工夫しながら指導に当たっている。</p> <p>自校の取組に対して広く意見を募り、研究を一層推進するために、平成25年1月にはキャリア教育担当調査官を招いて公開研究会を開催した。また、今年度11月下旬には仙台市教育委員会認定の自主公開校として授業研究会を予定している。</p> <p>これらの取組と成果については、全国キャリア教育・進路指導担当者等研究協議会にて先進的事例として紹介され、更に今年度11月の京都市キャリア教育大会でも、事例発表がなされる予定である。</p>
学校	仙台市立吉成中学校	<p>平成18年度より、継続して5日間の職場体験活動を実施している。前後の指導を精選し、限られた時数の中で最大限の教育効果が図れるようカリキュラムを工夫し、他校の参考となる取組を行っている。更にボランティア活動や仙台自分づくり教育の授業モデル「たく生き（たくましく生きる力育成プログラム）」にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>事前の学習では、社会の一員であることや勤労に対する心構えについて学び、体験する職について職業調査を行う。そして保護者を面接官とした集団面接を行い、職場体験の目的や、解決すべき課題について明らかにする。さらに、ビジネス専門学校から講師を招き、社会人としてのマナーも学んだ上で、職場へと出向いていく。</p> <p>5日間の職場体験活動では、社会人として必要となる規範意識やマナー、人間関係を築くコミュニケーション能力の大切さを体験的に学ぶ。生徒は一人一人、実習日記を持ち、その日、学んだことをまとめ、保護者もコメントを記入し、体験を形として残す工夫をしている。</p> <p>事後の学習で行う、体験から学んだことの発表会では、保護者や隣接した小学校の6年生を招いて開催する。後輩を招くことは、中学生の意欲を高めるだけでなく、より分かりやすい説明を心がけるなど、発表の質の向上に結びついている。また、小学生は、中学校での学習活動に見通しを持ち、進学への期待を膨らませることにつながっている。</p> <p>職場体験の受入事業所の確保については、保護者に呼びかけると同時に、学校支援地域本部等にも依頼し、例年、複数の事業所を新たな活動の場として開拓している。</p> <p>また、今年度、全校生徒が参加するボランティア組織「よしボラ隊」が発足した。総合的な学習の時間などを活用し、地域の課題解決に向けたボランティアの企画に取り組んでいる。9月には学区内を回り、道路のゴミ拾いや、危険箇所な</p>

			<p>どの調査を行った。</p> <p>さらに、隣接する小学校とともに「たく生き」を校内研究のテーマとして取上げ、授業研究を合同で行う等、連携を図りながら、キャリア教育の一層の推進を図っている。</p>
千葉県	学校	千葉市立花園中学校	<p>平成23年度・平成24年度の2年間、千葉市教育委員会研究指定校として、キャリア教育を教育課題として研究に取り組んだ。平成24年11月9日には、第38回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会千葉大会において2年間の研究の成果を発表しキャリア教育の推進に貢献した。また、研究指定が終わった平成25年度もキャリア教育の研究を継続し、発展した内容で取り組んでいる。</p> <p>平成23年度・平成24年度の2年間に行った研究は「確かな学力を持った生徒の育成ー表現力を高める指導の工夫を通してー」を研究主題とし、キャリア教育の視点から教育活動を振り返り、実践に取り組んでいった。平成24年8月に配布された文部科学省国立政策研究所からのリーフレットにあるように教科等を通じてキャリア教育を実践することの重要性が示されており、一人一人の生徒において、今後、社会生活で必要とされる基礎的・汎用的能力が育成されるよう、キャリア発達を促すための授業を工夫して実践した。全学級で、全教科等の公開授業を展開したことは、キャリア教育の推進のための新たな取組として大きな示唆を与えるものであった。</p> <p>平成25年度はキャリア教育の視点を意識して教育活動全般を見直し、キャリア教育との関連を示した年間指導計画を作成したり、職場体験を中心とした体験活動を充実させたりするなど2年間の研究を継続させている。さらに、キャリア教育の視点を生かしながら、目的を持って学び、表現できる生徒の育成を図るための具体的な取組を実践し、より発展した内容で研究を進めている。</p>
横浜市	学校	横浜国立市ヶ尾中学校	<ul style="list-style-type: none"> 市ヶ尾中学校の学校運営協議会に、学区である小学校、荏田西小学校・東市ヶ尾小学校の校長にも委員として入っていただき、各校の学校支援地域本部が連携をして小中一貫でキャリア教育を進めている。また、学校関係者以外にも、株式会社キャリアリンク、荏田西連合自治会、下市ヶ尾町内会、中市ヶ尾自治会が学校運営協議会のメンバーになるとともに、市ヶ尾商栄会、NPOまちと学校のみらい、あおば学校支援ネットワーク、青葉区役所地域振興課などとも連携し、協働を図っている。小・中学校の教務主任も毎月会議をもつことにより、確実に小中一貫9年間の協働としてキャリア教育が浸透するよう9年間のカリキュラムを実施している。 今年度夏休みの全教職員による研修として、学区9年間で身に付けさせたい力を明確化。その結果、「コミュニケーション力」と決まった。小学校1年生～中学校3年生まで、各学年で身に付けさせたいコミュニケーション力を明確化し、言葉に落とした。小中連携で、学年同士の身に付けさせたい力を明確にしたのは真の意味で小中連携となり意義深い。 キャリア教育としては、正式には2010年より活動開始。現在は、キャリア教育関係機関の方々に学校運営協議会（隔月で開催）の委員となっただき、進捗状況を確認したり、次なる方策を審議したりして、PDCAサイクルが出来上

		<p>がっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 工夫している点としては、教科の単元などに合わせ、対象学年は様々ではあるが、月々2～3団体が出前授業などで来校。生徒に単元と世の中のつながりを体験的に学習させている。地域連携・企業連携・トップリーダーの3分野からバランスよく来校していただくようにしている。24年度から総合的な学習の時間が減ったことにより、総合的な学習の時間としてではなく、各教科の単元に合わせて、学習への「興味関心を高める」「深化・発展をさせる」ことを目的にキャリア教育を行っている。保護者・教員だけでなく、様々な生き方をしている大人と出会うことによって、生徒たちは将来の社会的・職業的な自立に向け、必要な基盤となる能力や態度が育成されている。また、学校教育理念は「自立貢献」、小中一貫教育のスローガンも「自立貢献 15の春に向けて」であり、学区で9年間かけて身に付けさせたい力＝コミュニケーション力として全教職員が確認。この身に付けさせたい力を具現化するのがキャリア教育であると認識している。
学校	横浜市立東山田中学校	<p>平成17年コミュニティスクールとして開校以来9年。「地域とともにある学校作り」を目指して、様々な活動を行ってきた。開校とともにキャリア教育をスタート。学ぶこと、働くこと、生きることがつながり、生徒たちの将来につながる学びであるという理念の下、3年間を見通したキャリア教育プログラムを実践してきた。平成21年度から学校支援地域本部をスタート、教職員と地域コーディネーターが年間を通じて協働し、企業・事業所・ボランティアが関わり、「10年後の社会人」を育むプログラムを地域とともに実施している。</p> <p>キャリア教育の特徴は、コミュニティスクールと学校支援地域本部を両輪に、地域とともに展開し、生徒の学びをより社会とつなげ、10年後の自分に実感をもたせることである。実施プロセスで、学校が地域にひらかれ、教職員が地域社会と出会うだけでなく、地域の方々が中学生に出会い、学校をより理解し、キャリア教育をテーマに地域のつながりが深まっている。</p> <p>■1年生「プロに学ぶ」自分について知る、社会について知る、職業を知る</p> <p>30名を超える若手の職業人を講師に迎え、10名ずつのグループごとにインタビューをし、その職業の紹介ポスターと30秒のCMを作成する。CM発表会は、本格的な照明技術者とプロのファシリテーターを招き、映画撮影さながらの雰囲気の中で行われる。聴く・グループでまとめる・伝えるというプロセスでコミュニケーション力とチーム力が求められるプログラムとなっている。</p> <p>■2年生「3日間の職場体験」働くことの意義や目的意識を認識する。</p> <p>体験を通してコミュニケーション力を高め、社会のルール・マナーなどを知る。事前学習として、職業講演会やリクルート社による出前講座のほか、マナー講座や認知症講座を実施。また職業体験の最終日には事業所の方にインタビューを行い、それをもとにリクルート社の社会貢献活動の一環として協力いただき、「中学生版タウンワーク」を作成している。約100か所での職場体験は、生徒だけでなく、教職員が地域や企業と出会う好機となっている。</p> <p>■3年生「模擬面接」</p>

		<p>進路を決定する時期、担任を中心とした進路指導をきめ細かく行い、さらに、キャリア教育の一環として、30名を超える地域ボランティアの方々の協力を得て、模擬面接を実施。一人の面接官に対し、10名の生徒が受験に向けての面接を行う。初対面の方との面接は、ほどよい緊張感があり、3年間の集大成として、自分を表現する力やコミュニケーション力を育てる重要な場となっている。</p> <p>■キャリア教育交流会</p> <p>3学年のキャリア教育にかかわった、企業・事業所・ボランティア・教職員・コーディネーター等が一堂に会し、研修・交流会を実施している。</p>
京都市	学校	<p>京都市立下京中学校</p> <p>当該校は、平成19年4月に5中学校が統合して開校し、7年目を迎えている。「基礎的・汎用的能力」(分野や職種にかかわらず社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力)の育成を目指し、学力向上を包括的に捉えるキャリア教育を推進している。中学校卒業後の進路は生徒の可能性を広げるための重要な選択の機会であり、今年度より京都府公立高等学校の新たな入学者選抜制度が導入され、自らの進むべき道を切り拓く力がより強く求められている。未来に夢を持ち、創造できる力を付けるべく、将来へ向けた幅広い学びに取り組んでいる。そのような中、本市の「豊かな学びリーディングスクール」推進事業(小中一貫教育)に指定し、9年間を通じたキャリア発達プログラムの構築を推し進め、小・中学校の教職員間の連携や協働を深め、生徒の教育活動での連続性を高める小中接続にも取り組んできた。また、平成24年度は「志を見つける学びの旅『キャリア教育の視点を持った教育活動の構築』～自分・相手・社会に問い、生き方を探究する～」、今年度は「志を見つける学びの旅～将来にわたり活用できるキャリア教育の実践と検証～」とし、キャリア教育の研究を二年にわたって進めてきた。</p> <p>また、キャリア教育の視点に立った「基礎的・汎用的能力」の育成を目指し、各教科・領域が連動したシラバスを作成している。4つの能力の育成が、1年間途切れることが無いように、各教科・領域においてつながりを持たせた教育課程づくりにも併せて取り組んでいる。</p> <p>具体的には、進路学活やチャレンジ体験(京都市独自に取り組んでいる職場体験)だけをキャリア教育と捉えず、各教科や人権学習、いのちプロジェクト(下京中学校独自に取り組んでいる自分の命や他人の命を大切にし、どのように生きるべきかを考えながら命を輝かせる取組)など道徳や特別活動を含めた多領域の教育活動の中でもキャリア発達における「基礎的・汎用的能力」をそれぞれ示し、教育活動を展開している。</p> <p>また、生徒にどの教育場面でどのような能力・技能が身に付いたのかを評価し、さらなる指導につなげていくという指導と評価の一体化を更に進めていく必要がある。生徒個々の評価方法についても研究を進めている。学校評価についても積極的に取り組んでおり、PDCAサイクルのCheck機能を大切にされた学校改善を意識した研修等にも取り組んでいる。</p>

PTA 団体 等	京都市立白河総合支援学校PTA	<p>京都市立白河総合支援学校では、平成16年度に産業総合科を、平成25年度に地域総合科（東山分校）を設置し、全生徒の企業就職を目指して、学校での授業と企業での長期実習を組み合わせた「デュアルシステム」による教育を実践している。平成20年度から第1学年の定員を順次拡大してきたが、平成25年度からは地域総合科（東山分校）の設置により、開設当時の2倍以上（32人→68人）としている。</p> <p>京都市立白河総合支援学校PTAでは、平成18年度から毎年、教員だけでなく保護者とともに企業を訪問し、生徒の雇用先や実習先の確保に取り組んでいる。</p> <p>保護者と教員がともに訪問することで、企業に対する啓発効果が一層高まることに加えて、保護者自身が企業の現実や教員の取組を肌で感じることができるため、子供の社会参加と自立に向けた保護者の意欲の向上にもつながっている。</p> <p>平成25年度は、保護者56名と教員48名がチームを組み、企業110社を訪問して雇用や実習の受入依頼を行ったところである。これまでへのべ700社・事業所を回り、職場体験実習や雇用につながった企業は50社を超える。</p> <p>また、20年以上前から、同校PTA進路部会のメンバーを中心に、在校生の保護者が当該校生徒の将来の働く姿をイメージできるように卒業生の雇用先を見学する「職場見学会」や、卒業生とその保護者による体験談を聞く「進路体験交流会」を実施している。</p> <p>一方、新入生の入学に向けた取組については、昨年度より専門教科の体験や授業見学の機会となるオープンキャンパスを充実させており、昨年度は7回、今年度は8回当該校PTAと連携して実施している。受付や見学の誘導等、これまでの保護者としての経験を生かし、教職員、生徒、保護者が一体となって取組を進めている。</p> <p>こうした取組の結果、当該校では、平成18年度卒業生から平成22年度まで5年連続100%の就職率を達成し、平成23年度及び平成24年度の卒業生も90%以上の生徒が就職を果たした。</p> <p>当該校のこのような高い就職実績の背景として、当該校PTAの子供たちへのキャリア教育に対する情熱と、精力的な実践が果たしている役割は大変大きく、当該校PTAをキャリア教育優良PTA文部科学大臣表彰に推薦する。</p>
大阪市	学校 大阪市立生野工業高等学校	<p>大阪市立生野工業高等学校は、機械科・電気科・電子機械科を設置しており、ものづくりのスペシャリストとして地域に貢献できる人材の育成を目指し、次のような取組を通じたキャリア教育を行っている。</p> <p>○小学生ものづくり教室</p> <p>当該校は毎年夏季休業中に、ものづくりの技術と楽しさを伝えるため、地域の小学5・6年生を対象とした「小学生ものづくり教室」を開催している。この教室は平成14年度にスタートし、今年度で12回目の開催となった。</p> <p>生徒は、この教室で小学生に対する技術指導を行うため、地域の企業において様々な加工技術に関する講習を受けている。今年度は「ヘラ絞りによる板金加工」、「バネの製作」、「真鍮等の鋳造」について技術講習を受け、各自が身に付けた技</p>

術を今回の教室で遺憾なく発揮した。この「小学生ものづくり教室」は、地域の技術を小学生に伝える機会となっており、地域産業の伝承・活性化に大いに貢献している。さらに、小学生に対し指導することが生徒の自信を高めることにつながり、キャリア発達の促進につながっている。

また、平成23年度に、生野区役所、生野産業会、大阪商工会議所東成・生野支部とともに「生野区次世代育成実行委員会」を組織し、それ以降、本市経済戦略局の予算支援を受けて同教室を開催するなど、地域や産業界とより一層緊密な連携を図りながら次世代の人材育成に取り組んでいる。

○空き店舗を活用した「ものづくり体験教室」

当該校は本年度、地元地域にある生野本通中央商店街と連携し、空き店舗を活用した「ものづくり体験教室」を開催し、授業を通じた様々な取組やものづくりの楽しさを地域に広報する活動を行った。同商店街は経済産業省の「地域商店街活性化事業」を活用した様々な取組を行っており、その一環として「ものづくり体験教室」を開催することとなった。

「ものづくり体験教室」の概要は次のとおりである。

開催日：平成25年8月24日（土）

場 所：生野本通中央商店街

内 容：

- ①ボルトやナットを材料としたロボット製作
- ②硬化樹脂を材料としたキーホルダー製作

○夏季進路セミナー

同校では、キャリア教育の一環として、生徒の進路意識を高めるための取組として、毎年、夏季休業期間中に「夏季進路セミナー」を実施している。同セミナーを通じて行われる主なプログラムは次のとおりである。

1 自己理解

マインドマップを利用した自己理解マップを作成・活用し、自身の適性や能力を客観的に把握した上で、自分に合った職種や進学先等を考える。

2 分野別職業紹介

専門学校から講師を招き、主に製造業に関する職種について講義を受け、それぞれの職種にふさわしい適性や必要な能力等を考える。

3 講演

企業経営者等を講師として招き、会社でのエピソード等を交え、企業が求める人材、採用に当たり重視するポイント、仕事内容等についての講義を受ける。

4 小論文対策講座

外部講師を招き、小論文作成のポイントについて講義を受ける。

5 面接対策講座

外部講師を招き、面接で注意すべき点についての講義の後、実際に模擬面接を実施することで、受け答えに必要なコミュニケーション能力の向上を図る。

		<p>6 チェックテスト</p> <p>就職試験等で出題される一般教養問題に取り組むことによって自らの力を確かめ、今後の学習活動に役立てる。</p> <p>当該校は、日常の学習活動で身に付けた知識や技術を活用し、3年間を通じた体系的なキャリア教育を実施することで、自己理解の深化及び職業観・勤労観の確立を図っている。また、地域で学んだ事柄を様々な取組を通じて還元することで、地域社会とのより緊密な連携を図っている。</p> <p>これらのことから、本市教育委員会は、当該校をキャリア教育優良学校として推薦する。</p>
神戸市	学校 神戸市立宮川小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・当該校は、「未来を見つめて、将来を夢見て」をテーマに、様々な体験と多くの人との触れ合いを通して、社会的・職業的自立基盤を形成していくことができるように、平成17年～25年の8年間にわたり本市重点推進校としてキャリア教育に取り組んでいる。 ・自分の存在価値を学級や学年、学校で意識できるように、また、どのような自分になりたいかを常に問いかけ、「自分」「家族」「地域」を中心に据えた実体験等の活動を大切に、1年生から6年生までの発達段階に応じたカリキュラムを作り、系統的な指導を実践している。 ・例えば、3年生の「宮川子どもいちば」では、長田区ボランティアセンターや長田商店街の協力の下、実際に品物を売る体験をして、商店で働いている人々の喜びや苦勞、工夫を知った。また、接客したことにより、気持ちよく人と接することの大切さを感じることもできた。更に、お客さんに素早くおつりを計算して、渡さなければならないということが、算数の学習とつながっていることも実感することができた。 <p>5年生の「長田のまちを報道しよう」では、神戸新聞社の方から、取材や記事のまとめ方を教えてもらい、「長田神社」「商店街」「子ども見守り隊」など自分のまちについての取材活動を行った。そして、昔からある伝統行事を地域の人たちが大事に守り続けていることや長田のまちを活性化するために商店主が様々なアイデアを出し合い努力していることなどを知り、長田のまちがたくさんの方々に支えられていることを感じることもできた。</p> <p>6年生の「未来を見つめて」では、職業人やその道のプロから「大人」「仕事」「夢」について話を聞いた。また、国語「今、わたしは、ぼくは」の学習で、卒業を前に小学校生活を振り返り、今までお世話になった方々に感謝の気持ちを持ちながら、一人ずつが自分の「夢」についてスピーチする活動を通して、自分自身の将来について真剣に考え、目標を持つことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該校の近くには、商店街だけでなく、駅や神社もあり、キャリア教育を進めていくのには、大変恵まれた環境にあると言える。そのよさを生かすために、絶えず計画を見直して改善を図り、更に、保護者・地域との連携を強化しながら、キャリア教育の充実を進めている。

	<p>学校 神戸市立上野中学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自らの役割や将来の生き方・働き方について考えさせ、望ましい勤労観や職業観を育成する」、「肯定的な自己理解と自己有用感を獲得させ、積極的な社会参画する態度を養う」ことを目標としてキャリア教育を実践している。 ・生徒の発達段階に応じて系統立てた単元配列を行い、「学び」「深め」「まとめる」という一連の学習活動を通して、自己実現を図ったり、自己有用感を高めたりする取組を行っている。 ・3年間の系統立てたカリキュラムを配列し、各学年の目標を達成するために多様で工夫された指導を展開している。 (各学年の目標) 1年生「自己発見と適正把握」 2年生「職業観の深化と体験による自己実現」 3年生「自己実現のための情報収集力及びコミュニケーション力の向上」 ・学校支援地域本部（通称「うえのプロジェクト」）の「キャリア教育サポート部会」を設置し、ゲストティーチャーとして職業選択の体験や仕事に関する講話を実施するなど、地域人材を活用して職業観の育成を図っている。 ・基礎的・汎用的能力を育む職場体験学習として、トライやる・ウィークを実施し、事業所・地域の方々、多数の保護者ボランティアの支援を受け、充実した活動とすることができている。 ・キャリア教育サポート部会と教職員の交流委員会を設置し、個々の生徒の縦断的な学びに対応できるようにするためにサポート部員によるアフターケアを充実させる態勢づくりを図っている。また、生徒の多岐にわたるニーズに対応できるようにサポート部員の確保に努めている。
<p>広島市</p>	<p>学校 広島市立牛田中学校</p>	<p>○ 平成20年度キャリア教育実践プロジェクト推進校 「豊かな心を持ち、主体的に学び、考え、行動できる人間の育成」を学校教育目標とし、地域等と主体的に連携を図り、組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる。</p> <p>① 他校種や地域との連携・協力 中学校区のふれあい活動推進協議会と連携・協力し、地域清掃や花づくり、町民運動会や公民館まつり等の企画運営に関わっており、異年齢の人たちとの交流や人の役に立つ体験等を通して、自己有用感や自己肯定感を高めるとともに、他者と協力・協働して社会に参画する力の育成を図っている。 隣接している商業高校と連携してマナー講座を実施し、職業人としての基礎的な能力の向上を図っている。</p> <p>② 組織的・系統的なキャリア教育の取組 豊かな人間性の育成を目指し、3年間を見通したキャリア教育の推進に取り組んでいる。 1学年では、3年後の自分に送る手紙をまとめた「入学文集」を作成することを通して、将来に対する夢やあこがれを抱くことができるようにしている。 2学年では、商店街振興組合から招いた講師の話の聞き、働くことの意義や未来を見通す大切さを考えさせることを通して、目標を持ち主体的に生活する態度</p>

			<p>を育成している。</p> <p>3学年では、事前指導・事後指導を含めた職場体験を実施し、特に事後学習では、体験をスピーチとして互いに発表しあうことで、多様な他者の考えや立場を理解し、自分の考えを正確に伝えることができるようにしている。また、「入学文集」を振り返り、自分の成長を肯定的に捉え、将来への展望を「卒業文集」に表現させることで、今後の成長のために主体的に学ぼうとする力の育成を図っている。</p>
福岡市	学校	福岡市立片江小学校	<p>「人に自然にやさしく、未来を拓く片江っ子の育成」を学校教育目標に掲げ、豊かな心と自ら進んで学ぶ意欲を持ち、筋道を立てて考える子ども(かしこい子)、ねばり強く頑張るたくましい子ども(たくましい子)、明るく思いやりのある子ども(えがおの子)の育成に全職員が一丸となり取り組んでいる。</p> <p>また、学校が中心となった地域の特性を生かした継続的なキャリア教育の実践は、他の小学校におけるキャリア教育の啓発にもつながっている。</p> <p>【具体的な取組】</p> <p>「未来を拓く片江っ子」をテーマに、これまでの教育指導計画に、児童の発達段階に応じてキャリア教育の視点を生かした教育活動を、組織的・計画的に取り組んでいる。</p> <p>また、その取組を小中連携に生かしている。</p> <p>①特別活動にキャリア教育の視点を生かした取組の充実</p> <p>校内の異年齢交流によるキャリアの発達を促す「全校児童集会」</p> <p>1年生：参加して異年齢の友達と仲良く遊び助け合うことを学ぶ。</p> <p>2～4年生：自分の好きな遊びを基に学級で話し合い、遊び場を提供し、友達と協力して活動することを通して友達との関わりを深める。</p> <p>5～6年生：高学年として学校における自分の役割を自覚し、「児童集会」の企画・運営を行い、自分の役割や責任を果たす喜びを味わう。</p> <p>②総合的な学習の時間にキャリア教育の視点を生かした取組の充実</p> <p>地域の自然や地域の人との関わりを大切に、地域との関わりを通して自己の生き方につないで考え未来への希望を育む教育の充実</p> <p>3年生：「地域のすてきな人のひみつをさぐろう」</p> <p>身近な地域の人との関わりを通して、地域で働く人の姿や思いに学び、働くことの喜びや大切さに気づき、地域参画意識を高める。</p> <p>4年生：「二分の一成人式」</p> <p>自分史をまとめ、自分の成長を実感し、将来の夢や希望を持ち、家族や地域の人に向けてその気持ちと感謝の気持ちを表す。</p> <p>5年生：「片江の環境を守ろう」</p> <p>地域の問題に目を向け、自分たちに何ができるか、社会生活における自分たちの役割を地域の方たちと考え発信する。</p> <p>6年生：「見つけよう～夢、あこがれの自分～」</p> <p>自分が興味関心のある職業について、見学したりインタビューしたりして職業</p>

		<p>に対する意識を高める。自分の夢や希望を持ち、家族や地域の人に表す。</p> <p>③これらの学校の取組を中学校ブロックに公開、情報交換を行い、中学校のキャリア教育につなげている。</p> <p>※総合的な学習の時間の年間指導計画に、中学校の指導計画の概要を載せており、見通しを持って取り組んでいる。</p>
学校	福岡市立早良中学校	<p>「生きる力を身に付け、夢に向かってチャレンジする生徒」を学校教育目標に掲げ、夢を抱き、粘り強く挑戦する生徒、自他を尊重し、思いやりと感謝の心にあふれた生徒の育成に全職員が一丸となって取り組んでいる。</p> <p>【具体的な取組】</p> <p>「早良夢づくりプロジェクト」の推進</p> <p>●3年間を見通した計画的・組織的なキャリア教育の推進</p> <p>・各学年の目指す姿を明確にし、啓発的な体験学習を通してキャリア能力の育成を図っている。</p> <p>1年・・・社会人講話・職業調べ・高校出前授業</p> <p>2年・・・高等学校や専門学校に関する調べ学習・職場体験・立志式</p> <p>3年・・・上級学校訪問（大学・専門学校）・出前授業</p> <p>※「立志式」とは、平成24年度よりすべての中学校で実施されている行事。各学校が創意工夫を生かしながら、独自の行事としている。特に当該校は、個人や学級、学年で思いを表す「漢字一字」を書き表現。この取組は、本市のキャリア教育連絡会で全小・中・高等学校の担当者に発表され、大きな反響を呼んだ。</p> <p>●「進路だより」を活用し、生徒及び保護者のキャリア教育への関心を向上。</p> <p>●家庭・地域との連携</p> <p>・SKG（早良中学校学力向上推進協議会）を中心として、地域や小・中学校PTAと連携し、学びの風土を醸成。</p> <p>・ハローワークや地域企業と連携し、職場体験を充実。</p>
熊本市	学校 熊本市立三和中学校	<p>○平成24年度から、「自らを律し、自らの将来を切り拓く生徒の育成～キャリア教育の実践を通して～」という研究主題の下、基礎的・汎用的能力の育成を目指して、実践に取り組んでいる。</p> <p>○平成24年11月には、第49回全九州中学校進路指導研究大会熊本大会の会場校となり、キャリア教育の視点からの授業公開に各教科で取り組んだ。（10クラスで公開授業と授業研究会を行った。）また、七つある分科会の一つ「道徳教育と進路指導」部会の中で、「道徳教育における各指導項目とキャリア教育との関連をどのように図ればよいか」という研究課題での取組を発表した。</p> <p>○平成24年度・平成25年度は、熊本市教育委員会「教育課程」研究委嘱校としてキャリア教育をテーマとした研究に取り組み、その成果の発表として、平成25年11月20日(水)に研究発表会を実施。研究の重点は次の三つである。</p> <p>・生徒たちが将来への見通しを持ち、意欲的に学習に取り組めるようにするため、各教科等の年間計画を見直し、「基礎的・汎用的能力」を意識した授業改善に取</p>

			<p>り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちに生き方についての自覚を深めさせるために、活動前後の取組や活動内容を工夫し、職場体験活動を始めとする体験活動の充実を図った。 ・キャリア教育と道德の時間とを関連させた指導計画を作成し、体験活動を生かして道德的实践力を高める実践に取り組んだ。 <p>以上のことについて、組織的に取り組み、集団の中で他者と協働し、自分の役割を果たしていると感じている生徒や、自己肯定感を高めている生徒が増加傾向にあるなど成果が見られる。</p>
--	--	--	---